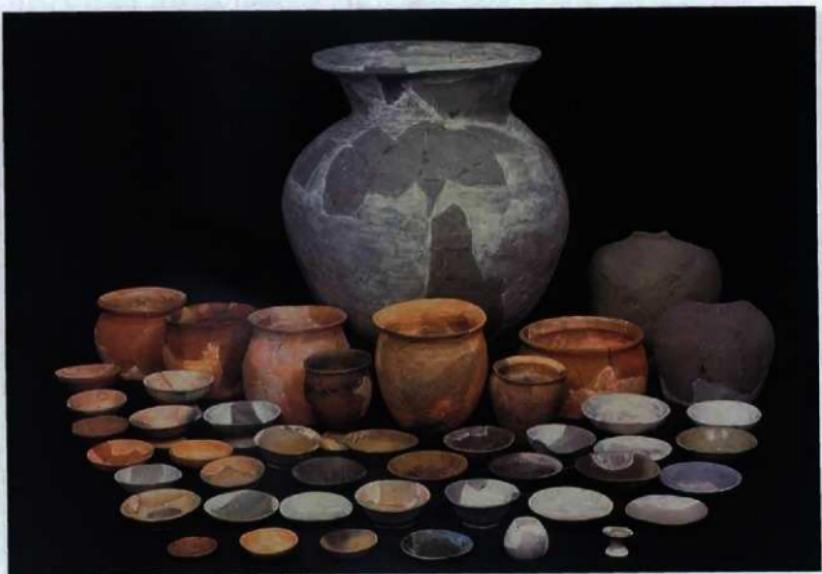


前田 V 遺跡

東善住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1. 前田V遺跡出土遺物



2. H-47号住居跡出土遺物

序

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋市は古代より豊かな文化あふれる地であり、東日本でも優れた内容を示しています。今から2万8千年前の旧石器を始めとして、8基を数える国史跡の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの、近代化遺産など多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代の人々が生活した跡が市内ほぼ全域に残されています。古代の人々が暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具や、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

現在、中内町周辺は広く水田が広がっていますが、北関東自動車道の建設などに伴い多くの新しい遺跡が発見され、地域の歴史解明に重要な資料となっています。

本年度の調査の前田V遺跡では、現在の水田下から平安時代の住居跡や貴重な遺物などが多数検出されました。

発掘調査にあたりまして、ご協力いただきました市工業課、前橋工業団地造成組合、地元関係者、酷暑の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成12年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 渡辺勝利

例　　言

1. 本報告書は、東善住宅団地拡張造成事業に伴う前田V遺跡発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の遺跡コードは11G41である。
3. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
4. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　　群馬県前橋市中内町155番1他
 発　　掘　　調　　査　　期　　間　平成11年9月22日～平成11年12月10日
 整　　理　　・　報　　告　　書　　作　　成　　期　　間　平成12年12月13日～平成12年3月24日
 発　　掘　　・　整　　理　　担　　当　　者　齊木一敏・山口宗男・吉沢貴

5. 本書の原稿執筆・編集は齊木・山口・吉沢が行った。
6. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
 石山日出男・大島きく江・品川成夫・須田隆治・鈴木民江・北爪雄作・高橋公代
 多田啓子・中林美智子・細野進太郎・堀込とよ江・松本美咲子・森田純子・山口純子
 吉田淑子・渡辺永造・桜井弘・高橋孜・中村新太郎・奈良岩雄・原田要三
 古沢実
7. 発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1. 指図中に使用した北は、座標北である。
2. 指図に建設省国土地理院発行の1/25,000、1/20,000地形図と前橋市現形図72 1/2,500を使用した。
3. 本発掘調査の略称は、11G41である。
4. 本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
 H…住居跡 W…溝跡 D…土坑 P…柱穴 I…井戸跡 O…落ち込み X…土器溜まり
5. 遗構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構　　住居跡・土坑・柱穴・井戸跡・溝跡…1/60　　竪断面図…1/30

遺物　　土器…1/3・1/4　　石器・石製品…1/3・1/4　　鉄器・鉄製品…1/3・1/4

6. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　焼土範囲…

灰　範　囲…

遺構断面図　構　染　面…

炭　化　物…

遺物実測図　施　釉　範　囲…

(スス付着など)

7. セクション注記の記号(○ ○)は粘性、縮まりの順である。

目 次

序	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の経過	
1 調査方針	5
2 調査経過	5
IV 基本層序	7
V 遺構と遺物	
1 竪穴住居跡	8
2 溝跡	16
3 土坑	21
4 柱穴	28
5 井戸跡	29
6 落ち込み	29
7 土器溜まり	29
8 グリッド等出土遺物	29
VI 考察	
1 遺構について	30
2 遺物について	31

図 版

- 口絵 1 主な出土遺物
2 H-47号住居跡 出土遺物
PL. 1 H-1・2号住居跡
2 H-3・4・22号住居跡、
H-5号住居跡周辺
3 H-5~10・44号住居跡、
4 H-11・12号住居跡
5 H-13~17・22号住居跡
H-18・19号住居跡
7 H-23~26・29・45号住居跡
8 H-27号住居跡、H-29号住居跡周辺
9 H-28・31・32号住居跡
10 H-33~35号住居跡
11 H-36・39号住居跡
12 H-39~43号住居跡
13 H-47号住居跡
14 W-1・2・5・7・8・10・13・14・17・
18号溝跡、I-1号井戸跡
15 H-39号住居跡周辺、D-71号土坑、土器溜
まり
16 H-1~5号住居跡 出土土器
17 H-5~10号住居跡 出土土器
18 H-10~18号住居跡 出土土器
19 H-18~39号住居跡 出土土器
20 H-40~47号住居跡 出土土器
21 H-47号住居跡、W-8号溝跡、
D-1・2・71号土坑 出土土器
22 H-5~10号住居跡 出土土器
23 出土鉄器・石製品・特殊遺物など

挿 圖

- Fig. 1 位置図
2 周辺遺跡図
3 グリッド設定図
4 調査経過図
5 標準土層図
6 H-1・2号住居跡
7 H-3・22・5・8号住居跡、
D-46号土坑
8 H-4・6・7・9号住居跡、
D-3・4号土坑
9 H-10・11・44号住居跡
10 H-11~13・15・16号住居跡、
D-33号土坑
11 H-14・21号住居跡
12 H-17・18号住居跡
13 H-19・20・23・45・24号住居跡
14 H-25~27号住居跡
15 H-28~30号住居跡
16 H-31~34号住居跡
17 H-35~38号住居跡、
D-66号土坑
18 H-39・40・42・46号住居跡
19 H-41・43・47号住居跡
20 W-1・2・5~7・10・11号溝跡、
D-31号土坑

表

- Tab. 1 周辺遺跡一覧表
2 土器観察表
3 石器・木製品・特殊遺物観察表
4 鉄器観察表
5 住居跡一覧表
6 窟跡一覧表
7 住居跡内部施設一覧表
8 溝跡計測表
9 土坑・井戸跡・落ち込み計測表

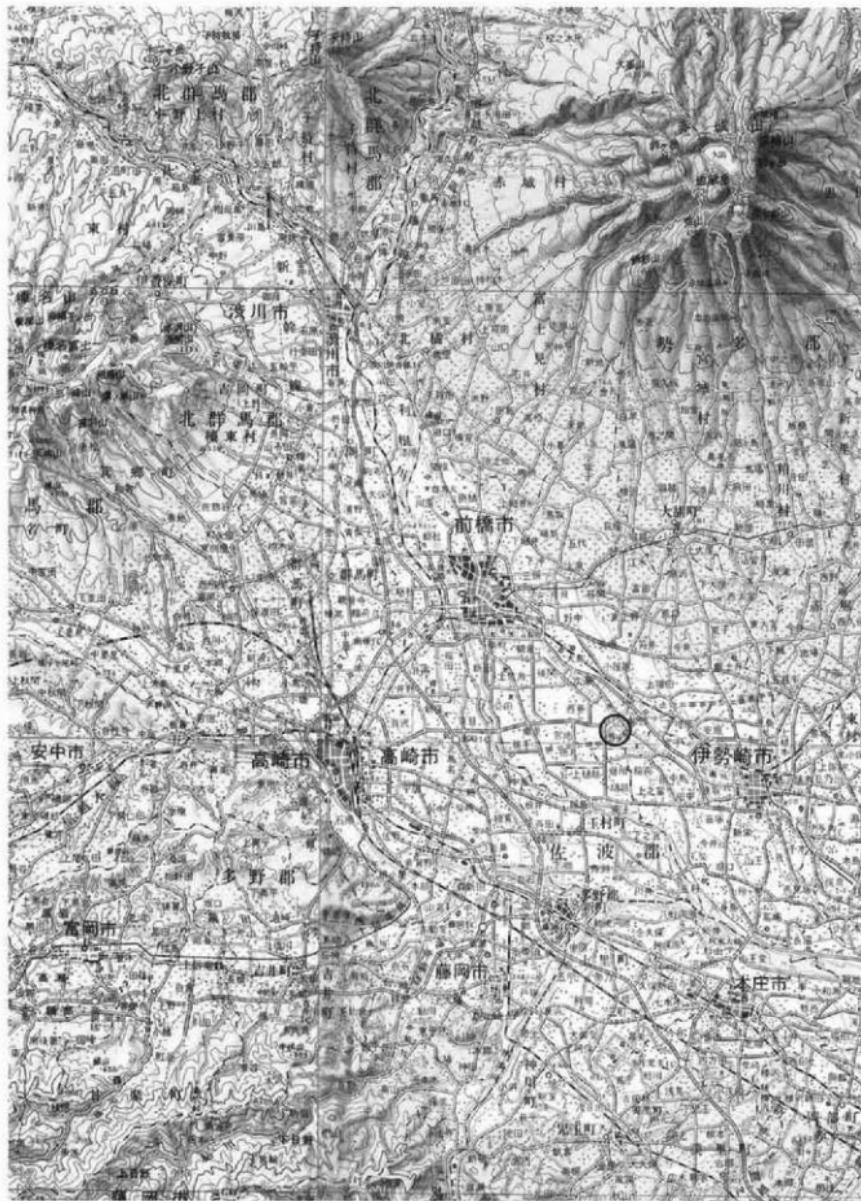


Fig. 1 位置図

I 調査に至る経緯

平成11年9月9日、前橋工業団地造成組合（管理者 萩原 弥悠治）より、東善住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受け同教育委員会で検討したところ、これまでの周辺遺跡の調査結果（前田遺跡、前田II・III・IV遺跡）を踏まえて本調査が必要であるとの結論が出された。9月16日、前橋市教育長より前橋工業団地造成組合に本調査実施の回答がなされた。また、同日、前橋市教育長より前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査團に本調査を実施するように通知された。これに基づき、前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査團が協議をおこなった。9月22日、両者の間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結され、10月5日に現地での発掘調査を開始するに至った。また、10月25日、前橋工業団地造成組合より調査面積の増加（4,021m²→8,246m²）の協議の申し入れがあり、両者協議の結果、11月15日、変更契約（委託契約料金の増額）を締結した。なお、遺跡名称「前田V遺跡」（遺跡コード：11G41）の「前田」は旧地籍の小字名を採用した。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前田V遺跡は前橋市の中心市街地から東南の方向約8kmの中内町地内の東善住宅団地拡張造成予定地の道路部分である。前橋市の地形は北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）、両者に挟まれた地溝状になった広瀬川低地帯（沖積低地）の3地域に分類でき、この辺りは広瀬低地帯と接する平坦な前橋台地の東端に位置する。そして、利根川、その支流の藤川や端気川、広瀬川の支流の蘿川らが流れ、水が豊富である。よって、以前は前橋市の藪倉地帯であった。現在も田畠が多く残っている。

現在の様子は、主要地方道高崎・駒形線が東西に走り、主要地方道藤岡・大胡線が南北に走っており、それらの交差する交通の要所である。また、すぐ南には現在建設中の北関東自動車道の工事が急ピッチで進められている。高崎・駒形線沿いには運送会社、倉庫、レストラン、食堂、自動車販売店、ガソリンスタンド等が並び、一歩道から中に入ると田畠が残っているものの住宅が建ち始めている。以前の田園地帯の開発、市街化が急速に進んできている。

2 歴史的環境

本遺跡が所在する前橋市の南部は、近年北関東自動車道やその関連事業、その他の開発に伴う埋蔵文化財発掘調査によりその歴史が明らかにされてきている。

弥生時代以前のものとしては、縄文時代の石器製作跡の検出された西善尺司遺跡、溝跡、土坑等の検出された徳丸仲田III遺跡がある。この時期の歴史については、遺構が検出された遺跡が少なく、今後の発掘調査が待たれるところである。

古墳時代に目を転じてみると、本遺跡のある前橋市南部はこの時期、前橋市の歴史の中心の一つであり、古くから広瀬川低地帯と接する前橋台地の縁にある旧市域から旧上陽村にわたり帶状に連

なる広瀬古墳群がある。昭和10年の調査では、169基の古墳が確認されている。しかし、戦前、戦中、戦後の開墾や宅地造成などにより、多くは調査せず平夷されてしまった。現在残されている古墳の中で代表的なものとしては、東日本最大の前方後方墳とされる八幡山古墳〈国指定史跡・4世紀後半〉、三角縁神獣鏡を始め出土遺物の多くが重要文化財に指定された東日本最古の前方後円墳とされる天神山古墳〈県指定史跡・4世紀後半〉、金銅製冠が出土した前方後円墳の金冠塚古墳〈市指定史跡・6世紀後半〉、亀の形を思わせる帆立貝式古墳の亀塚古墳〈市指定史跡・6世紀前半〉、円墳の経塚古墳〈市指定史跡・7世紀〉などがある。また、中内村前遺跡からは住居跡、水田跡、西善尺司・II遺跡からは方形周溝墓、住居跡、水田跡、徳丸仲田・II遺跡からは住居跡、後閣団地遺跡からは住居跡が検出されている。このようにみてみると、この辺りは周辺を治める権力者を中心に入々は水田を耕しながら生活していた様子が窺える。

次に奈良・平安時代についてであるが、この辺りでは、この時期の遺跡は住居跡と水田跡が主なものである。まず、住居跡の検出された遺跡としては、前田遺跡（前埋文）、前田遺跡（事業団）、前田II遺跡、前田III遺跡、前田IV遺跡、前田VI遺跡、中内村前遺跡、中内村前II遺跡、西善尺司遺跡、西善尺司II遺跡、徳丸仲田遺跡、徳丸仲田II遺跡、後閣団地遺跡、後閣II遺跡等がある。例えば、前田遺跡（事業団）と中内村前遺跡では約162軒と、多くの遺跡で集落跡が検出されている。また、水田跡としては、前田遺跡（前埋文）、前田遺跡（事業団）、中内村前遺跡、中内村前II遺跡、徳丸仲田遺跡、徳丸仲田III遺跡、後閣II遺跡、宮地中田遺跡等がある。As-B軽石によって埋没した水田跡では、条里地割りに基づいた水田跡や可能性のある水田跡が確認されている。よって、平安時代、人々が稻作をし、集団をなして生活していた様子が窺える。

中・近世の遺跡としては、環濠屋敷跡、環濠堀等が検出された前田遺跡（前埋文）、前田遺跡（事業団）、前田IV遺跡、西善尺司・II・III遺跡、徳丸仲田・III遺跡等がある。これ以外にも西善環濠遺構群や徳丸環濠遺構群、山王環濠集落跡、後閣大屋敷等、この遺跡の周辺には環濠屋敷跡があり、それが生かされている堀が現在も残されている。これらは、中世末頃頻発した戦乱に対応して、有力な農民が自衛のため屋敷の周囲に堀と土塁をめぐらす環濠屋敷を作ったようである。その後、上層の武士の館邸等に多く用いられるようになり、戦国末期になり数が多くなってきたようである。武士がそれらを発展させたのが城砦であり、力丸城址、阿内古城址等が残されている。

参考文献

前橋市	『前橋市史 第1巻』前橋市史編さん委員会	1971
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	『前田遺跡』	1990
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	『前田II遺跡』	1990
前橋市教育委員会	『前田III遺跡』	1994
群馬県埋蔵文化財調査事業団	『平成10年度事業概要 北関東自動車道（高崎～伊勢崎）埋蔵文化財発掘調査事業』	
新井 房夫編	『火山灰考古学』古今書院	1993



Fig. 2 周辺遺跡図

1 : 25,000

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	主な時代	主な遺構
1	前田Ⅴ遺跡	H11	本遺跡	
2	前田遺跡(前理工)	H3	平安時代	堅穴住居跡、溝跡、水田跡、土坑、柱穴等
3	前田遺跡(事業団)	H10・11	平安時代	住居跡、水田跡等
			中世	環壕屋敷跡、掘、溝跡、井戸跡、柱穴等
4	前田Ⅱ遺跡	H3	平安時代	堅穴住居跡、土坑、柱穴等
5	前田Ⅲ遺跡	H7	平安時代	堅穴住居跡、土坑等
6	前田Ⅳ遺跡	H10	平安時代	堅穴住居跡、溝跡、水田跡、土坑、柱穴等
7	前田Ⅵ遺跡	H11	中世	環濠等
			平安時代	堅穴住居跡、溝跡、水田跡、土坑、柱穴等
8	中内村前遺跡	H10	古墳時代	堅穴住居跡、掘立柱建物、水田跡、井戸跡等
			奈良・平安	住居跡、溝跡、水田跡等
9	中内村前Ⅱ遺跡	H10	中・近世	環壕屋敷跡、掘立柱建物、溝跡、土坑等
			平安時代	水田跡、溝跡、土坑、柱穴等
10	西善尺司遺跡	H10・11	绳文時代	石器製作跡等
			古墳時代	方形周溝墓、堅穴住居跡、水田跡、溝跡、井戸跡、土坑等
11	西善尺司Ⅱ遺跡	H9	奈良・平安	堅穴住居跡、掘立柱建物、水田跡、溝跡等
			中・近世	鋪跡、掘立柱建物、井戸跡、火葬墓、溝跡、土坑等
12	西善尺司Ⅲ遺跡	H10	古墳時代	方形周溝墓、木道遺構等
			平安時代	堅穴住居跡、土坑、溝跡等
13	徳丸仲田遺跡	H10	中・近世	土坑墓等
			古墳時代	堅穴住居跡、掘立柱建物跡、灌漑水路、井戸跡等
14	徳丸仲田Ⅱ遺跡	H9	平安時代	住居跡、水田跡等
			中・近世	葉研磨方形溝等
15	徳丸仲田Ⅲ遺跡	H10	古墳時代	掘立柱建物跡、土坑、溝跡等
			奈良・平安	堅穴住居跡、土坑、溝跡等
16	後園田遺跡	S57	弥生時代以前	溝跡、土坑、柱穴等
			平安時代	水田跡、土坑、柱穴等
17	後園Ⅱ遺跡	S58	中世	鉢跡等
			古墳時代	堅穴住居跡、石樁墓、土坑、溝跡等
18	宮地中田遺跡	H7	奈良時代	堅穴住居跡、井戸跡、溝跡等
			平安時代	水田跡等

- 19 木ノ宮遺跡 20 東田遺跡 21 経塚古墳 22 阿弥陀山古墳 23 文珠山古墳
 24 金冠塚古墳 25 亀塚山古墳 26 天神山古墳 27 坊山遺跡 28 八幡山古墳
 29 後園遺跡 30 後園大屋敷 31 飯玉ノ神社古墳 32 後園環壕集落 33 山王環壕集落
 34 上陽10号墳 35 西田Ⅱ遺跡 36 西田遺跡 37 野中天神遺跡 38 笠井八日市遺跡
 39 今井白山遺跡 40 今村城址 41 今村環壕遺跡群

III 調査の経過

1 方 法

委託された調査箇所は、東善住宅団地の拡張造成が計画されている地域の 6 m 道路になる部分の約1,500m²である。グリッドについては、4 m ピッチで西から東へX 0、X 1、X 2…と、北から南へY 0、Y 1、Y 2…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

前田V遺跡のX20・Y33の公共座標は次のとおりである。

第IX系	+37718.000 (X)	-62920.000 (Y)
緯度	36° 20' 16" 5552	経度 139° 07' 56" .4260
子午線収差角	24' 55", .4	増大率 0.999949

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易造り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竪は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、委託契約締結後10月5日より調査を開始した。まず、調査区全体にトレチを入れ、遺構の把握をした。その結果、住居跡、溝跡等が検出され、6日～8日にかけて重機（バックフォー0.4m³）を使い、全調査区の表土掘削を行った。8日から杭打ちを行い、鏝簾による遺構確認を行った。As-B純層、As-B混土層を剥がしたところで、As-C混黒色土の平安時代の遺構面が現れた。As-B混土層が厚く、遺構の確認に苦労をするところもあったが、住居跡約40軒、溝跡約30条、土坑・柱穴等が約60基あることが認められた。

まず、As-B純層で埋まる大きいW-11号溝跡の東側から精査に取り掛かることにした。多いところでは4軒の住居跡の重複があつたりし、遺構の新旧関係がはっきりせず精査を始めるのに何度も鏝簾による遺構確認を行ったり、トレチを入れ確認しながらの精査になつたりと調査の状況を難しくしたが、効率よく調査を進めるように心がけた。また、天候にも恵まれ調査がはかどった。11月16日にW-11号溝跡の東側の調査を終了した。

次に、その西側の調査に取り掛かった。東側に比べると遺物の数量は少な目だったが、やはり住居跡の重複が多く、調査期間が当初の予定より伸びるうえで、作業員を6名増員した。18日には地元の山王小学校の6年生が現場見学と発掘体験にやってきた。現場見学では出土遺物の説明をしたり、体験では作業員と一緒に住居跡を精査したりした。特に、遺物が出土するとより興味を持って取り組んでいたようである。また、26日には春日中学校の2年生が職場体験学習に訪れ、発掘調査の現場を体験した。発掘調査の話、出土遺物の説明、住居跡の精査、溝跡の精査、図面作成を体験した。発掘の楽しさ、たいへんさ等多くのことを吸収して帰校した。12月3日、西側の調査が終了した。最終的に、住居跡47軒、土坑73基、柱穴3基、溝跡36条等の検出ができた。7日、ハイライズによる全体撮影をした。

その後、20日まで現地プレハブで土器洗い、図面整理等を行った。12日には東善町・中内町自治

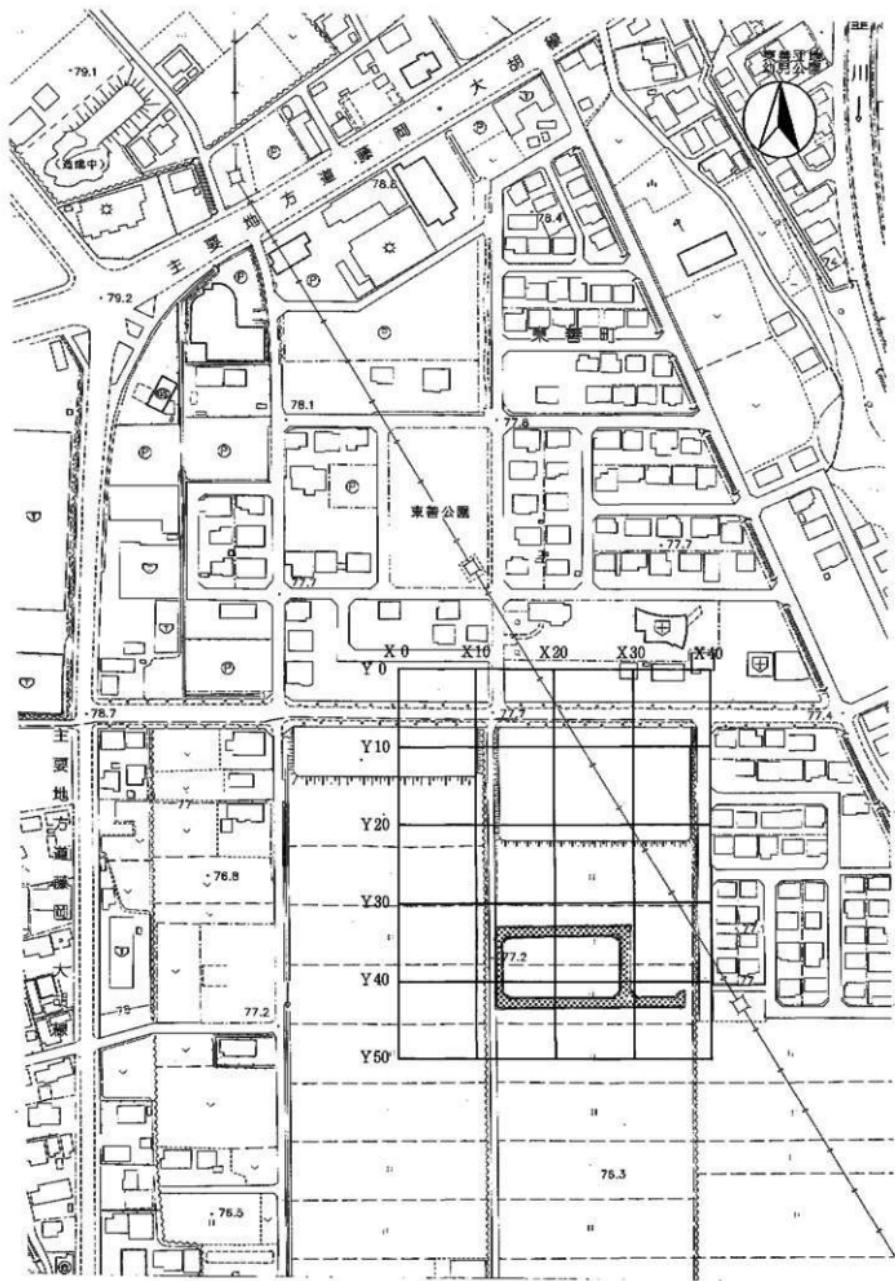


Fig. 3 グリッド設定図

会の遺跡見学及び学習会が開かれ、お年寄りからこどもまでの約35名の地元の人たちが訪れた。自分たちの住んでいる土地の下から出た遺跡ということで興味を持って来た人が多かったようである。15日に重機（ブルトーザー：D6）、16日に重機（バックフォー0.4m³）を使用し、調査区の埋め戻しを行った。21日より文化財保護課に戻り、整理作業に取り組み、3月24日までに完成させる運びとなった。

調査区	10月	11月	12月	表土掘削	写真撮影・図面作成
W-11号溝跡東側	[Hatched]		[Hatched]	[Hatched]	遺構確認
W-11号溝跡西側	[Hatched]	[Hatched]	[Hatched]	[Hatched]	遺構全体撮影
				[Hatched]	遺構掘下

Fig. 4 調査経過図

V 基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、Fig. 5 のとおりである。

- 1 灰黄褐色土 (10YR5/2) 耕作土
- 2 明赤褐色土 (5 YR5/8) 粘性無し、締まり有り。
φ 0.5~1 mm の As-B 軽石を 5% 含む。鉄分沈殿 (班鉄) 層。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性無し、締まり有り。
φ 0.5~1 mm の As-B 軽石を 15% 含む。
- 4 明褐色土 (7.5YR5/6) 粘性無し、締まり有り。
φ 0.5~1 mm の As-B 軽石を 10% 含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性・締まりをやや有する。
φ 0.5~1 mm の As-B 軽石を 10% 含む。As-B混土層
- 6 黒色土 (10YR2/1) 粘性・締まりをやや有する。
φ 1~5 mm の As-C 軽石を 10% 含む。As-C混土層
- 7 黒色土 (10YR2/1) 粘性・締まりをやや有する。φ 1~5 mm の As-C 軽石を 2~3% 含む。
- 8 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性有り、締まりをやや有する。ロームへの漸移層。
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性有り、締まりをやや有する。細砂を 10% 含む。
- 10 灰黄褐色粗砂 (10YR6/2) 粘性無し、締まりをやや有する。φ 10~20 mm の円礫を 5%、φ 10~20 mm の浅黄橙色 (10YR8/4) 軽石を 10% 含む。褐色 (7.5YR4/6) 斑点がみられる。
- 11 にぶい黄橙色細砂 (10YR7/2) 粘性無し、締まりをやや有する。褐色 (7.5YR4/6) 斑点がみられる。
- 12 にぶい黄橙色粗砂 (10YR7/2) 粘性無し、締まり有り。φ 5 mm の円礫を 30% 含み、極暗赤褐色 (5 YR2/4) 斑点が多くみられ硬化している。
- 13 浅黄色シルト (5 YR7/4) 粘性やや有り、締まり無し。

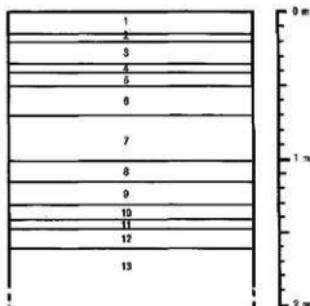


Fig. 5 標準土層図

V 遺跡の概要

※計測値については、()は現存値、[]は復元値を表わす。

1 積穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 6、PL. 1)

位置 X29・30、Y41・42グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 長方形と推定される。東西3.27m、南北3.98m、壁現高22cmを測る。面積(12.58)m² 床面 平坦で、竈周辺が部分的に堅緻な床面 竈 東壁より検出され、主軸方向がN-86°-Wであり、全長75cm、最大幅64cm、焚口部幅27cmを測る。石が袖と支脚の構築材として使用されている。重複 H-2と重複し、新旧関係はH-2→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から11世紀代と考えられる。備考 本遺跡で唯一11世紀代と断定できる住居跡。土釜が出土した。出土遺物 総数1,526点。そのうち土器1点を図示した。

H-2号住居跡 (Fig. 6、PL. 1)

位置 X29~31、Y41・42グリッド 主軸方向 (N-92°-E) 形状等 方形と推定される。東西5.66m、南北3.35m、壁現高45cmを測る。面積(16.79)m² 床面 平坦な床面 竈 調査区外にみると推定される。重複 H-1とW-2と重複し、新旧関係はW-2→本遺構→H-1の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。備考 輪花椀か輪花皿と考えられる土器を出土した。出土遺物 総数1,382点。そのうち土器12点を図示した。

H-3号住居跡 (Fig. 7、PL. 2)

位置 X27、Y39・40グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 方形と推定される。東西0.50m、南北3.13m、壁現高23cmを測る。面積(1.73)m² 床面 平坦で堅緻な床面 竈 東壁中央部より検出され、主軸方向がN-94°-Eであり、全長80cm、最大幅115cm、焚口部幅45cmを測る。重複 H-22、W-5と重複し、新旧関係はH-22→本遺構、W-5→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。出土遺物 総数104点。そのうち土器1点を図示した。

H-4号住居跡 (Fig. 8、PL. 2)

位置 X29・30、Y42グリッド 主軸方向 N-87°-E 形状等 ゆがんだ方形と推定される。東西3.42m、南北1.82m、壁現高20cmを測る。面積(5.23)m² 床面 ほぼ平坦で堅緻な床面 竈 調査区外にみると推定される。重複 H-2、W-1、W-3、W-4と重複し、新旧関係はW-1→H-2→本遺構→W-4→W-3の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。出土遺物 総数590点。そのうち土器2点を図示した。

H-5号住居跡 (Fig. 7、PL. 3)

位置 X27・28、Y39~41グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 長方形と推定される。東西(3.82)m、南北5.19m、壁現高54cmを測る。面積(17.03)m² 床面 平坦な床面。貯蔵穴(円形、規模115×55cm、深さ44cm、出土遺物15点)を検出する。竈 調査区外にみると推定される。重複 H-8、D-28と重複しており、新旧関係はH-8→本遺構、D-28→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。出土遺物 総数2,943点。そのうち

土器17点を図示した。

H-6号住居跡 (Fig. 8、PL. 3)

位置 X27、Y41・42グリッド 主軸方向 N-91° - E 形状等 方形と推測される。東西(2.21)m、南北3.42m、壁現高4cmを測る。面積(5.04)m² 床面 平坦で、部分的に堅緻な床面 突 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-94° - Eであり、全長105cm、最大幅74cm、焚口部幅50cmを測る。重複 H-7、D-3、D-4、W-7と重複し、新旧関係は本遺構→H-7→W-7、本遺構→D-3・D-4の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数48点。そのうち土器3点を図示した。

H-7号住居跡 (Fig. 8、PL. 3)

位置 X26・27、Y41・42グリッド 主軸方向 N-84° - E 形状等 方形と推定される。東西(2.08)m、南北3.80m、壁現高6cmを測る。面積(5.04)m² 床面 ほぼ平坦で、部分的に窓周辺が堅緻な床面 突 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-92° - Eであり、全長(77)cm、最大幅110cm、焚口部幅88cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。重複 H-6、W-7と重複し、新旧関係はH-6→本遺構→W-7の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末から11世紀初頭と考えられる。出土遺物 総数19点。そのうち土器1点を図示した。

H-8号住居跡 (Fig. 7、PL. 3)

位置 X28、Y39グリッド 主軸方向 [N-78° - E] 形状等 方形と推定される。東西(2.75)m、南北(1.34)m、壁現高45cmを測る。面積(2.69)m² 床面 平坦な床面 突 調査区外にあると推定される。重複 H-5と重複し、新旧関係は本遺構→H-5の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数161点。そのうち土器1点を図示した。

H-9号住居跡 (Fig. 8、PL. 3)

位置 X28、Y37・38グリッド 主軸方向 N-92° - E 形状等 方形と推定される。東西(2.08)m、南北3.80m、壁現高33cmを測る。面積(7.47)m² 床面 平坦で堅緻な床面。D-1(楕円形)と推測される。規模100×82cm、深さ15cm、出土遺物4点)を検出する。突 調査区外にあると推定される。重複 H-44と重複し、新旧関係はH-44→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数440点。そのうち土器1点を図示した。

H-10号住居跡 (Fig. 9、PL. 3)

位置 X27・28、Y36・37グリッド 主軸方向 N-97° - E 形状等 長方形と推定される。東西(3.06)m、南北5.23m、壁現高50cmを測る。面積(15.58)m² 床面 ほぼ平坦で、窓周辺に堅緻な面が検出できる床面 突 東壁南寄りに一部が検出され、主軸方向がN-96° - Eであり、全長(35)cm、最大幅(94)cm、焚口部幅37cmを測る。重複 H-9、H-11、H-13、H-44と重複し、新旧関係はH-44→H-9→本遺構→H-11、本遺構→H-13→H-11の順である。時期 埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。備考 突を含めその周辺の床、壁に粘土を層状に貼り補強している様子が窺える。出土遺物 総数2,082点。そのうち土器15点を図示した。

H-11号住居跡 (Fig. 9、PL. 4)

位置 X27・28、Y36・37グリッド 主軸方向 N-69° - E 形状等 正方形。東西3.43m、南北3.12m、壁現高28cmを測る。面積 9.77m² 床面 平坦で、窓周辺に粘土が貼ってあり堅緻な

床面。D-1（円形、規模70×67cm、深さ21cm）を検出する。竈 東壁南隅より検出され、主軸方向がN-103°-Eであり、全長33cm、最大幅88cm、焚口部幅40cmを測る。石が袖や支脚の構築材として使用されている。重複 H-10、H-12、H-13と重複し、新旧関係はH-10→H-13→本遺構、H-12→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

備考 住居内全面より多数の石が検出された。使われなくなった住居に石が投げ込まれたものではないかと考えられる。出土遺物 総数1,330点。そのうち土器6点を図示した。

H-12号住居跡 (Fig. 10, PL. 4)

位置 X27・28、Y35・36グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 ゆがんだ方形と推定される。東西(1.58)m、南北4.72m、壁現高10cmを測る。面積(6.00)m² 床面 平坦で、竈周辺に粘土が貼ってあり堅硬な床面 竈 東壁中央部より検出され、主軸方向がN-87°-Eであり、全長92cm、最大幅82cm、焚口部幅60cmを測る。粘土が構築材として使用されている。重複 H-11と重複し、新旧関係は本遺構→H-11の順である。時期 墓土や出土遺物から9世紀前半から中頃と考えられる。出土遺物 総数115点。そのうち土器1点を図示した。

H-13号住居跡 (Fig. 10, PL. 5)

位置 X28、Y35・36グリッド 主軸方向 N-83°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.67)m、南北3.95m、壁現高40cmを測る。面積(5.80)m² 床面 平坦な床面 竈 調査区外にあると推定される。重複 H-10、H-15と重複し、新旧関係はH-10→本遺構、H-15→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。出土遺物 総数273点。そのうち土器2点を図示した。

H-14号住居跡 (Fig. 11, PL. 5)

位置 X25~27、Y32・33グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 長方形と推定される。東西(1.67)m、南北3.85m、壁現高9cmを測る。面積(10.94)m² 床面 平坦な床面。D-1（円形と推定される。規模60×(48)cm、深さ23cm）を検出する。竈 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-76°-Eであり、全長100cm、最大幅70cm、焚口部幅50cmを測る。石が支脚と袖の構築材として使用されている。重複 W-8と重複しており、新旧関係は本遺構→W-8の順である。時期 墓土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。備考 床面の直上の広い範囲に焼土、炭化物があり、焼失住居跡と思われる。付け替えられる前の古い竈が東壁中央部より検出された。出土遺物 総数191点。そのうち土器8点を図示した。

H-15号住居跡 (Fig. 10, PL. 5)

位置 X28、Y35グリッド 主軸方向 [N-86°-E] 形状等 方形と推定される。東西(0.85)m、南北(1.85)m、壁現高42cmを測る。面積(1.26)m² 床面 平坦な床面 竈 調査区外にあると推定される。重複 H-13、H-16と重複し、新旧関係は本遺構→H-13、H-16→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。出土遺物 総数58点。そのうち土器2点を図示した。

H-16号住居跡 (Fig. 10, PL. 5)

位置 X28、Y34・35グリッド 主軸方向 N-94°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.18)m、南北3.28m、壁現高35cmを測る。面積(3.25)m² 床面 平坦な床面 竈 調査区外にあると推

定される。重複 H-15、D-33と重複し、本遺構→H-15、本遺構→D-33の順である。時期 重複関係から10世紀前半からAs-B降下の間の遺構と考えられる。出土遺物 総数193点。

H-17号住居跡 (Fig. 12, PL. 5)

位置 X27・28、Y33-35グリッド 主軸方向 N-94° - E 形状等 ゆがんだ方形と推定される。東西(1.88) m、南北3.25 m、壁現高16 cmを測る。面積(3.82) m² 床面 平坦で、部分的に堅密な床面 窓 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-84° - Eであり、全長80 cm、最大幅95 cm、焚口部幅48 cmを測る。粘土が構築材として使用されている。重複 D-42と重複し、新旧関係は本遺構→D-42の順である。時期 重複関係からAs-B降下以前の遺構と考えられる。出土遺物 総数296点。

H-18号住居跡 (Fig. 12, PL. 6)

位置 X27・28、Y32・33グリッド 主軸方向 N-91° - E 形状等 正方形。東西2.85 m、南北2.83 m、壁現高20 cmを測る。面積 7.50 m² 床面 平坦で堅密な床面。床下土坑(楕円形、規模130×50 cm、深さ13 cm)を検出する。窓 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-101° - Eであり、全長82 cm、最大幅75 cm、焚口部幅36 cmを測る。石が袖と支脚の構築材として使用されている。粘土も使用されている。重複 W-9と重複し、新旧関係は本遺構→W-9の順である。時期 埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。出土遺物 総数643点。そのうち土器11点を図示した。

H-19号住居跡 (Fig. 13, PL. 6)

位置 X28、Y32・33グリッド 主軸方向 N-94° - E 形状等 方形と推定される。東西(2.27) m、南北3.28 m、壁現高40 cmを測る。面積(6.11) m² 床面 平坦で堅密な床面。D-1(楕円形と推定される。規模82×(45) cm、深さ33 cm)を検出する。窓 調査区外にあると推定される。重複 H-20と重複し、新旧関係はH-20→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数483点。そのうち土器4点を図示した。

H-20号住居跡 (Fig. 13)

位置 X28、Y33グリッド 主軸方向 [N-87° - E] 形状等 一部分の検出のため平面形状は不明 東西(0.75) m、南北(0.57) m、壁現高28 cmを測る。面積(0.55) m² 床面 ほぼ平坦な床面 窓 調査区外と推定される。重複 H-19と重複し、本遺構→H-19の順である。時期 重複関係から10世紀中頃以前の遺構と考えられる。出土遺物 総数0点

H-21号住居跡 (Fig. 11, PL. 5)

位置 X26・27、Y33グリッド 主軸方向 N-65° - E 形状等 方形と推定される。東西(0.90) m、南北(1.23) m、壁現高14 cmを測る。面積(0.66) m² 床面 平坦な床面 窓 一部分の検出であるが東壁より検出され、主軸方向がN-52° - Eであり、全長(30) cm、最大幅(50) cm、焚口部幅(22) cmを測る。重複 なし 時期 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。出土遺物 総数24点。

H-22号住居跡 (Fig. 7, PL. 2)

位置 X27、Y40グリッド 主軸方向 N-90° - E 形状等 一部分の検出のため平面形状は不

明。東西(0.19)m、南北(1.95)m、壁現高10cmを測る。面積(0.86)m²床面平坦で堅敏な床面。竈 東壁より検出。主軸方向はN-92°-Eであり、全長90cm、最大幅80cm、焚口部幅50cmを測る。重複 H-3、D-46と重複し、新旧関係は本遺構→H-3、本遺構→D-46の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。出土遺物 総数117点。そのうち土器5点を図示した。

H-23号住居跡 (Fig. 13, PL. 7)

位置 X19・20、Y42グリッド 主軸方向 N-78°-E 形状等 一部分の検出のため平面形状は不明 東西3.48m、南北(0.98)m、壁現高18cmを測る。面積(1.87)m²床面平坦な地山の床面。P-1(円形、規模56×50cm、深さ13cm)を検出する。竈 H-45に切られたと考えられる。重複 H-45と重複し、新旧関係は本遺構→H-45の順である。時期 埋土や出土遺物から9世紀後半から終末と考えられる。出土遺物 総数75点。そのうち土器1点を図示した。

H-24号住居跡 (Fig. 13, PL. 7)

位置 X18・19、Y41・42グリッド 主軸方向 N-58°-E 形状等 方形と推定される。東西3.45m、南北(3.01)m、壁現高4cmを測る。面積(5.96)m²床面平坦な地山の床面 竈 調査区外にあると推定される。重複 なし 時期 不明 出土遺物 総数11点。

H-25号住居跡 (Fig. 14, PL. 7)

位置 X14・15、Y41・42グリッド 主軸方向 N-60°-E 形状等 方形と推定される。東西3.45m、南北(2.35)m、壁現高6cmを測る。面積(4.59)m²床面平坦で堅敏な床面 竈 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-83°-Eであり、全長70cm、最大幅(68)cm、焚口部幅(57)cmを測る。重複 なし 時期 埋土や出土遺物から9世紀後半以降と考えられる。出土遺物 総数32点。そのうち土器2点を図示した。

H-26号住居跡 (Fig. 14, PL. 7)

位置 X13・14、Y41・42グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 方形と推定される。東西2.88m、南北(1.67)m、壁現高40cmを測る。面積(4.50)m²床面平坦で堅敏な床面 竈 東壁より検出され、主軸方向がN-81°-Eであり、全長66cm、最大幅73cm、焚口部幅47cmを測る。重複 W-25と重複し、新旧関係は本遺構→W-25の順である。時期 埋土や出土遺物から9世紀代と考えられる。出土遺物 総数55点。そのうち土器2点を図示した。

H-27号住居跡 (Fig. 14, PL. 8)

位置 X12、Y40・41グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 正方形。東西3.00m、南北3.50m、壁現高32cmを測る。面積 9.75m²床面平坦で堅敏な床面。D-1(不整形、規模101×90cm、深さ12cm)を検出する。竈 東壁中央部から検出され、主軸方向がN-82°-Eであり、全長110cm、最大幅112cm、焚口部幅57cmを測る。重複 なし 時期 埋土や出土遺物から9世紀終末から11世紀初頭と考えられる。備考 竈の両脇に棚があり。出土遺物 総数116点。そのうち土器6点を図示した。

H-28号住居跡 (Fig. 15, PL. 9)

位置 X11、Y42グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.18)m、

南北3.72m、壁現高25cmを測る。面積(4.24)m²床面平坦な床面竈東壁より検出され、主軸方向がN-67°-Eであり、全長100cm、最大幅78cm、焚口部幅48cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。重複W-27と重複し、新旧関係は本遺構→H-28の順である。時期埋土や出土遺物から9世紀中頃と考えられる。出土遺物総数106点。そのうち土器3点を図示した。

H-29号住居跡 (Fig. 15, PL. 7)

位置 X11・12、Y40・41グリッド 主軸方向 N-81°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.55)m、南北3.28m、壁現高25cmを測る。面積(7.41)m²床面平坦で、部分的に堅緻な床面。P-1(楕円形)と推定される。規模50cm×(30)cm、深さ23cm)を検出する。竈東壁南隅より検出され、主軸方向がN-88°-Eであり、全長110cm、最大幅112cm、焚口部幅57cmを測る。石が袖の構築材として使用されている。重複なし 時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。出土遺物総数118点。そのうち土器3点を図示した。

H-30号住居跡 (Fig. 15)

位置 X11・12、Y39・40グリッド 主軸方向 N-92°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.21)m、南北3.19m、壁現高28cmを測る。面積(3.46)m²床面平坦で部分的に堅緻な床面竈調査区外にあると推定される。重複 H-47と重複し、新旧関係はH-47→本遺構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。出土遺物総数60点。そのうち土器1点を図示した。

H-31号住居跡 (Fig. 16, PL. 9)

位置 X11、Y39グリッド 主軸方向 [N-96°-E] 形状等 一部分の検出のため平面形状は不明。東西(0.62)m、南北(2.56)m、壁現高14cmを測る。面積(1.01)m²床面平坦で堅緻な床面竈東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-86°-Eであり、全長55cm、最大幅52cm、焚口部幅30cmを測る。重複 H-32、H-33、H-47と重複し、新旧関係はH-47→H-32→本遺構→H-33の順である。時期 重複関係から10世紀終末の遺構と考えられる。出土遺物総数0点。

H-32号住居跡 (Fig. 16, PL. 9)

位置 X11、Y39・40グリッド 主軸方向 N-85°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.33)m、南北3.12m、壁現高19cmを測る。面積(2.86)m²床面ほぼ平坦で堅緻な床面竈東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-89°-Eであり、全長77cm、最大幅7cm、焚口部幅44cmを測る。重複 H-31、H-33、H-47と重複し、新旧関係はH-47→本遺構→H-31→H-33の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。出土遺物総数96点。そのうち土器3点を図示した。

H-33号住居跡 (Fig. 16, PL. 10)

位置 X11、Y38・39グリッド 主軸方向 N-82°-E 形状等 ゆがんだ方形と推定される。東西(1.66)m、南北4.32m、壁現高30cmを測る。面積(5.16)m²床面平坦で堅緻な床面。貯蔵穴(楕円形、規模(113)×100cm、深さ15cm)を検出する。竈東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-83°-Eであり、全長68cm、最大幅73cm、焚口部幅45cmを測る。粘土が構築材とし

て使用されている。重複 H-31、H-32、H-47と重複し、新旧関係はH-47→H-32→H-31→本造構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。出土遺物 総数74点。そのうち土器1点を図示した。

H-34号住居跡 (Fig. 16, PL. 10)

位置 X11・12、Y38・39グリッド 主軸方向 N-88° - E 形状等 方形と推定される。東西(2.71)m、南北3.46m、壁現高13cmを測る。面積(8.07)m² 床面 平坦で堅緻な床面 電 調査区外にあると推定される。重複 H-33と重複し、新旧関係はH-33→本造構の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末から11世紀初頭と考えられる。出土遺物 総数200点。そのうち土器3点を図示した。

H-35号住居跡 (Fig. 17, PL. 10)

位置 X11・12、Y37・38グリッド 主軸方向 N-90° - E 形状等 少しゆがんだ正方形。東西(3.08)m、南北3.48m、壁現高12cmを測る。面積(9.78)m² 床面 平坦で堅緻な床面 電 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-110° - Eであり、全長56cm、最大幅56cm、焚口部幅30cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。重複 H-36、D-66と重複し、新旧関係はH-36→本造構→D-66の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。出土遺物 総数306点。そのうち土器3点を図示した。

H-36号住居跡 (Fig. 17, PL. 11)

位置 X11・12、Y36・37グリッド 主軸方向 N-79° - E 形状等 方形と推定される。東西(1.60)m、南北(3.45)m、壁現高8cmを測る。面積(4.15)m² 床面 平坦で堅緻な床面 D-1 (方形と推定される) 規模100cm×(95cm)、深さ8cmを検出する。電 調査区外にあると推定される。重複 H-35と重複し、新旧関係は本造構→H-35の順である。時期 埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。出土遺物 総数18点。そのうち土器2点を図示した。

H-37号住居跡 (Fig. 17, PL. 11)

位置 X11、Y35グリッド 主軸方向 N-93° - Eと推定される。形状 方形と推定される。東西(1.18)m、南北(2.16)m、壁現高15cmを測る。面積(2.38)m² 床面 平坦で堅緻な床面 電 東壁より検出され、主軸方向がN-95° - Eであり、全長67cm、最大幅65cm、焚口部幅52cmを測る。重複 H-38、H-39と重複し、新旧関係は本造構→H-38→H-39の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。出土遺物 総数67点。そのうち土器2点を図示した。

H-38号住居跡 (Fig. 17, PL. 11)

位置 X11・12、Y34・35グリッド 主軸方向 N-87° - Eと推定される。形状等 方形と推定される。東西(1.75)m、南北(2.33)m、壁現高6cmを測る。面積(3.43)m² 床面 平坦で堅緻な床面 電 調査区外にあると推定される。重複 H-37、H-39と重複し、新旧関係はH-37→本造構→H-39の順である。時期 重複関係から10世紀後半から終末の遺構と考えられる。出土遺物 総数20点

H-39号住居跡 (Fig. 18, PL. 11)

位置 X11・12、Y34・35グリッド 主軸方向 N-88°-E 形状等 方形と推定される。東西(3.20)m、南北3.97m、壁現高24cmを測る。面積(12.79)m² 床面 平坦で堅緻な床面。貯蔵穴(円形、規模56cm×50cm、深さ31cm)とD-1(円形と推定される。規模63cm×(53)cm、深さ37cm)を検出する。竈 東壁南隅より検出され、主軸方向がN-93°-Eであり、全長(50)cm、最大幅62cm、焚口部幅35cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。重複 新旧関係はH-37、H-38、H-40、H-41、H-47と重複し、H-37→H-38→本遺構、H-41→本遺構、H-4→0→本遺構→H-46の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。出土遺物 総数728点。そのうち土器3点を図示した。

H-40号住居跡 (Fig. 18, PL. 12)

位置 X11、Y33・34グリッド 主軸方向 N-86°-E 形状等 方形と推定される。東西(1.85)m、南北[2.23]m、壁現高20cmを測る。面積(3.82)m² 床面 平坦で堅緻な床面 竈 東壁より検出され、主軸方向がN-86°-Eであり、全長70cm、最大幅75cm、焚口部幅60cmを測る。石が支脚の構築材として使用されている。重複 H-39と重複し、新旧関係は本遺構→H-39→H-46の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀終末と考えられる。出土遺物 総数186点。そのうち土器4点を図示した。

H-41号住居跡 (Fig. 19, PL. 12)

位置 X11・12、Y33・34グリッド 主軸方向 N-82°-Eと推定される。形状等 方形と推定される。東西(2.78)m、南北(2.83)m、壁現高15cmを測る。面積(4.13)m² 床面 平坦な堅緻な床面 竈 調査区外にあると推定される。重複 H-39、W-29と重複し、新旧関係は本遺構→H-39→W-29の順である。時期 重複関係から10世紀終末以前の遺構と考えられる。出土遺物 総数4点。

H-42号住居跡 (Fig. 18, PL. 12)

位置 X11、Y32・33グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 方形と推定される。東西(2.09)m、南北2.98m、壁現高23cmを測る。面積(6.15)m² 床面 平坦で堅緻な床面 竈 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-90°-Eであり、全長70cm、最大幅85cm、焚口部幅68cmを測る。重複 W-29と重複し、新旧関係は本遺構→W-29の順である。時期 埋土や出土遺物から10世紀中頃と考えられる。出土遺物 総数155点。そのうち土器4点を図示した。

H-43号住居跡 (Fig. 19, PL. 12)

位置 X14・15、Y32・33グリッド 主軸方向 N-89°-E 形状等 方形と推定できる。東西2.99m、南北(2.72)m、壁現高10cmを測る。面積(7.83)m² 床面 平坦で堅緻な床面。貯蔵穴(楕円形、規模48cm×40cm、深さ15cm)とD-1(円形、規模45cm×43cm、深さ26cm)を検出する。竈 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-92°-Eであり、全長58cm、最大幅75cm、焚口部幅52cmを測る。重複 なし 時期 埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。出土遺物 総数53点。そのうち土器2点を図示した。

H-44号住居跡 (Fig. 9, PL. 3)

位置 X28、Y37グリッド 主軸方向 N-80°-Eと推定される。形状等 一部分の検出のため平面形状は不明。東西(0.85)m、南北(1.54)m、壁現高23cmを測る。面積(1.20)m² 床面

平坦な床面 窟 H-9とH-10に切られ欠損 重複 H-9、H-10と重複し、新旧関係は本遺構→H-10→H-9の順ある。 時期 墓土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。 出土遺物 総数54点。そのうち土器3点を図示した。

H-45号住居跡 (Fig. 13, PL. 7)

位置 X19~21、Y42グリッド 主軸方向 N-73° - E 形状等 ゆがんだ方形と推定できる。東西3.90m、南北(2.47)m、壁現高40cmを測る。面積(6.31)m² 床面 平坦な地山の床面 窟 東壁より検出され、主軸方向がN-79° - Eであり、全長(82)cm、最大幅(74)cm、焚口部幅(55)cmを測る。重複 H-23と重複し、新旧関係はH-23→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から9世紀終末と考えられる。出土遺物 総数96点。そのうち土器9点を図示した。

H-46号住居跡 (Fig. 18)

位置 X11、Y34グリッド 面積(0.17)m² 窟 主軸方向がN-82° - Eであり、全長(40)cm、最大幅(50)cm、焚口部幅(25)cmを測る。重複 H-39、H-40と重複し、新旧関係はH-40→H-39→本遺構の順である。時期 墓土や出土遺物から10世紀中頃以降と考えられる。備考 本遺構は窓の一部分だけの検出である。出土遺物 総数37点。そのうち土器3点を図示した。

H-47号住居跡 (Fig. 19, PL. 13)

位置 X11、Y39・40グリッド 主軸方向 N-90° - E 形状等 長方形と推定される。東西2.67m、南北4.14m、壁現高34cmを測る。面積[9.70]m² 床面 平坦で堅綿な床面。貯蔵穴(不整形、規模52cm×46cm、深さ46cm)とD-1(正方形、規模55cm×53cm、深さ32cm)を検出する。窓 東壁南寄りより検出され、主軸方向がN-95° - Eであり、全長102cm、最大幅80cm、焚口部幅30cmを測る。石が支脚と袖の構築材として使用されている。重複 H-30、H-31、H-32、D-69と重複し、新旧関係はH-30→本遺構→H-32→H-31、本遺構→D-69の順である。時期 墓土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。出土遺物 総数502点。そのうち土器18点を図示した。

2 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig. 20, PL. 14)

位置 X28~35、Y41・42グリッド 方位 東壁よりN-77° - Eの方向で西へ9.72m進み、そこから西へN-90° の方向で18.68m進む。形状等 断面はU字形を呈し、上幅62~50cm、深さ28cm、長さ(28.46)mを測る。出土遺物 なし 時期 H-2に切られていることから、10世紀より前に存在していた溝と推定される。

W-2号溝跡 (Fig. 20, PL. 14)

位置 X32~35、Y41・42グリッド 方位 東壁よりN-89° - Eの方向で西へ7.76m進み、そこから湾曲しながら西へN-57° - Eの方向で4.79m進む。形状等 断面は梢円形を呈し、上幅261~96cm、深さ28cm、長さ(12.50)mを測る。出土遺物 なし 時期 Hr-FP軽石が埋土のことから、6世紀中頃以前に存在していた溝と推定される。

W-3号溝跡

位置 X27~29、Y37~42グリッド 方位 N-21° - W 形状等 断面は梢円形を呈し、上幅84

～34cm、深さ6cm、長さ(21.50)mを測る。出土遺物 総数27点 時期 土層等から土地改良前まで存在していた新しい溝だと推定される。備考 出土遺物については流れ込んだものと推定される。

W-4号溝跡

位置 X27～29、Y38～42グリッド 方位 N-28° -W 形状等 断面はU字形を呈し、上幅100～24、深さ7cm、長さ(19.40)mを測る。出土遺物 総数57点 時期 土層等から土地改良前まで存在していた新しい溝だと推定される。備考 出土遺物については流れ込んだものと推定される。

W-5号溝跡 (Fig.20、PL.14)

位置 X27・28、Y39グリッド 方位 N-88° -W 形状等 断面は楕円形を呈し、上幅73～66cm、深さ30cm、長さ(2.52)mを測る。出土遺物 総数2点 時期 H-3、H-8に切られていることから、10世紀中頃より前に存在していた溝と推定される。

W-6号溝跡 (Fig.20)

位置 X27・28、Y38グリッド 方位 N-77° -W 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅121～95cm、深さ42cm、長さ(4.98)mを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W-7号溝跡 (Fig.20、PL.14)

位置 X26・27、Y41・42グリッド 方位 N-25° -W 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅121～95cm、深さ42cm、長さ(4.98)mを測る。出土遺物 なし 時期 溝の中にAs-B混土が流れ込んでいることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W-8号溝跡 (Fig.21、PL.14)

位置 X25・26、Y32・33グリッド 方位 N-43° -E 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅160～129cm、深さ48cm、長さ(5.65)mを測る。出土遺物 総数372点。そのうち土器1点を図示した。時期 図示した須恵器の壺の破片が溝底部より出土したことから、8世紀後半から9世紀の間に存在していた溝と推定される。

W-9号溝跡 (Fig.21)

位置 X26～28、Y32・33グリッド 方位 N-62° -E 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅39～21cm、深さ16cm、長さ(9.22)mを測る。出土遺物 総数101点 時期 埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W-10号溝跡 (Fig.20、PL.14)

位置 X25・26、Y41・42グリッド 方位 N-33° -W 形状等 断面は楕円形を呈し、上幅152～127cm、深さ40cm、長さ(4.98)mを測る。出土遺物 総数104点 時期 埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定される。

W-11号溝跡北 (Fig.20)

位置 X15~19、Y32・33グリッド 方位 N-14° -W 形状等 断面は楕円形を呈し、上幅1330~1310cm、深さ88cm、長さ(4.40)mを測る。出土遺物なし 時期 土地改良前に存在していた溝と推定できる。

W-11号溝跡南 (Fig.20)

位置 X20~25、Y41・42グリッド 方位 N-40° -W 形状等 長さ5.50mを測る。出土遺物なし 時期 埋土から土地改良前に存在していた溝と推定できる。

W-12号溝跡 (Fig.12)

位置 X25・26、Y32・33グリッド 方位 N-39° -E 形状等 断面は逆台形を呈し、上幅26~21cm、深さ8cm、長さ(5.86)mを測る。出土遺物なし 時期 埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W-13号溝跡 (Fig.21、PL.14)

位置 X24・25、Y32・33グリッド 方位 N-26° -E 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅51~28cm、深さ18cm、長さ(5.01)mを測る。出土遺物なし 時期 埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W-14号溝跡 (Fig.21、PL.14)

位置 X24・25、Y32・33グリッド 方位 N-50° -W 形状等 断面は楕円形を呈し、上幅48~19cm、深さ6cm、長さ(3.83)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたので、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W-15号溝跡 (Fig.21)

位置 X22・23、Y32・33グリッド 方位 N-8° -W 形状等 断面は楕円形を呈し、上幅83~31cm、深さ17cm、長さ(4.51)mを測る。出土遺物 総数38点 時期 As-B混土層の下より検出されたので、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W-16号溝跡 (Fig.21)

位置 X22・23、Y32・33グリッド 方位 N-25° -W 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅85~51cm、深さ39cm、長さ(4.89)mを測る。出土遺物 総数11点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前に存在していた溝と推定できる。

W-17号溝跡北

位置 X21・22、Y32・33グリッド 方位 N-17° -W 形状等 上幅377~368cm、深さ(18)cm、長さ(4.48)mを測る。出土遺物なし 時期 埋土から土地改良前まで存在していた新しい溝と考えられる。

W-17号溝跡南

位置 X25・26、Y41・42グリッド 方位 N-18° -W 形状等 上幅280~150cm、長さ(4.58)mを測る。出土遺物なし 時期 埋土から土地改良前まで存在した新しい溝跡と考えられる。

W-18号溝跡 (Fig.21, PL.14)

位置 X20・21、Y32・33グリッド 方位 N-47° - W 形状等 断面は逆台形を呈し、上幅45~24cm、深さ20cm、長さ(5.15)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前に存在した溝と推定できる。

W-19号溝跡 (Fig.21)

位置 X27・28、Y35グリッド 方位 N-47° - W 形状等 断面は橈円形を呈し、上幅35~28cm、深さ9cm、長さ(3.76)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前に存在した溝と推定できる。

W-20号溝跡 (Fig.21)

位置 X25、Y42グリッド 方位 N-74° - E 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅82~67cm、深さ16cm、長さ(2.62)mを測る。出土遺物なし 時期 埋土がHr-FA軽石であることから、6世紀初頭以前に存在していた溝と推定できる。

W-21号溝跡 (Fig.22)

位置 X17・18、Y41・42グリッド 方位 N-37° - W 形状等 断面は橈円形を呈し、上幅70~50cm、深さ20cm、長さ(5.78)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W-22号溝跡 (Fig.22)

位置 X17・18、Y41・42グリッド 方位 N-35° - W 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅70~54cm、深さ26cm、長さ(5.56)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W-23号溝跡北 (Fig.23)

位置 X16~18、Y41・42グリッド 方位 N-37° - W 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅216~186cm、深さ82cm、長さ(6.35)mを測る。出土遺物 総数10点 時期 土地改良前まで存在していた新しい溝と推定できる。

W-24号溝跡 (Fig.22)

位置 X15・16、Y41グリッド 方位 N-63° - E 形状等 断面は橈円形を呈し、上幅39~19cm、深さ7cm、長さ(2.51)mを測る。出土遺物なし 時期 不明

W-25号溝跡 (Fig.21)

位置 X14・15、Y41・42グリッド 方位 北壁より南へN-26° - Eの方向で約3.4m進み、そこから東へN-69° - Eの方向で約4.8m進む。形状等 断面は橈円形を呈し、上幅55~26cm、深さ13cm、長さ(8.17)mを測る。出土遺物なし 時期 土地改良前まで存在していた新しい溝と推定できる。

W-26号溝跡 欠番

W-27号溝跡 (Fig. 22)

位置 X11、Y42グリッド 方位 N-21° -W 形状等 断面は梢円形を呈し、上幅24~18cm、深さ29cm、長さ(2.70)mを測る。出土遺物なし 時期 土地改良前まで存在していた新しい溝と推定できる。

W-28号溝跡 (Fig. 22)

位置 X11・12、Y41グリッド 方位 N-79° -E 形状等 断面はU字形を呈し、上幅38~27cm、深さ20cm、長さ(5.30)mを測る。出土遺物 総数5点 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W-29号溝跡 (Fig. 22)

位置 X11・12、Y32から34グリッド 方位 N-13° -W 形状等 断面は梢円形を呈し、上幅35~18cm、深さ6cm、長さ(8.20)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W-30号溝跡

位置 X11・12、Y36グリッド 方位 N-85° -W 形状等 断面は(U字形)を呈し、上幅50~35cm、深さ34cm、長さ(3.43)mを測る。出土遺物なし 時期 土地改良前に存在していた新しい溝と推定できる。

W-31号溝跡 (Fig. 22)

位置 X11・12、Y35・36グリッド 方位 N-80° -W 形状等 断面は逆台形を呈し、上幅111~95cm、深さ50cm、長さ(3.45)mを測る。出土遺物なし 時期 土地改良前に存在していた新しい溝と推定できる。

W-32号溝跡 (Fig. 22)

位置 X11・12、Y35グリッド 方位 N-84° -W 形状等 断面はU字形を呈し、上幅24~18cm、深さ7cm、長さ(3.41)mを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下より検出されたため、As-B降下以前の溝と推定できる。

W-33号溝跡 (Fig. 33)

位置 X12、Y32・33グリッド 方位 N-21° -E 形状等 上幅41~23cm、長さ(5.96)mを測る。出土遺物なし 時期 不明

W-34号溝跡 (Fig. 23)

位置 X12・13、Y32・33グリッド 方位 N-21° -E 形状等 断面は梢円形を呈し、上幅118~76cm、深さ23cm、長さ(5.20)mを測る。出土遺物 総数11点 時期 不明

W-35号溝跡 (Fig. 23)

位置 X18、Y41・42グリッド 方位 N-33° -W 形状等 断面はすり鉢形を呈し、上幅30~12cm、深さ19cm、長さ(3.42)mを測る。出土遺物 総数8点 時期 埋土にHr-FP軽石が含まれることから6世紀中頃より前に存在していた溝と推定できる。備考 埋土等からW-36とつな

がる可能性があると考えられる。

W-36号溝跡 (Fig.36)

位置 X13・14、Y33グリッド 方位 N-37° -W 形状等 断面は逆台形を呈し、上幅54~48cm、深さ27cm、長さ(3.10)mを測る。出土遺物なし 時期 埋土にHr-FP軽石が含まれることから6世紀中頃より前に存在した溝と推定できる。備考 埋土等からW-35につながる可能性があると考えられる。

3 土 坑

D-1号土坑 (Fig.24)

位置 X29・30、Y41グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸45cm、短軸35cm、深さ5cmを測る。出土遺物 総数27点 時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

D-2号土坑 (Fig.24)

位置 X29、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸56cm、短軸56cm、深さ16cmを測る。出土遺物 総数12点 時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

D-3号土坑

位置 X27、Y42グリッド 形状等 平面形状は菱形を呈し、長軸33cm、短軸32cm、深さ6cmを測る。出土遺物なし 時期 不明

D-4号土坑

位置 X30・31、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸57cm、短軸50cm、深さ34cmを測る。出土遺物 総数7点 時期 As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-5号土坑 (Fig.24)

位置 X30・31、Y41グリッド 形状等 平面形状は(橢円形)を呈し、長軸69cm、短軸(29)cm、深さ10cmを測る。出土遺物なし 時期 As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-6号土坑 (Fig.24)

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸81cm、短軸55cm、深さ8cmを測る。出土遺物 総数22点 時期 不明

D-7号土坑 (Fig.24)

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は(円形)を呈し、長軸27cm、短軸(21)cm、深さ5cmを測る。出土遺物なし 時期 不明

D-8号土坑 (Fig.24)

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸18cm、短軸14cm、深さ3cmを測る。出土遺物なし 時期 不明

D-9号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸14cm、短軸14cm、深さ 3 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-10号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は橭円形を呈し、長軸15cm、短軸10cm、深さ 3 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-11号土坑

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸10cm、短軸10cm、深さ 4 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-12号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y41・42グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸79cm、短軸44cm、深さ 9 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-13号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸17cm、短軸15cm、深さ 8 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-14号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸18cm、短軸17cm、深さ 5 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-15号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y41グリッド 形状等 平面形状は橭円形を呈し、長軸18cm、短軸12cm、深さ 3 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-16号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸12cm、短軸10cm、深さ 3 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-17号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸12cm、短軸14cm、深さ 2 cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-18号土坑 (Fig. 24)

位置 X27・28、Y41グリッド 形状等 平面形状は橭円形を呈し、長軸85cm、短軸85cm、深さ 6 cmを測る。出土遺物 総数11点 時期 不明

D-19号土坑 (Fig. 24)

位置 X27、Y41グリッド 形状等 平面形状は隅丸方形を呈し、長軸33cm、短軸21cm、深さ 5 cm

を測る。 出土遺物 なし 時期 不明

D-20号土坑 (Fig. 24)

位置 X27、Y41グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸13cm、短軸13cm、深さ 2 cmを測る。 出土遺物 なし 時期 不明

D-21号土坑 (Fig. 24)

位置 X27、Y40グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸13cm、短軸11cm、深さ 3 cmを測る。 出土遺物 なし 時期 不明

D-22号土坑 (Fig. 24)

位置 X28・29、Y41グリッド 形状等 平面形状は梢円形を呈し、長軸125cm、短軸98cm、深さ 26 cmを測る。 出土遺物 総数47点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-23号土坑 (Fig. 24)

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は隅丸方形を呈し、長軸174cm、短軸(54) cm、深さ 14cmを測る。 出土遺物 総数 7 点 時期 As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-24号土坑

位置 X28、Y42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸 9 cm、短軸 8 cm、深さ 4 cmを測る。 出土遺物 なし 時期 不明

D-25号土坑 欠番

D-26号土坑 (Fig. 24)

位置 X34、Y41グリッド 形状等 平面形状は（円形）を呈し、長軸150cm、短軸(72) cm、深さ 16cmを測る。 出土遺物 総数18点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-27号土坑 (Fig. 24)

位置 X27・28、Y39グリッド 形状等 平面形状は梢円形を呈し、長軸70cm、短軸51cm、深さ 8 cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-28号土坑 (Fig. 24)

位置 X27、Y40グリッド 形状等 平面形状は隅丸正方形を呈し、長軸79cm、短軸(52) cm、深さ (20) cmを測る。 出土遺物 総数98点 時期 As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-29号土坑 (Fig. 25)

位置 X28、Y39グリッド 形状等 平面形状は梢円形を呈し、長軸86cm、短軸73cm、深さ15cmを測る。出土遺物 総数23点 時期 不明

D-30号土坑 欠番

D-31号土坑 (Fig.20)

位置 X28、Y38グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸114cm、短軸110cm、深さ44cmを測る。出土遺物 なし 時期 不明

D-32号土坑 (Fig.25)

位置 X27、Y34・35グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸55cm、短軸47cm、深さ4cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-33号土坑 (Fig.10)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は菱形を呈し、長軸79cm、短軸66cm、深さ56cmを測る。出土遺物 総数21点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-34号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸40cm、短軸40cm、深さ6cmを測る。出土遺物 総数10点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-35号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は梢円形を呈し、長軸27cm、短軸21cm、深さ7cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-36号土坑 (Fig.25)

位置 X27、Y34グリッド 形状等 平面形状は梢円形を呈し、長軸39cm、短軸33cm、深さ20cmを測る。出土遺物 総数3点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-37号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y33グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸69cm、短軸64cm、深さ68cmを測る。出土遺物 総数54点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-38号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸72cm、短軸65cm、深さ14cmを測る。出土遺物 総数17点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土

坑と考えられる。

D-39号土坑 (Fig.25)

位置 X27・28、Y33グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸87cm、短軸64cm、深さ8cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下から検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-40号土坑 欠番

D-41号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸51cm、短軸39cm、深さ38cmを測る。出土遺物 総数16点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-42号土坑 (Fig.25)

位置 X27、Y33~33グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸87cm、短軸85cm、深さ6cmを測る。出土遺物 総数26点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-43号土坑 (Fig.25)

位置 X27、Y33グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸47cm、短軸44cm、深さ8cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-44号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y33グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸71cm、短軸62cm、深さ18cmを測る。出土遺物 総数5点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-45号土坑 (Fig.25)

位置 X27、Y33グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸30cm、短軸27cm、深さ15cmを測る。出土遺物 総数1点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-46号土坑 (Fig.7)

位置 X27、Y40グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸109cm、短軸71cm、深さ18cmを測る。出土遺物 総数5点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-47号土坑 (Fig.25)

位置 X27、Y32グリッド 形状等 平面形状は（橢円形）を呈し、長軸126cm、短軸90cm、深さ11cmを測る。出土遺物 総数2点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以

前の土坑と考えられる。

D-48号土坑 (Fig.25)

位置 X27・28、Y32グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸89cm、短軸82cm、深さ16cmを測る。 出土遺物 総数3点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-49号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y33・34グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸133cm、短軸58cm、深さ48cmを測る。 出土遺物 総数16点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-50号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸49cm、短軸40cm、深さ36cmを測る。 出土遺物 総数4点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-51号土坑 (Fig.25)

位置 X28、Y34グリッド 形状等 平面形状は（円形）を呈し、長軸120cm、短軸（98）cm、深さ6cmを測る。 出土遺物 総数1点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-52号土坑 (Fig.25)

位置 X19、Y41・42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸95cm、短軸78cm、深さ6cmを測る。 出土遺物 なし 時期 埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-53号土坑 (Fig.25)

位置 X18、Y41・42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸35cm、短軸35cm、深さ4cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-54号土坑 (Fig.25)

位置 X18、Y41グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸52cm、短軸38cm、深さ6cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-55号土坑

位置 X18、Y41グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸143cm、短軸76cm、深さ24cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-56号土坑 (Fig.25)

位置 X16・17、Y42グリッド 形状等 平面形状は椭円形を呈し、長軸91cm、短軸76cm、深さ3cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-57号土坑 (Fig.25)

位置 X16、Y42グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸(68)cm、短軸60cm、深さ8cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-58号土坑 (Fig.25)

位置 X16・17、Y42グリッド 形状等 平面形状は不整形を呈し、長軸82cm、短軸47cm、深さ9cmを測る。出土遺物 総数1点 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-59号土坑 (Fig.25)

位置 X15、Y42グリッド 形状等 平面形状は正方形を呈し、長軸71cm、短軸66cm、深さ3cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-60号土坑 (Fig.21)

位置 X15、Y42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸136cm、短軸140cm、深さ52cmを測る。出土遺物 総数9点 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-61号土坑 欠番

D-62号土坑 (Fig.25)

位置 X13、Y42グリッド 形状等 平面形状は(円形)を呈し、長軸96cm、短軸(50)cm、深さ12cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-63号土坑 (Fig.26)

位置 X12、Y42グリッド 形状等 平面形状は椭円形を呈し、長軸92cm、短軸65cm、深さ14cmを測る。出土遺物 総数2点 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-64号土坑 (Fig.26)

位置 X12・13、Y41・42グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸57cm、短軸78cm、深さ17cmを測る。出土遺物 総数3点 時期 As-B混層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-65号土坑

位置 X12、Y41グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸50cm、短軸21cm、深さ24cmを測る。 出土遺物 総数6点 時期 埋土がAs-B混土であることから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-66号土坑 (Fig.17)

位置 X11、Y37グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸110cm、短軸108cm、深さ19cmを測る。 出土遺物 なし 時期 不明

D-67号土坑 (Fig.26)

位置 X11、Y33グリッド 形状等 平面形状は円形を呈し、長軸95cm、短軸93cm、深さ15cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-68号土坑 (Fig.26)

位置 X15、Y42グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸51cm、短軸44cm、深さ4cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-69号土坑 (Fig.26)

位置 X11・12、Y39グリッド 形状等 平面形状は隅丸長方形を呈し、長軸145cm、短軸76cm、深さ17cmを測る。 出土遺物 総数2点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-70号土坑 (Fig.26)

位置 X19・20、Y41グリッド 形状等 平面形状は正方形を呈し、長軸142cm、短軸133cm、深さ30cmを測る。 出土遺物 総数28点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-71号土坑 (Fig.26, PL.15)

位置 X11・12、Y33グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸210cm、短軸(130)cm、深さ15cmを測る。 出土遺物 総数80点 時期 As-B混土層の下より検出されたことや出土遺物から、As-B降下以前の土坑と考えられる。

D-72号土坑 (Fig.26)

位置 X12、Y40・41グリッド 形状等 平面形状は(円形)を呈し、長軸83cm、短軸(44)cm、深さ42cmを測る。 出土遺物 総数6点 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前に存在した土坑と考えられる。

D-73号土坑

位置 X16、Y32グリッド 形状等 平面形状は橢円形を呈し、長軸(54)cm、短軸49cm、深さ13cmを測る。 出土遺物 なし 時期 As-B混土の遭構面となる土坑なので、As-B降下以降の土坑

と考えられる。 備考 馬の骨（歯骨）が検出された。

4 柱 穴

P-1号柱穴 (Fig. 26)

位置 X32、Y41グリッド 形状等 平面形状は（円形）を呈し、長軸46cm、短軸（39）cm、深さ18cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の柱穴と推定できる。備考 I-1号井戸跡に伴うものである可能性が考えられる。

P-2号柱穴 (Fig. 26)

位置 X32、Y41グリッド 形状等 平面形状は梢円形を呈し、長軸48cm、短軸42cm、深さ31cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の柱穴と推定できる。備考 I-1号井戸跡に伴うものである可能性が考えられる。

P-3号柱穴 (Fig. 26)

位置 X32、Y41グリッド 形状等 平面形状は長方形を呈し、長軸51cm、短軸44cm、深さ62cmを測る。出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の柱穴と推定できる。備考 I-1号井戸跡に伴うものである可能性が考えられる。

5 井戸跡

I-1号井戸跡 (Fig. 27、PL. 15)

位置 X32・33、Y41グリッド 形状等 平面形状は（方形）を呈し、長軸（155）cm、短軸（49）cm、深さ（200）cmを測る。出土遺物 総数218点 時期 埋土や出土遺物から9世紀終末から10世紀前半のものと思われる。

6 落ち込み

O-1号落ち込み

位置 X32・33、Y38グリッド 形状等 平面形状は不整形 出土遺物 総数83点 時期 不明
備考 出土遺物は流れ込みによるものと思われる。

O-2号落ち込み (Fig. 27)

位置 X34、Y41グリッド 形状等 平面形状は不整形 出土遺物 なし 時期 As-B混土層の下より検出されたことから、As-B降下以前の土坑と考えられる。

7 土器溜まり

X-1号土器溜まり (Fig. 27、PL. 15)

位置 X33、Y41グリッド 出土遺物 総数301点。そのうち土器8点を図示した。 時期 出土遺物から10世紀前半のものと考えられる。備考 井戸跡に関連する可能性が考えられる。

8 グリッド等出土遺物

小破片を含め総数4,787点の遺物を出土した。そのうち、土器6点を図示した。

VI 考 察

1 遺構について

現耕作土より約50cmほど掘り下げる浅間B降下(1108年)軽石混土層が検出され、その下より遺構面が確認された。土層や出土遺物から主に9世紀から11世紀の平安時代の集落跡遺跡であると考えられる。発掘の結果、竪穴住居跡47軒、溝跡36条、土坑73基、柱穴3基、井戸跡1基、落ち込み跡2基が検出された。それらについては、V遺構と遺物のところで遺構個々に説明してあり、ここでは各種遺構について総括的に考えてみたい。葬の前田VI遺跡の調査区より検出されたAs-B純層下の水田跡、水田よりも住居跡は高いところに構築されると考えられることから、当時の生活面は現在の遺構面より約20cm以上高いことが予想される。本遺跡は6mの道路部分の発掘調査であり、考察にも張りがあることを付け加えておきたい。

(1) 竪穴住居跡

埋土や出土遺物、重複関係から、9世紀代に構築されたと考えられる住居跡が7軒、9世紀終末から10世紀初頭と考えられる住居跡が1軒、10世紀代と考えられる住居跡が31軒、10世紀終末から11世紀初頭と考えられる住居跡が2軒、11世紀代と考えられる住居跡が1軒、時期を限定できない住居跡が5軒、計47軒が検出された。ここではある程度時期を限定できた住居跡について、時期ごとに住居跡の特徴等を考察したい。

9世紀代と考えられる住居跡は調査区の主に南西部に確認された。規模は、東西方向で一辺3m弱から3.5mの範囲ではほぼ同じ規模を呈している。また、どれも部分的な検出にとどまり、形状は方形とは推定できるがはっきり確認できない。大きい溝跡W-11近くのH-45は縦の混じった湿った砂層の地山まで掘り込んで構築されているが、貼り床がなく地山が床面となっているものであった。H-25・26も同様であった。H-12・23・28・36は地山まで掘り込んで構築され、堅密な貼り床が確認された。住居跡の主軸方向はすべてほぼ真東であり、この時期、同じ方向に向かって住居跡が建てられていることが分かる。竪について、検出された住居跡はすべて東壁に確認され、中央から南寄りに位置する。竪の主軸方向は北北東から東の間である。内部施設としては、3軒の住居跡から1つずつ柱穴が検出されているだけであり、それ以外の住居跡については検出されていない。

10世紀代と考えられる住居跡は、この遺跡から検出された住居跡の半数以上にのぼる。規模は、東西方向で一辺3m弱から5m強まで存在し、9世紀代よりもバラエティーに富む。規模については規則性は認められない。形状については、方形とは推定できるものははっきりと確認できない。地山まで掘り込んで構築されているものが多い。しかし、9世紀代と違いすべての住居跡で地山のブロックを含んだ土によって作られた顕著な堅密な貼り床が確認できる。湿った地山の堀り方の住居跡では床面や壁、竪に粘土を貼ることによって、住居内を湿気から守る工夫がなされている。住居跡の主軸方向については、H-11以外はほぼ真東の方向である。竪については、検出されたものはすべて東壁であり、10世紀代前半、後半に関わらず中央から南隅までに位置する。住居跡の主軸方向において一つだけ違う方向に位置したH-11についても竪の主軸方位はほぼ真東の方向に向いており、他の住居跡もほぼ真東の方向を示す。構築材としては、検出されたものからは支柱石や袖石、粘土が確認できたものが多かった。内部施設としては10軒の住居跡から貯蔵穴、柱穴、土坑等が確認された。

11世紀代と考えられる住居跡としてはH-1があり、検出された部分の規模は南北方向で10世紀代の

大きい住居跡H-5同じぐらいと考えられる。住居跡、竈の主軸方向についてはほぼ真東の方向で9・10世紀代の住居跡との違いは認められない。その他についても違いは見受けられない。

本遺跡は9世紀代から11世紀代の集落跡と考えられその前後の遺構は1つも検出することができず、As-B降下以前にこの集落は消滅してしまったのか、また、その後のこの周辺の人々はどこでどんな生活をしていたのか、疑問が残った。本調査区は狭いため、実際には調査区の周りには11世紀以降の建物跡が存在するのかもしれない。しかし、今までの過去の遺跡調査の結果等から次のようなことが分かった。律令制度による税の徵収のため新しい水田の開発が進められ、それに伴う9・10世紀の集落が出現した。古くから存続している集落は別だが、この遺跡のような9・10世紀に作られた集落の中には一時的には集落を形成するが、高い税の徵収等により寺社の莊園で働く小作人や新しいところへ移住する人々が出てきて、11世紀代になると消滅する集落が出てくるようである。

(2) 溝跡

住居跡と同時期もしくはそれ以前の17条の溝について考察したい。調査区の中央を北北西から南南東の方向に大きいW-11が流れている。底にAs-B純層、その上にAs-B混土層が多量に堆積しており、As-B降下以前、利用されていたことが分かる。この溝跡を挟み、両側に集落跡が存在している。当時の人々は、この溝跡又はその支流になるであろうその他の溝跡、及び後ほど考察する井戸跡の水を生活用水として利用していたものと思われる。特に、出土遺物の多かったW-8については当時の人々の生活用水として使用されていたことが窺われる。

(3) 土坑

調査区の主に北東の隅に土坑が集中的に検出された。ここから検出された土坑は埋土をAs-B混土とするものが多くAs-B降下以前の土坑と考えられ、中には柱穴になると予想されるものもあったが、調査区の幅が約6mと狭いため、据立柱建物を推定できず土坑のまま処理した。

(4) 井戸跡

当初はきれいな川原石で規則正しく石が積まれ構築された石組みの井戸跡であることから住居跡の時期よりも新しいものと予想されたが、As-B混土層の下から検出されたことや井戸の埋土の中から出土した遺物の判定から9世紀終末から10世紀前半のものであると考えられる。そうであるとすれば、この集落の住居跡と時期を同じくして存在したこととなり当時の人々の生活用水として使用されていたこととなる。調査区周辺は低湿地であり、当時の溝の氾濫などによりきれいな生活用水の確保が難しかったと想像され、井戸跡の構造上、個人ではなく共同でこの井戸を使用していたものと考えられる。また、この井戸跡は埋土の土層から人工的に埋められたものではなく、自然の堆積の中で埋まっていたものと考えられる。

2 遺物について

(1) はじめに

前田V遺跡出土土器についていくつかの住居出土資料において一括性が高いと認められ、かつ器種に偏りが無いものをとりあげ、県下における当該期の編年状況に照らし合わせ、出土土器群の位置づけをしてみたい。ここでは住居出土資料を扱うのだが、各住居とともに壺形土器・杯形土器・椀形土器（以下「形土器」を省略）の三つの器種がほぼ共存しており他の資料との比較が容易であることから取り上げた。また、本来は遺跡（周辺地域）ごとに出土資料の編年を組み立てるべきで

あるが、調査の性格上集落すべてを把握するに至らないことと、編年作業に耐えうる出土資料が少ないと判断したため既存の編年・編年案を参考におおよその年代観をあたえるにとどめたい。

(2) 出土土器の検討

各住居出土資料の様相を既存の編年に照らし合わせると、10号住居→18号住居・47号住居→5号住居→14号住居という変遷が伺える。各住居出土土器の様相を簡単に述べると、10号住居は壺が「コ」の字状口縁前段階の特徴をもち、須恵器碗の口径（14～15cm）及び底径（7～8cm）が比較的大きい。18号住居・47号住居は壺が「コ」の字状口縁が崩れた形態でまた、須恵器碗は底径が小さくなる傾向にあり、78、162、163のような比較的小さな底部（5～7cm）から湾曲気味に立ち上がり口縁部に至る形態のものと76のような高台張り付けが難になるものが見受けられ、小型のロクロ整形（調整）による壺も出現する。5号住居は壺が「コ」の字状口縁が崩れた形態で煮沸形態に羽釜形土器が加わり、須恵器杯は18、(19)のような比較的小さな底部（5cm）からやや外反気味にたちあがり口縁部に至る口径の大きな（12～13cm）形態が見られる。14号住居は羽釜の口縁部がやや直立気味の形態のものと須恵器杯において小形化したものが見られ、また高台の高くなつたもの、内面をミガキと黒色処理を施した碗も見受けられる。各住居出土土器は10号住居が9世紀前半、18・47号住居が9世紀後半、5号住居が10世紀前半、14号住居が10世紀後半～11世紀前半というおおよその年代観が与えられよう。

(3)まとめ—若干の検討課題—

前田V遺跡出土土器を通して若干の検討課題を述べまとめて代えてみたい。

壺形土器について、当遺跡では典型的な「コ」の字状口縁の型式の資料が少ないのだが、10号住居・18・47号住居といった資料に見られるように、その前後の形態は見受けられる。10号住居と18・47号住居の壺を比べると前者は口縁部が緩やかに外反し長めであるのに対し、後者は短く外反する口縁形態をもち、この点からも前者と後者の分類が可能である。また、口縁端部の形態も前者は内面にわずかに肥厚するもの（51）と内外面から上方へつまみ出され外面に面（四線状のくぼみ）をもつもの（52）が見られるのに対し、後者は外側に面をもち一条の沈線状のくぼみが見られる（81、156、157）。「コ」の字状口縁の壺にもこの一条の沈線状のくぼみが多く見られ、この口縁端部の形態（調整）上の属性からも18・47号住居の壺はいわゆる「コ」の字崩れの段階の壺と見ることが出来る。なかでも47号住居の壺156、157は「コ」の字状口縁の壺の特徴である頸部と体部との境に見られる明瞭なナデによる段差がなく、比較的器壁が厚く、形態的にも短く外反する「く」の字状口縁の壺と分類出来る。47号住居の壺は羽釜が共伴しておらず一時期を反映している可能性があり、桜岡氏のCIV類壺と比較すると「コ」の字状口縁壺に形態的により近い様相を示している。その次の段階として18号住居壺82、45号住居壺158などがあげられ、検討を要するが恐らく「土師器壺」に属し、後の段階に多く見られる「土釜」とは区別すべきであろう。また、「コ」の字状口縁壺の出現以降を見ると壺形土器にバラエティーが見られ単に「コ」の字崩れの範疇でそれが捨象され得るものではなく、系統差がここに見られる可能性がある。すなわち壺形土器の「多様化」は単に規範の崩れだけではなく「生産体制」の変容を反映してのではなかろうか。

以上、まことに身勝手なことを書き連ねてきたが今後の検討課題としてまとめて代えさせていただきたい。

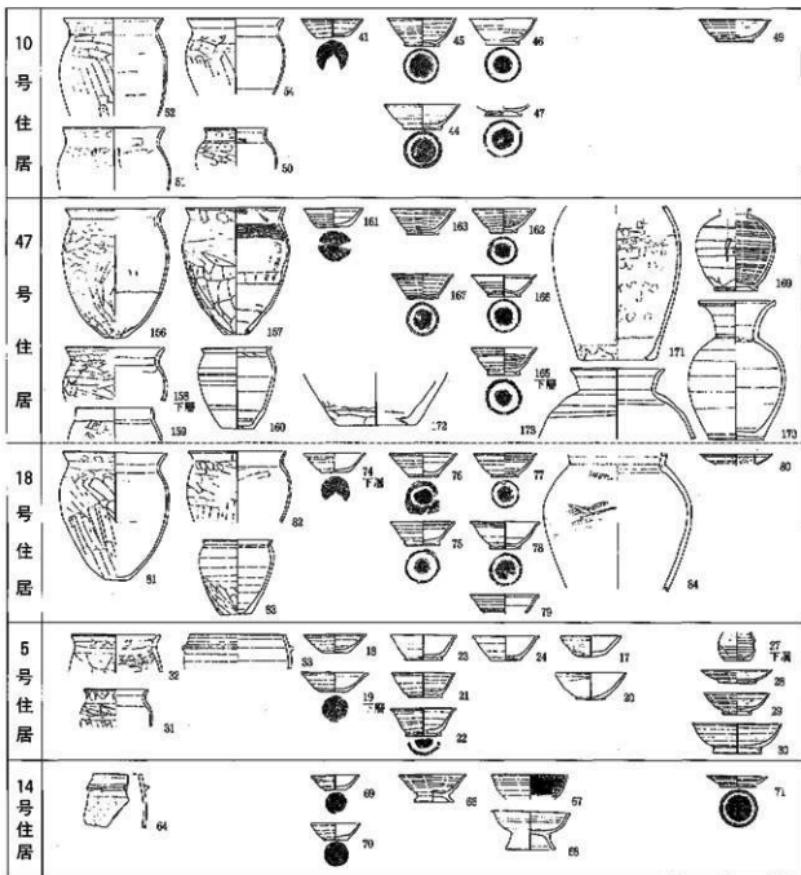


図 各住居出土土器 ($S = 1/10$)

註

日本考古学において古器物の付くものを「鉢」、付かないものを「杯」と便宜的に分類し使用した。
出土陶器の編年研究は数多く存在するがここでは井上(1978)、荒口・三浦(1986)、板井(1987)、木津(1988)、柳原(1988)、神谷(1994)を参考に各部はごとの型式変化の方針と形成の軌跡を把握した。
以降(以下)「つまみだし」「笠底状のくぼみ」「一~二の波状のくぼみ」といった表現は通説ではないのだがそれらの形態を記述する折に見あたらいたために用いて便宜とした。この二種類の形態は山田裕(『山田裕著』)における頭部の過度の縮小に起因するものと考えられ、検討を要することはあるが、後の資料にも多く見られる「くぼみ」ではなく側面斜面の「窓窓」に着目する立場の可能性も考えられる。
川内賀氏の土器叢書CIV(昭和19年)、井上氏の土器叢書第三・一(昭和19年)に収載する。
以降の船を含むいわゆる各流域ごとににおける小規模な伝統体制に変化した可能性があるのではないかかうか。また、いわゆる「土盆」にはバナニティーに富むことが指摘されているが(三浦・高田1986)、土盆とされているものの中には羽茎系のものと羽茎の「土脚容器」の実体がそこにある可能性もある。

参考文献

- 井上唯道 1978 「群馬県下の歴史時代の二・三」『群馬県史研究』第6号 群馬県史所さん委員会
- 柳原信男 1994 「V字土・土舟について」『二之子谷史跡調査』一巻四第17章(『上武遺跡』)改築工事に伴う高麗文化財発掘調査報告書 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 木沢伸司 1988 「V字土・土舟」『高麗文化財改築工事』改築工事に伴う高麗文化財発掘調査報告書 第24号 群馬県史所さん委員会
- 荒口一・三浦良子 1986 「『平安時代の土器』・『豪農・平野町代の土器』の変遷と二件河岸窓による『高麗文化財改築の検討』」『群馬県史研究』第24号 群馬県史所さん委員会
- 板井正毅 1987 「古墳時代の土器・豪農・平野町代の土器」『高麗文化財改築の検討』『群馬県史研究』第30号 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 三浦京子 1989 「平安時代の土器」『豪農・平野町代の土器について』『研究紀録』5 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 細谷邦男 1989 「V字・土盆・土脚」『高麗文化財改築の検討』改築高麗文化財改築調査報告書 第21号 群馬県埋蔵文化財調査事業団

Tab. 2 土器觀察表

番号	地区・層位	器種	法量	形態及び成形・調製法	全周	目次
1	H-1、1 縦円	高足 盆(土器)	高 [12.8] 口 [9.6] 底 [6.4] 体積 [26.7]	体部上位に幾大唇をもち底部でややすばらしく「く」の字に外反する。口縁端部に凹をもつて凹輪状に見える。	灰白 にせい型 (5YRS/4)	量化実験成 績質 結果片赤有り
2	H-2、1 縦円	高足 杯	高 [5.8] 口 [13.5] 底 [5.8]	底盤から外方に傾かずに開く。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/1)	測定误差 や成形 結果片赤有り
3	H-2、2 縦円	高足 碗?	高 [3.5] 口 [15.6] 底 [5.8]	外方に立ち上がり口縁部は反する。へら形をもつ。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 にせい型 (5YRS/4)	量化実驗成 績質片赤有り
4	H-2、3 縦土下層	高足盤 杯	高 [2.6] 口 [13.6] 底 [5.8]	体部中位に立ち上がり唇部は外反しながら口縁に沿る。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰白 (5YRS/1)	量化実驗成 績質 結果片赤有り
5	H-2、4 縦円	高足 碗?	高 [5.2] 口 [13.4] 底 [5.2]	口縁部に井字を有する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
6	H-2、5 縦土上層	高足盤 碗	高 [5.3] 口 [14.8] 底 [5.9]	底盤から傾かずに立ち上がり直角な唇部をもつて口縁部に凹る。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/2)	量化実驗成 績質
7	H-2、6 縦土下層	高足	高 [5.1] 口 [13.4] 底 [5.7]	底盤から傾かずに立ち上がり口縁部に凹する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質 結果片赤有り
8	H-2、7 縦円	高足 碗?	高 [2.6] 口 [13.8] 底 [7.3]	底盤から傾かずに外方に立ち上がり口縁部に凹める。両耳は軽内三角形。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
9	H-2、8 縦土上層	高足盤 碗	高 [3.8] 口 [14.2] 底 [6.1]	底盤から傾かずに外方に立ち上がり口縁部に外反する。両耳は丸く厚くおさめる。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/4)	量化実驗成 績質
10	H-2、9 縦圓	高足 盤	高 [3.1] 口 [14.8] 底 [6.7]	底盤から傾かずに立ち上がり口縁部に外反する。両耳は耳の三辺高。 両耳をもつて内凹圓錐形。井が丘1号窯跡。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :鉢 ○中空部位ハケメー:ヨコナデ〔ロクロ目有〕 一鉢 ○中空部位ハケメー:ヨコナデ〔ロクロ目有〕 一鉢	灰灰 (5YRS/1)	量化
11	H-2、10 縦土上層	高足 盤	高 [3.6] 口 [13.4] 底 [6.3]	底盤から傾かずに外方に立ち上がり口縁部に凹れる。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/1)	量化質
12	H-2、11 縦土	高足 碗	高 [3.2] 口 [4.7] 底 [4.7]	底盤から外反し口縁部にやや垂れを呈し丸くおさめる。	灰灰 (5YRS/1)	量化
13	H-2、12 縦土 輪窓	高足 碗	高 [—] 口 [—] 底 [—]	内面に板を持ちた痕跡文を出す。	オリーブ灰 (5YRS/2)	量化 内凹還元
14	H-3、1 縦圓	高足盤 碗	高 [4.6] 口 [14.0] 底 [6.1]	底盤から傾かずに外方にひびく。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 にせい型 (5YRS/4)	量化実驗成 績質
15	H-4、1 縦圓	高足	高 [—] 口 [—] 底 [5.4]	底盤から内凹圓錐形に立ち上がる。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○中空部位ハケメー:ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
16	H-4、2 縦圓	高足盤 碗	高 [6.0] 口 [15.6] 底 [7.1]	底盤からやや内凹圓錐形に立ち上がり体部は壁で傾かずにつぶす。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ナダ	灰灰 (5YRS/2)	量化実驗成 績質
17	H-5、1 縦土下層	土器盤 碗	高 [4.5] 口 [12.3] 底 [5.6]	底盤から外方に立ち上がり口縁部は壁で傾かずしあくおさめる。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ ○ナダ〔部跡は無い〕 →井位まで底盤ハケケリ ○ヘラズメリ	灰 (5YRS/6)	量化
18	H-5、2 縦圓	高足盤 碗	高 [3.7] 口 [12.6] 底 [5.1]	底盤からやや内凹圓錐形に立ち上がり体部は壁で傾かずにつぶす。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ナダ	灰灰 (5YRS/2)	量化実驗成 績質
19	H-5、3 縦土下層	高足盤 碗	高 [3.5] 口 [12.8] 底 [5.6]	底盤からやや内凹圓錐形に立ち上がり体部は壁で傾かずにつぶす。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
20	H-5、4 縦圓	高足 碗	高 [5.6] 口 [14.4] 底 [6.1]	底盤から内凹圓錐形に底をなす外腹が高台よりやや突出する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰 (5YRS/6)	量化
21	H-5、5 住居内D-I	高足盤 碗	高 [5.2] 口 [13.5] 底 [7.7]	体部は直角底のU字形で窓跡でわかれに外反する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
22	H-5、6 縦圓	高足盤 碗	高 [5.6] 口 [13.4] 底 [7.8]	体部が直角底のU字形で窓跡でわかれに外反する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ナダ	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
23	H-5、7 縦圓	高足盤 碗	高 [5.6] 口 [13.0] 底 [6.0]	体部がやや立ち張り直角底のU字形で窓跡でわかれに外反する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰 (5YRS/6)	量化実驗成 績質
24	H-5、8 縦圓	高足盤 碗	高 [5.9] 口 [13.6] 底 [6.3]	体部が直角底のU字形で窓跡でわかれに外反する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
25	H-5、9 不明	高足盤 碗	高 [5.0] 口 [13.9] 底 [6.4]	体部は直角底のU字形で窓跡でわかれに外反する。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ナダ	灰灰 (5YRS/4)	量化実驗成 績質片赤有り
26	H-5、10 縦圓二重	高足盤 碗	高 [4.0] 口 [11.7] 底 [7.2]	底盤から内凹圓錐形に立ち上がる。 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰灰 (5YRS/1)	量化実驗成 績質
27	H-5、11 縦土二層	高足 小瓶	高 [5.8] 口 [—] 底 [5.8]	体部下部が更に膨らむやや尖る形。体部内凹圓錐形。底盤 [口] 13.5 口・井 :ヨコナデ〔ロクロ目有〕 井 :— ○ナダ	灰灰 (5YRS/1)	量化

番号	泊区・源区	群種	法名	形態及び成形・調査法	色調	備考
28	E-5、13 半底	底栖 魚	高 2.7 □ 4.3 底 7.7	底面から内側底部にのり、口縫隔壁上面を丸くおさめ、下面をやや突ぼする。高台は底 部が円形。見込み部をぐるぐる内側のみ突起。 口・体 : ヨコヅナ→鰓蓋 底 : ヨコヅナ △ヨコヅナ	灰黒 (2.5Y6/1)	現質
32	E-5、13 半底	底栖 魚	高 4.4 □ (13.4) 底 (5.6)	底面から内側底部に立ち上がり口縫隔壁をくしして口縫に至る。口縫隔壁上面を丸くおさめ するがやや突出する。底面は円形で両端は湾入する。高台は外下方へ更く美 かわい形。側面はやや凹む。口縫隔壁は見られない。 口・体 : ヨコヅナ→鰓蓋 底 : ヨコヅナ→鰓蓋 (下位左方向へラケツリ) △ヨコヅナ	灰黒 (2.5Y6/2)	現質 尤もさわら質 大口半底(1回)
30	E-5、14 底土7号 底	底 魚	高 5.1 □ (16.5) 底 (10.0)	底面から内側に立ち上がる。口縫隔壁は円滑がやや肥厚する。高台は外下方へ更く美 かわい形。側面はやや凹む。口縫隔壁は見られない。 口・体 : ヨコヅナ 底 : ヨコヅナ △ヨコヅナ→鰓蓋 (左方へラケツリ)→ヨコヅナ 底 : ヨコヅナ	灰白 (10Y7R7/7)	北須山1号式質 現質
31	E-5、16 底底 底	土鰐骨 底	高 [7.8] □ (13.0) 底 -	側面を外方に伸ばす形は若干「コ」字形をなす。口縫隔壁は外方に底を伸ばす 底である。 口・体 : ヨコヅナ 底 : ヨコヅナ △ヨコヅナ→ユコオチ ○新鰓へラケツリ→鰓蓋へラケツリ (上半西)	灰灰 (3.5Y3S/2)	現質
82	H-5、16 土鰐骨 底	底 骨	高 [7.6] □ (17.8) 底 (19.0)	半底上半に最大幅を持ち口縫隔壁は「コ」字形が弱くなった形態で厚く口縫隔壁は外方 に底を伸ばす形である。 口・底 : ヨコヅナ→ヨコヅナ △ヨコヅナ ○ビヨウサキ→ヨコヅナ ○鰓蓋へラケツリ	青 (5Y3T/8)	現質 鰓蓋半底者有り
33	H-5、17 (須鰐骨) 底底	底 骨	高 [7.0] □ (19.0) 底 - △底 (22.4)	体は上半に底大筋を持ち内側に等厚口縫隔壁に至る。口縫隔壁は底を伸ばす形である。 口縫隔壁は底を伸ばす上位の角部に下位は底をくじく最も底大筋を有する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○ -	灰白 (10Y3T/1)	須元鰐底 現質
34	H-6、1 (須鰐骨) 底内	底 骨	高 [6.4] □ (23.4) 底 (27.6)	体は上半に底大筋を持ち凸底辺にて底面に大きく傾く。口縫隔壁は底くなり面を持つ。 口縫隔壁は底を伸ばす三角形形態を有する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○ -	浅灰 (7.5Y6/3)	鰐化鰐底 現質
35	H-6、2 土鰐骨 杯	底 骨	高 [2.4] □ (3.0) 底 -	底面は鰐骨と底との接合部に底面に至る。 口・底 : ナダヘラミギキ △ : ナダ ○ヨコヅナ	青 (5YR6/6)	現質
36	H-6、3 底内	底 骨	高 - □ コ - 底 -	外間に底面を有す。 口・底 : ヨコヅナ	青 (5YR6/6)	現質 前口式?
37	H-7、1 底底上 骨	底 骨	高 6.3 □ (14.2) 底 5.7	底面からやや内側しながら立ち上がり口縫隔壁は深めに内側に底をやや突ぼす。 口・体 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○細棘あひ多刺群	灰灰 (10Y3S/1)	須元鰐底 現質
38	H-8、1 底底 底	底 骨	高 4.5 □ (14.4) 底 6.7	小底下半に底より口縫隔壁でやや外反する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○ -	灰黒 (10YR6/2)	鰐化鰐底 現質
39	H-9、1 底底 骨	底 骨	高 4.5 □ (13.0) 底 5.5	体は内側よりも底よりも深く不明瞭で底線近くのびて縫隙でやや外反する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○細棘あひ多刺群	灰灰 (10YR6/3)	鰐化鰐底 現質
40	H-10、1 底底上 下層	土鰐骨 底	高 [2.9] □ (2.9) 底 5.0	底面から底面に屈屈した形態にのびそのままくさめる。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底面あひ多刺群	灰黒 (7.5YR5/2)	現質
41	H-13、2 底底 骨	底 骨	高 3.8 □ (14.4) 底 4.4	底面からやや内側底面に立ち上がり、底筋は丸くおさめる。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底面あひ多刺本群	灰白 (10YR1/1)	須元鰐底 やや底質
42	H-10、3 須鰐骨 不平	底 骨	高 3.9 □ (12.7) 底 4.0	底面から1/2底面に斜め上位へのび、底筋は丸く内に反し丸くさめる。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○圓錐形切り口ナード	灰灰 (7.5YR6/3)	鰐化鰐底 現質
43	H-10、4 須鰐骨 上層	底 骨	高 3.3 □ (13.3) 底 6.5	底面から外上方へ底筋を少しのび口縫隔壁は外反する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰灰 (10YR5/2)	鰐化鰐底 やや底質
44	H-10、5 須鰐骨 底	底 骨	高 5.5 □ (3.4) 底 7.8	底面からやや内側底面に立ち上がり底筋を丸く底筋は底面にのびて口縫隔壁はわずかに外反す る。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰灰 (10YR4/1)	須元鰐底 やや底質 必要者有り
45	H-1C、6 底底 底	底 骨	高 4.7 □ (14.0) 底 7.3	底面からやや内側底面に立ち上がり底筋を丸く底筋は底面にのびて口縫隔壁はわずかに外反す る。高台は底筋に底筋に先が突出する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰 (10YR2/1)	須元鰐底 現質 底筋底質有り
46	H-10、7 底底上 骨	底 骨	高 3.4 □ (13.7) 底 5.5	底面から内側底面に立ち上がり底筋を丸く底筋は底面にのびて口縫隔壁は外反する。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋あひ多刺群	灰灰 (10YR5/1)	須元鰐底 骨質 底筋底質有り
47	H-10、8 底底 底	底 骨	高 [2.2] □ コ - 底 (7.5)	底面は底筋高で底筋。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋あひ多刺群	灰 (5Y6/1)	須元鰐底 現質
48	H-10、9 底底 底	底 骨	高 4.5 □ (13.4) 底 (7.4)	底面から内側底面に立ち上がり口縫隔壁は外方へ丸く反する。底筋は常に強くおさめる。 底筋は底筋に内側底筋を有する。底筋内側底筋に三又口縫隔壁有り。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰白 (10Y7T/1)	須元鰐底 現質
49	H-10、10 底底 底	底 骨	高 4.5 □ 14.7 底 5.5	底面から内側底面に立ち上がり口縫隔壁は外方へ丸く反する。底筋は常に強くおさめる。 底筋は底筋に内側底筋を有する。底筋内側底筋に三又口縫隔壁有り。 口・底 : (底筋) 1 - (底筋) 2 (底筋) △ : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰白 (10Y7T/1)	須元鰐底 現質
50	H-10、11 土鰐骨 底底 上層	底 骨	高 [8.4] □ (12.6) 底 (5.8)	底面から内側底面に立ち上がり口縫隔壁は外方へ丸く反する。底筋は常に強くおさめる。 底筋は底筋に内側底筋を有する。底筋内側底筋に三又口縫隔壁有り。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰 (5Y6/4)	須元鰐底 現質
51	H-13、12 土鰐骨 底	底 骨	高 [15.0] □ (20.7) 底 (23.6)	体部は丸みを有し上位に底筋を持つ。側面の口の筋が喉頭で「コ」字形を呈す る。底筋は底筋に内側底筋を有する。底筋内側底筋に三又口縫隔壁有り。 口・底 : ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) △ヨコヅナ (ヨコヅナ目有) ○底筋折り多刺群	灰 (5YBT/8)	鰐質

番号	地名・部位	性別	法年	形態及び成形・整容手術		色調	備考
				左側	右側		
53	H-10. 18 床底	男	高 [30.0] 口 [20.5] 尺 - 体重 [21.5]	体幹は左右対称的で上位に最大軸を持つ。腰部との境は不明瞭で外反し、逆腹斜筋でわざかに内斜筋線に寄る。尾部に内臓がやや多く原形を保つ。	左 口・腰 : ヨコナダ ○ヨコナダ+ヨコナダ ○ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (2.5YR6/6)	経済
53	H-10. 14 床下-腰	男	高 [22.5] 口 [22.5] 尺 - 体重 [21.9]	体幹は左右対称的で上位に最大軸を持つ。腰部はほぼ直立し口腰部は外上方にのびて尾部はそのまま大きくおさめる。	左 口・腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (5YR7/5)	経済
54	H-10. 15 室内	男	高 [18.6] 口 [18.8] 尺 - 体重 [20.3]	体幹は丸みを帯びて上位に最大軸を持つ。腰部はほぼ直立し口腰部は外上方にのびて尾部に丸くおさめる。	左 口・腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (2.5YR6/8)	やや経済
55	H-11. 1 横土上層	二年齢 男	高 [8.2] 口 [8.6] 尺 - 体重	左側は丸みを帯びて上位に最大軸を持つ。腰部はほぼ直立し口腰部は外上方にのびてやや屈曲しておさめる。	左 口・腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (2.5YR6/6)	経済
56	H-11. 2 横土下層	(健常者) 男	高 [8.6] 口 [21.7] 尺 - 体重	右側はほのぼのとしたそのままの姿形である。両脇は腹を有する。体幹上位に把手の網状筋が見られ、中央に逆腹斜筋を有す。	左 口・腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青灰 (1.5YR6/1)	消化器疾患 経済
57	H-11. 3 床底	(健常者) (健常)土星	高 - 口 - 尺 - 体重	体幹の左側から後ろの体幹を折りたものとやや先みを有する。口腰部は屈曲する。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (1.5YR7/3)	消化器疾患 経済
58	H-11. 4 床底	男	高 [8.6]	凸凹は直角的。	左 口 : ナダ ○腰 : ナダ	青 (7.5YR7/3)	経済 清少々
59	H-11. 5 床底	男	高 [6.6]	凸凹は直角的。	左 口 : ナダ ○腰 : ナダ	青 (7.5YR7/3)	経済 罩用用か?
60	H-11. 6 床底	(健常者) 三	高 2.6 口 [7.0] 尺 4.2	左側から上方へ屈するのU形筋を丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 直角筋+弓筋筋	青 (5YR7/6)	消化器疾患 経済
61	E-12. 1 横土下層	男	高 5.5 口 [11.0] 尺 [7.4]	左側から直角的に上に向かうのが、腰部は丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+腰筋筋	青白 (5YR5/1)	消化器疾患
62	E-13. 1 横土下層	男	高 3.4 口 [13.3] 尺 [9.3]	左側のU形筋により体幹の形が場所で、脊髄はやや内側に向かって上に屈曲する。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (7.5YR7/6)	消化器疾患 経済
63	E-13. 2 横土	男	高 4.6 口 [14.5] 尺 [7.4]	左側から直角的に上に向かうのが、腰部は丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青白 (5YR6/2)	消化器疾患 経済
64	E-14. 1 床内	(健常者) 男	高 [10.9] 口 - 尺 - 体重	体幹に位に背大をもたらす内筋には筋に隙に三筋。脊髄に筋をもつ。凸凹は新規形三筋。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (1CYR4/1)	消化器疾患 経済
65	H-14. 2 生内D-1	土脚筋 女	高 [8.5] 口 - 尺 - 体重	U形筋は足から内側に到達し、腰部はそのまま引きおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (5YR6/6)	経済
66	H-14. 3 床底	(健常者) 男	高 5.8 口 [12.7] 尺 8.1	左側下半腰や内側筋群に丸くらみ、口腰がわずかに外反する。右側は長く外反してのびて腰筋は丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (5YR7/6)	消化器疾患 経済
67	H-14. 4 床底	(健常者) 男	高 [4.7] 口 [11.6] 尺 -	左側下半腰から内側に立ち上がり、口腰筋部はわずかに外反し丸くおさめる。体幹内側を筋で遮断しミキガモを構成。	左 口 : ヨコナダ+腰筋筋+ミキガモ ○腰 : ヨコナダ+腰筋筋	青 (1.5YR7/3)	消化器疾患 やや経済
68	H-14. 5 筋肉	(健常者) 男	高 8.0 口 11.6 尺 10.1	左側下半腰から内側に立ち上がり、口腰筋部はわずかに外反し丸くおさめる。右側は口と腰筋筋を構成して立ち上がり、腰筋部はそのままでおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ	青 (1.5YR7/3)	消化器疾患 やや経済
69	H-14. 6 横土下層	(健常者) 女	高 3.2 口 9.8 尺 4.9	体幹+手筋や内側筋群に丸くらみ上方へのびる。腰部はそのまま丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (5YR7/6)	消化器疾患 やや経済
70	H-14. 7 横土下層	(健常者) 女	高 3.4 口 11.6 尺 3.6	体幹+手筋や内側筋群に丸くらみ上方へのびる。腰部はそのまま丸くおさめる。内側二本筋の筋の位置はもたらすように筋を遮断する。また内側筋と背筋筋に三叉トテン筋が認められる。筋は張り付けて内側筋群に押す(「腰筋筋」)。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (5.5YR7/6)	消化器疾患 やや経済
71	H-14. 8 床底	男	高 2.7 口 12.4 尺 7.6	体幹+手筋や内側筋群に丸くらみ上方へのびる。腰部はそのまま丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (1.5YR7/3)	消化器疾患 やや経済
72	H-15. 1 風土下層	土脚筋 男	高 [6.8] 口 - 尺 -	頭部にU形筋に立ち上がり腰筋部を屈曲し内側筋群にのびて腰筋を丸くおさめる。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (2.5YR6/6)	経済
73	H-15. 2 横土下層	高 3.3 口 [15.6] 尺 7.1	体幹は内側筋群に外上方へのびる筋部が腰部で外反する。尻筋は筋肉が膨らむ。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (5Y7/1)	経済 元+丘1号車?	
74	H-16. 1 横土下層	高 4.0 口 [18.8] 尺 5.7	体幹から腰や内側筋群に丸くらみをもたらす外上方へのびる筋部が腰部で外反する。尻筋は筋肉が膨らむ。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (2.5YR7/6)	消化器疾患 やや経済	
75	H-18. 2 床底	(健常者) 男	高 4.9 口 13.2 尺 7.3	体幹から腰や内側筋群に丸くらみをもたらす外上方へのびる筋部が腰部で外反する。尻筋は筋肉が膨らむ。	左 口 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : ヨコナダ+ヨコナダ ○腰 : 腹筋筋	青 (N5)	消化器疾患 やや経済 筋肉疲労?

番号	地区・調査 区	調査 地	法社	形態及び成形、西脇法社	色調	性質
76	H-18. 3 東北 区	偏心砂 岩	高 4.9 □ (12.8) 底 6.2	面部から右側面の立ち上がり口縫合は緩やかに外反する。底部内面中央は突出。高さは右側面の凸部と並んでどちらも立ち上がりに傾斜はわずかに外反する。高さは断面が外方へ凹む傾 向がある。口：体 □ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ有）・□ヨコナデ（ロクロ有）	に赤い黄 （SYE/4）	酸化褐成 灰質 結晶岩質有り
77	H-18. 4 東北	頭蓋骨 胸	高 4.9 □ (1.2.8) 底 5.5	面部から右側面に立ち上がりに傾斜はわずかに外反する。高さは断面が外方へ凹む傾 向がある。口：体 □ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ有）・□ヨコナデ（ロクロ有）	に赤い （TSYR/4）	酸化褐成灰 質 結晶岩質有り
78	H-18. 5 東北	頭蓋骨 胸	高 6.5 □ (1.4.2) 底 6.5	面部から右側面に立ち上がりに傾斜はわずかに外反する。面部はやや厚くくざめる高 度の磨耗面の方向へ出た突起が見られる。口：体 □ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ有）・□ヨコナデ（ロクロ有）	褐色 （10YR6/1）	酸化褐成灰 質 結晶岩質有り
79	H-18. 6 東北	頭蓋骨 胸	高 3.9 □ (1.4.2) 底 4.0	面部に内凹状で面部でわずかに外反する。 口：体 □ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ有）・□ヨコナデ（ロクロ有）	灰質 （2SYT/2）	酸化褐成灰 質 結晶岩質有り
80	H-18. 7 東北	天板 盤	高 2.2 □ (4.6) 底 2.0	面部に内凹状で面部でわずかに外反する。 口：体 □ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ有）・□ヨコナデ（ロクロ有）	灰白 （10YR6/1）	硬質
81	H-18. 8 東北・ 海底・ 海面	二輪透 鏡	高 28.0 □ 21.0 底 4.4 体積 15.2	底部に巨大な孔をもつ漏斗形。面部の底は直線形で、端部に外側に圓を意識して表 示される。表面は細かい凹凸が多く見られる。 口：ヨコナデ □ヨコナデニヨコナデ（上手は堅度に近くなる）	灰 （SYR6/6）	硬質
82	H-18. 9 東北・ 海底	土器部 盤	高 14.5 □ 17.0 底 10.0 体積 21.4	底部に巨大な孔をもつ漏斗形。面部の底は直線形で、端部に外側に圓を意識して表 示される。表面は細かい凹凸が多く見られる。 口：ヨコナデ □ヨコナデニヨコナデ（上手は堅度に近くなる）	灰 （2SYT3/6）	硬質 結晶岩質有り □ヨコナデ有り
83	H-18. 10 東北	（良品） 天板	高 15.0 □ 13.9 底 6.4 体積 15.2	底部に豊に大きな孔をもつ漏斗形。面部の底は直線形で、端部に外側に圓を意識して表 示される。表面は細かい凹凸が多く見られる。 口：ヨコナデ □ヨコナデニヨコナデ（下手は堅度に近くなる）	に赤い （SYE/4）	酸化褐成灰 質 結晶岩質有り □ヨコナデ有り
84	H-18. 11 東北・ 海底・ 海面	頭蓋骨 胸	高 28.5 □ 21.0 底 20.1 体積 30.1	底部に巨大な孔をもつ漏斗形。面部の底は直線形で、端部に外側に圓を意識して表 示される。表面は細かい凹凸が多く見られる。 口：ヨコナデ（一下手は堅度ナダ） □ヨコナデ（中筋にハケメ）	褐色 （2SYR5/1）	過渡地成灰
85	E-19. 1 東北上層	土器部 盤	高 6.7 □ (18.6) 底 -	底部は緩やかに外反し、底部外側に面を待ち底筋の瘤みが1枚めぐる。 口：ヨコナデニヨコナデ □ヨコナデ -	灰 （SYR7/6）	硬質
86	E-19. 2 （良品） 東北上層	茶葉	高 - □ - 底 -	底部は緩やかに外反し、底部外側に面を待ち底筋の瘤みが1枚めぐる。 口：ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ日吉）・□ヨコナデ（ロクロ日吉）	に赤い （TSYR/3）	酸化褐成灰 質
87	E-19. 3 東北上層	茶葉	高 12.6 □ (7.6) 底 (7.6)	底部から内凹状で立ち上がる。高さは低い直筋形。 口：ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ日吉）	灰 （N4）	過渡地成 硬質
88	H-19. 4 土器部 底上層	底盤	長径 2.6 短径 1.9	底盤の瞬じよう模が見られる。	に赤い （TSYR/4）	硬質
89	H-21. 1 風呂敷 底土	つまみ絆	高 (4.5)	面部は程程で病状のつまみが付く。面部三角筋。 口 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデハラツリニヨコナデ（ロクロ有者）	灰白 （TSYR/1）	過渡地成 やや軟質
90	E-22. 1 東北・ 海底・ 海面	土器部 盤	高 6.3 □ (14.5) 底 5.2 体積 (16.0)	底部に豊に大きな孔をもつ漏斗形。面部の底は直線形で、端部に外側に圓を意識して表 示される。表面は細かい凹凸が多く見られる。脚部はハラツイ状。 口：ヨコナデ □ヨコナデ（ナダ） □ヨコナデハラツリニヨコナデ（ロクロ有者）	灰 （SYR7/6）	やや硬質
91	E-22. 2 東北・ 海底・ 海面	土器部 盤	高 17.6 □ 13.4 底 12.2 体積 (14.3)	底部に豊に大きな孔をもつ漏斗形。面部の底は直線形で、端部に外側に圓を意識して表 示される。表面は細かい凹凸が多く見られる。脚部はハラツイ状。 口：ヨコナデニヨコナデ □ヨコナデハラツリニヨコナデ（ロクロ有者）	に赤い （SYR5/4）	硬質
92	E-22. 3 基盤	（良品） 羽根	高 - □ - 底 -	面部は内凹状で底部をもしくおさめる。面部は緩めの凸形。 口：ヨコナデ（ロクロ日吉）・底 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ日吉） -	灰白 （10YR7/1）	過渡地成 やや軟質
93	E-22. 4 土器部 底	土器部 盤	高 2.1 □ (16.7) 底 -	口縫合部を出し張り上方への直筋形は丸くおさめる。 口：ヨコナデ 体 □ヨコナデナビハラツリニヨコナデ（ロクロ有者） □ヨコナデ -	底盤 （10YR/4）	硬質
94	E-22. 5 東北 海底	底盤	高 2.7 □ (2.1) 底 2.0	底部から内凹状で立ち上がる。高さは丸みをかけた三角筋。 口：ヨコナデ（ロクロ日吉）・体 □ヨコナデ（ロクロ日吉） □ヨコナデ（ロクロ日吉） -	底盤 （10YR/3）	酸化褐成灰 質
95	E-23. 1 風呂敷 底土	土器部 盤	高 2.8 □ (13.6) 底 -	底部から内凹状で立ち上がる。面部は丸みをかけた三角筋。 口：ヨコナデ 体 □ヨコナデ（ロクロ有者） □ヨコナデニヨコナデ -	に赤い （SYR5/3）	硬質
96	H-23. 1 風呂敷 底	底盤	高 4.7 □ (13.4) 底 -	底部から直筋形に立ち上がり口縫合部は緩やかに外反し面部は厚めに丸くおさめる。 口：体 □ヨコナデ（ロクロ有者）・底 □ヨコナデ（ロクロ有者） □ヨコナデ（ロクロ有者） -	灰 （SYR5/2）	酸化褐成 灰質 均質割れ有り
97	E-23. 2 底盤 底	底盤	高 2.7 □ (16.4) 底 -	やや直筋形で外上部へ立ち上がり窓部はそのままで丸くおさめる。 口：体 □ヨコナデ（ロクロ有者）・底 □ヨコナデ（ロクロ有者） □ヨコナデ（ロクロ有者） -	灰 （TSYR/6）	酸化褐成 灰質
98	E-23. 1 土器部 底	土器部 盤	高 5.8 □ (20.6) 底 -	最大部を底面に少し上に立ち上がり口縫合部は緩やかに外反する。面部は丸くおさめる。 口：底 □ヨコナデ（ロクロ有者）・体 □ヨコナデ（ロクロ有者） □ヨコナデ（ロクロ有者） -	灰 （SYR5/6）	硬質
99	H-23. 2 底盤 底上層	底盤	高 1.5 □ (18.6) 底 -	口縫合部は丸みを外し窓部は丸くおさめる。 口：体 □ヨコナデ（ロクロ有者）・底 □ヨコナデ（ロクロ有者） □ヨコナデ（ロクロ有者） -	底盤 （10YR/1）	過渡地成 硬質
100	H-27. 1 底盤 底	土器部 盤	高 5.7 □ - 底 -	腰筋や上部に直筋形に立ち上がり口縫合部は緩やかに外反する。縫合部は外方に面をもつ。 口：底 □ヨコナデ 体 □ヨコナデ □ヨコナデ（ロクロ有者）	灰 （SYRE/6）	硬質
101	H-27. 2 土器部 底	土器部 盤	高 4.4 □ (12.1) 底 4.4	腰筋や上部に直筋形に立ち上がり口縫合部は緩やかに外反する。縫合部は外方に面をもつ。 口：ヨコナデ 体 □ヨコナデ □ヨコナデ（ロクロ有者）	灰 （SYRE/6）	硬質 結晶岩質有り

番号	河川・位置	各種	注釈	基準及び底形・調査技術	色調	等高
102	H-27. 3 恵那郡 床底	高 [4.0] 口 [15.2] 底 [5.5]		底面からやや内側斜面に立ち上がる。底面は外傾し、面は厚く丸くをきめる。底部内側中央はでつてコロコロした構造をもつ。 体 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕	にぶい秋 (15YR5/4)	量化調査成 程質 結果品片有り
103	H-27. 4 恵那郡 相土上駒	高 [4.6] 口 [15.0] 底 [4.6]		底面からやや内側斜面に立ち上がる。底面は外傾し、面は厚く丸くをきめる。高台は板状でつぶれて冲方にある。 体 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○一	沢白 (15YR9/2)	美元培塿成 程質
104	H-27. 5 恵那郡 木下屋	高 [3.5] 口 [—] 底 [6.5]		底面からやや内側斜面に立ち上がる。面は三角形で盛りがある。 体 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○一	青灰 (25YE/1)	美元培塿成 程質
105	H-27. 6 恵那郡 権二	高 [6.4] 口 [28.8] 底 [—]		谷筋は少し差し尾端は外方に傾きをもたらすにつみ出される。 口 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕	灰 (NS)	美元培塿成 程質
106	H-28. 1 土岐郡 床底	高 [6.0] 口 [—] 底 [—]		谷筋上位に貴大臣をもらう面は僅かに外反する。面は面をもたらすがめぐる。 口 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有〕 底 : 1ヨコナデ ○ヨコナデ〔ロクロ目有〕 ○貴大臣ヘラケズリ	にぶい春名 (25YR8/4)	實質 地盤骨幹有り 10°と同一偏倚
107	H-28. 2 土岐郡 内内	高 [7.4] 口 [—] 底 [2.3]		底面からやや内側斜面に外方に傾く。 体 : 1ヨコハゲ〔中空〕 - テテ〔下平〕 底 : 1ヘラケズリ ○貴大臣ヘラケズリ	にぶい秋場 (25YR5/4)	實質 地盤骨幹有り 10°と同一偏倚
108	H-28. 3 土岐郡 美浓室	高 [5.4] 口 [—] 底 [—]		高 [5.4] 口 [—] 底 [—]	灰白 (5YR1/1)	實質
109	H-29. 1 (須原郡) 龜内	高 [6.9] 口 [25.6] 底 [—]		谷筋から内傾し、谷筋部外側に低い凸頭めぐらせ面に面をもつ。凸頭は低い三角形で 下辺はナギ付けで底に下すにユビオコニが連続して見られる。 体 : 1斜位ナデ、ニビヤキエ ○ヨコナデ-依存ナデ ○ナデ	にぶい程 (25YR6/3)	量化調査成 程質
110	H-29. 2 (須原郡) 祖母	高 [8.8] 口 [26.2] 底 [—]		谷筋上位に貴大臣をもらう面は内傾する。谷筋は面に面をもたらす四角形が入り外傾 につみ出される。凸頭はみを留めた三角形で丁寧ナギ付けられる。	にぶい秋場 (25YR5/3)	量化調査成 程質
111	H-29. 3 (須原郡) 祖母(土岸)	高 [16.1] 口 [21.2] 底 [—]		[谷筋上位の凹頭] し位に貴大臣をもつ。兩部は凸頭を外側に張り付ける形で配置する。 口 : 1ナデ ○1斜位ハケ ○ヨコナデ	灰 (7.5YR7/6)	量化培塿成 程質
112	H-30. 1 恵那郡 祖母下尾	高 [2.6] 口 [—] 底 [7.4]		底面は弱い酸性気味でハケ系部のアクリを放射状に残す。底面は薄く偏縫は丸くおさめ る。谷筋を作り、 1ヨコナデ	にぶい春 (7.5YR5/3)	量化培塿成 程質
113	H-32. 1 土岐郡 床底	高 [3.3] 口 [—] 底 [—]		底面から圓錐形に立ち上がる斜面欠点、純の可塑性もあり。	灰 (5YR6/6)	量化調査成 程質
114	H-32. 2 恵那郡 龜内	高 [3.3] 口 [18.4] 底 [—]		口縫部は付ナデに付し側面は丸くおさめる。 1-1 : ヨコナデ 底 : 1ヨコナデ ○ヨコナデ	沢白 (5YR8/2)	量化培塿成 程質
115	H-32. 2 (須原郡) 龜内	高 [11.1] 口 [—] 底 [—]		谷筋上位は貴大臣で側面はわざかに外反する。偏縫は丸くおさめる。 1ヨコナデ	青 (3.5YR4/6)	量化培塿成 程質
116	H-32. 4 (須原郡) 龜内	高 [6.5] 口 [—] 底 [4.4]		谷筋からやや内傾、側面外縫に低い凸頭めぐらせ面に面をもつ。凸頭は低い三角形で 下辺にナギ付けで底にユビオコニが連続して見られる。 1ヨコナデ ○貴大臣ヘラケズリ ○ナデ	灰 (25YR6/6)	量化調査成 程質
117	H-33. 1 (須原郡) 住戸D-1 龜内	高 [5.1] 口 [—] 底 [—]		体部は弱りなく凸頭は偏縫に付する。 口 : 1ヨコナデ 底 : 1ヨコハケナデ ○ヨコナデ ○貴大臣ヘラケズリ	青 (5YR8/6)	量化調査成 程質 結果品片有り
118	H-34. 1 (須原郡) 龜内	高 [3.6] 口 [—] 底 [8.6]		西面は若干内傾して貴大臣に付する。若干端部が暎みをもち丸くおさめる。	明褐色 (2.5YR5/6)	量化調査成 程質
119	H-34. 2 (須原郡) 龜内	高 [7.5] 口 [—] 底 [4.4]		底面は平底で上方へやや沈むのがある。 体 : 1ナデ〔底原あたる〕 底 : 1ナデ ○ハラケズリ ○ナデ	にぶい程 (7.5YR7/4)	量化調査成 程質
120	H-34. 3 (須原郡) 龜内	高 [10.5] 口 [—] 底 [—]		口縫部は若干内傾して上面に暎みをもつ。面は三角形の小振りな凸頭が付く。 口 : 1ヨコナデ 底 : 1ナデ ○ヨコナデ	灰 (7.5YR7/6)	量化培塿成 程質
121	H-35. 1 (須原郡) 羽庭	高 [11.4] 口 [—] 底 [—]		口縫部は若干内傾して上面に暎みをもつ。面は三角形の凸頭が付く下正はナギ付けが付く。 口 : 1斜位ハケ-ミヨコナデ 底 : 1斜位ハケ-ナナデ ○ヨコナデ	沢白 (3.5YR8/1)	量化調査成 程質
122	H-35. 2 (須原郡) 龜内	高 [5.1] 口 [7.3] 底 [6.5]		底部中央から内傾して立ち上がる。高台は外方へ長く出て側面に面をもつ。 体 : 1ラミガキ 底 : 1ラミガキ ○ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有り〕	浅青 (10YR8/4)	量化調査成 程質
123	H-35. 3 (須原郡) 龜内	高 [3.9] 口 [—] 底 [8.6]		面に中傾から外反する。暎みはやや側面を充満し、内傾に凹頭が入る。 1ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 高台 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有り〕	にぶい程 (3.5YR7/4)	量化調査成 程質
124	H-36. 1 恵那郡 木下	高 [3.3] 口 [4.8] 底 [6.9]		体部からやや内側斜面に立ち上がり側面に面をもつ。偏縫は丸く丸くおさめる。高台は暎みをもつ三角形のナギ付けに丁寧。 口 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 底 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○開拓切り半圓窓	灰 (2.5YR6/3)	量化調査成 程質 結果品片有り
125	H-36. 2 恵那郡 木下	高 [2.9] 口 [—] 底 [8.6]		偏縫は外方へ傾き内側に傾き状の面をもつ。 1ヨコナデ ○ヨコナデ	にぶい秋場 (5YR5/3)	量化調査成 程質
126	H-37. 1 恵那郡 龜内	高 [3.4] 口 [11.4] 底 [7.0]		体部に内傾から立ち上がる。西面は外側に面を充満し尖り気味。 1ヨコナデ 底 : 1ヨコナデ ○ヨコナデ ○ビスピサキ-ヨコナデ ○ナデ〔糞便〕	にぶい程 (5YR6/4)	量化調査成 程質 結果品片有り
127	H-37. 2 恵那郡 龜内	高 [4.2] 口 [11.5] 底 [5.9]		底面から貴大臣的に立ち上がり側面に面をもつ。偏縫は丸く丸くおさめる。 口 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 底 : 1ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○ヨコナデ〔ロクロ目有り〕 ○開拓切り半圓窓	にぶい秋場 (10YR7/3)	量化調査成 程質

番号	地区・部位	状態	生虫	初期及び中期・後期技術	色調	病名
125	日-39. 1 漢風土 裏	〔頑忍〕 高(3.8) 口(19.6) 底(7.0)	体部は最大密度をもち口脚部は緩やかに外反する。脚部はそのまま丸くおさめる。	口: iコナデ 体: 1ナデ o: 2コナデ □脚部へラケズリ	にぶい赤 (2SYRE/4)	化性化粧成 熟質
126	日-39. 2 漢風土 裏	〔頑忍〕 高(22.5) 口(23.9) 底(7.2)	体型は緩やかに河内や瀬戸内を上むる。口脚部は軽く屈曲する。 口: iコナデ 底: 1ナデ o: 2コナデ oナデ (一部ミガキ状のテテ) □脚部へラケズリ	軽 (2SYRE/6)	化性化粧成 熟質	
127	日-39. 3 漢風土 裏	〔頑忍〕 高(30.0) 口(27.2) 底(7.2)	裏面から内側無気孔に立ち上がる。高台は断層付近。	にぶい白 (7SYRE/4)	化性化粧成 熟質	
128	日-40. 1 漢風土 裏	〔頑忍〕 高(30.1) 口(27.5) 底(7.5)	体型は緩やかに河内や瀬戸内を上むる。口脚部は強く内反して脚部に至る。脚部の腹側面に瘤塊が見られる。 口: iコナデ (赤い具備者) oコナデ (黒い具備者) -	深灰 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
129	日-40. 2 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(7.1) 口(3.9) 底(1.6)	脚部は上方に最大密度をもち口脚部は下方に屈曲する。脚部に瘤塊が見られるが、瘤塊が口脚部に近づくと小さめられる。	半赤褐 (2SYRE/5)	耐久性成 熟質	
130	日-40. 3 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(10.7) 口(22.0) 底(3.0)	瘤塊は直線的に立ち上がる。脚部は上方へ傾く。瘤塊に瘤塊をもつ。	にぶい白 (7SYRE/4)	化性化粧成 熟質	
131	日-40. 4 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(3.5) 口(14.0) 底(8.1)	瘤塊から外側無気孔に立ち上がる。瘤塊は直線的に立ち上がる。	灰白 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
132	日-41. 1 漢風土 裏	〔頑忍〕 高(10.5) 口(10.0) 底(3.4)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上がる。	灰白 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
133	日-41. 2 漢風土 裏	〔頑忍〕 高(4.5) 口(13.0) 底(3.4)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上がる。	灰白 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
134	日-41. 3 漱水谷 裏	〔頑忍〕 高(4.5) 口(14.0) 底(3.4)	瘤塊から外側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上がる。	灰白 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
135	日-42. 1 漱水谷 裏	〔頑忍〕 高(4.5) 口(13.0) 底(3.4)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上がる。	灰白 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
136	日-42. 2 漱水谷 裏	〔頑忍〕 高(4.5) 口(14.0) 底(7.2)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上がる。	灰白 (10YRE/1)	透光強度成 熟質	
137	E-42. 3 漱水谷 底	〔頑忍〕 高(4.3) 口(15.4) 底(7.0)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	にぶい白 (7SYRE/4)	化性化粧成 熟質	
138	E-42. 4 漱水谷 底	〔頑忍〕 高(3.4) 口(16.2) 底(7.0)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	灰青 (10YRE/2)	化性化粧成 熟質	
139	E-43. 1 漱水谷 底	〔頑忍〕 高(4.5) 口(15.5) 底(7.0)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	半赤褐 (2SYRE/8)	耐久性成 熟質	
140	E-43. 2 漱水谷 底	〔頑忍〕 高(8.5) 口(24.5) 底(7.0)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	にぶい白 (9YRE/4)	化性化粧成 熟質	
141	H-44. 1 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(7.8) 口(17.2) 底(7.0)	脚部は内側で立ち上がる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	半 (3YRE/6)	化性化粧成 熟質	
142	H-44. 2 漱水谷 裏	〔頑忍〕 高(6.1) 口(12.6) 底(6.6)	瘤塊から内側無気孔に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	灰 (2SYRE/3)	透光強度成 熟質	
143	H-44. 3 漱水谷 裏	〔頑忍〕 高(4.8) 口(15.5) 底(5.9)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	にぶい白 (10YRE/3)	化性化粧成 熟質	
144	H-45. 1 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(4.8) 口(19.3) 底(7.2)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	半 (3YRE/6)	化性化粧成 熟質	
145	H-45. 2 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(8.0) 口(23.1) 底(7.0)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	半 (3YRE/6)	化性化粧成 熟質	
146	H-45. 3 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(5.5) 口(19.3) 底(7.0)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	半 (3YRE/6)	化性化粧成 熟質	
147	H-45. 4 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(11.2) 口(6.6) 底(4.2)	瘤塊の脚部をなめらかや瀬戸内を上むる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	にぶい赤 (6YRE/4)	透光強度成 熟質	
148	H-45. 5 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(5.5) 口(6.6) 底(4.2)	瘤塊の脚部をなめらかや瀬戸内を上むる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	半 (3YRE/6)	化性化粧成 熟質	
149	H-45. 6 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(2.8) 口(12.0) 底(7.0)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	にぶい白 (7SYRE/4)	化性化粧成 熟質	
150	H-45. 7 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(3.9) 口(12.0) 底(8.1)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	灰 (10YRE/2)	透光強度成 熟質	
151	H-45. 8 土岸谷 裏	〔頑忍〕 高(3.9) 口(13.0) 底(5.7)	瘤塊は直線的に立ち上げる。瘤塊は直線的に立ち上げる。	灰白 (2SYR/1)	透光強度成 熟質	

番号	地名・樹種	測定 法	測定及び成績・実験方法	色調	備考
162	日-45, 9 基土上部 高木	西 [2.1] 口 - 底 7.1	体部はやや内海気味に立ち上がる。高さは三日目齊。口部 : ヨコナデ [クロ口目] 有 - 運動 体 : ヨコナデ [クロ口目] 有 - 運動 体 : ヨコナデ [クロ口目] 有 - 運動	灰白 (10YR8/2)	黒質
163	H-46, 1 電丸 〔原生林〕	高 [3.5] 口 (3.5) 底 -	森林半山腰に張り出葉脈に斜めに筋がある。葉脈はそのまま丸くおさめる。口 : ヨコナデ [クロ口目] 有 - ヨコナデ [クロ口目] 有 - ヨコナデ [クロ口目] 有 - ヨコナデ [クロ口目] 有 -	青白化斑成 黒質 根被變色有り	
164	H-46, 2 土御前 電丸	高 [6.2] 口 (3.6) 底 -	背脈上半は横溝と側脈を若干疊重して縦やかに外反する。口 : ヨコナデ 有 - ヨコナデ 有 - ヨコナデ 有 - ヨコナデ 有 -	にぶい青 (5YR6/4)	黒質 根被變色有り
165	H-46, 3 土御前 電丸	高 [12.2] 口 (15.6) 底 -	体部に並んでやや内側に凹き山型葉はややかに外反する。葉脈はやや尖り気味。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (2.5YR6/3)	やや黒質
166	H-47, 1 土御前 電丸 佐作D-1	高 25.6 口 (25.6) 底 (4.5) 根被 [21.6]	外輪葉大輪が上位にいる新規形。口部は体部の葉が不規則となり縦やかに外反し縦筋が内側に走る。葉脈はやや尖り気味。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰黑 (7.5YR4/2)	黒質
167	H-47, 2 土御前 電丸 根被下層	高 [2.6] 口 (2.6) 底 (5.6) 根被 [21.6]	外輪葉大輪が上位にいる新規形。口部は体部の葉が不規則となり縦やかに外反し縦筋が内側に走る。葉脈はやや尖り気味。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	にぶい青 (5YR6/3)	黒質
168	H-47, 3 土御前 電丸 根被下層	高 [1.1] 口 (2.6) 底 - 根被 [21.3]	外輪葉大輪が上位にあり無く肉薄する。口部は縦やかに外反する。葉脈は葉をなすらずやかよくある。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰黑 (5YR6/3)	黒質
169	H-47, 4 土御前 電丸	高 [5.6] 口 (16.7) 底 -	外輪葉上半は済直してはまよ口羅繩で強く屈曲してほぼ直立する。葉脈はやくおさめられる。口 : ヨコナデ 有 - ヨコナデ 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	黑 (5YR3/1)	黒品変色有り
170	H-47, 5 土御前 電丸	高 16.5 口 14.5 底 6.3 根被 16.8	年令最大葉が上位にくる新規形。口部はやくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	黑 (7.5YR6/3)	黒化斑成 黒質
171	H-47, 6 電丸 〔原生林〕	高 3.5 口 12.1 底 6.4	底部から外輪葉が立ち上がり口輪葉はわずかに外反する。葉脈ははくおさめられる。高さは三日目齊。底葉内輪は済直している。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰白 (3.5YR6/3)	黒化斑成 黒質 内輪底葉有り
172	H-47, 7 電丸 〔原生林〕	高 4.5 口 12.6 底 6.7	底部から外輪葉が立ち上がり上位には規則的に葉脈を丸くおさめる。高さは三日目齊。底葉内輪は済直している。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰白 (3.5YR6/3)	黒化斑成 黒質 内輪底葉有り
173	H-47, 8 電丸 〔原生林〕	高 5.5 口 (18.2) 底 6.7	体部の葉に凹みをもつ口輪葉はわずかに外反する。葉脈ははくおさめられる。高さは三日目齊。底葉内輪は済直している。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	明灰色 (3.5YR5/6)	黒化斑成 黒質 品変色有り
174	H-47, 9 電丸 〔原生林〕	高 5.8 口 (14.4) 底 (6.6)	体部は直立するのに口輪葉は若干底葉を背くしやかに外反する。葉脈ははくおさめる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰白色 (3.5YR5/2)	やや黒質
175	H-47, 10 基土下層 的	高 4.7 口 (15.6) 底 6.9	体部に中位まで大輪葉が位する。さざれ口輪葉はやかに外反気味にのびる。葉脈はそのまま丸く内輪する。高さは三日目齊。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰青 (10YR8/2)	黒化斑成 黒質
176	H-47, 11 電丸 〔原生林〕	高 4.4 口 3.6 底 6.7	底葉からやや内海気味に立ち上がり葉脈はわざかに外反する。高さは三日目齊。底葉内輪は済直している。葉脈はやくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (5YR8/2)	黒化斑成 今やや 黒品変色有り
177	H-47, 12 電丸 〔原生林〕	高 4.9 口 (12.2) 底 5.5	底葉からやや内海気味に立ち上がり葉脈はわざかに外反する。高さは三日目齊。底葉内輪は済直している。葉脈はやくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (2.5YR3/1)	黒化斑成 黒質 根被變色有り
178	H-47, 13 〔原生林〕 根被下層 〔原生林〕	高 2.5 口 8.3 底 6.2 根被 4.8	くびれ部は下方へ済直しながら立ち上がりそのままで脚側をねむ。底葉は外反気味に外反する。葉脈ははくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	浅青 (7.5YR6/4)	黒化斑成 今やや 黒品変色有り
179	H-47, 14 電丸 〔原生林〕 佐作D-1 〔原生林〕	高 16.9 口 6.1 底 9.0	底葉から若干内海気味に立ち上がり葉脈が張る。高さは三日目齊に段をもつ外方へ大きく突出する。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰白 (NT/1)	黒質
180	H-47, 15 〔原生林〕 根被下層 〔原生林〕	高 22.6 口 15.3 底 11.3 根被 19.6	化斑形に変化する。もろ葉部がやや内輪で葉脈がへばづる。口輪部は外反し底葉外輪に変形もつ。底葉には葉をもつてつぶれ状に見える。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR6/1)	黒化斑成 黒質 品変色有り
181	H-47, 16 電丸 〔原生林〕 佐作D-1	高 [2.6] 口 (15.9) 底 (20.0)	化斑形に変化する。もろ葉部がやや内輪で葉脈がへばづる。口輪部は外反し底葉外輪に変形もつ。底葉には葉をもつてつぶれ状に見える。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (NT)	黒化斑成 黒質 品変色有り
182	H-47, 17 電丸 〔原生林〕	高 10.7 口 10.7 底 16.8	底葉から外輪葉が直立的に立ち上がる。葉脈はそのまま丸くおさめる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR8/6)	黒化斑成 黒質
183	H-47, 18 〔原生林〕 根被	高 [4.5] 口 1.93 底 -	体部の葉は直立し口輪葉はやかに外反する。葉脈はそのまま丸くおさめる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR8/6)	黒化斑成 黒質
184	H-47, 19 〔原生林〕 根被	高 5.5 口 (14.4) 底 (6.6)	直立葉からその葉をもつ口輪葉が張る。葉脈ははくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (2.5YR6/6)	黒質
185	H-47, 20 基土下層 的	高 4.7 口 (15.6) 底 6.9	底葉から外輪葉が立ち上がり葉脈が張る。葉脈はそのまま丸くおさめる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR8/2)	黒化斑成 黒質
186	H-47, 21 電丸 〔原生林〕	高 4.4 口 3.6 底 6.7	底葉からやや内海気味に立ち上がり葉脈はわざかに外反する。葉脈はそのまま丸くおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (5YR8/2)	黒化斑成 今やや 黒品変色有り
187	H-47, 22 〔原生林〕 根被	高 4.9 口 (12.2) 底 5.5	底葉からやや内海気味に立ち上がり葉脈はわざかに外反する。葉脈ははくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (2.5YR3/1)	黒化斑成 今やや 黒品変色有り
188	H-47, 23 〔原生林〕 根被	高 2.5 口 8.3 底 6.2 根被 4.8	くびれ部は下方へ済直しながら立ち上がりそのままで脚側をねむ。底葉は外反気味に外反する。葉脈ははくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	浅青 (7.5YR6/4)	黒化斑成 今やや 黒品変色有り
189	H-47, 24 〔原生林〕 根被	高 16.9 口 6.1 底 9.0	底葉から若干内海気味に立ち上がり葉脈が張る。高さは三日目齊に段をもつ外方へ大きく突出する。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰白 (NT/1)	黒質
190	H-47, 25 〔原生林〕 根被	高 22.6 口 15.3 底 11.3 根被 19.6	化斑形に変化する。もろ葉部がやや内輪で葉脈がへばづる。口輪部は外反し底葉外輪に変形もつ。底葉には葉をもつてつぶれ状に見える。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR6/1)	黒化斑成 黒質 品変色有り
191	H-47, 26 〔原生林〕 佐作D-1	高 [2.6] 口 (15.9) 底 (20.0)	化斑形に変化する。もろ葉部がやや内輪で葉脈がへばづる。口輪部は外反し底葉外輪に変形もつ。底葉には葉をもつてつぶれ状に見える。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (NT)	黒化斑成 黒質 品変色有り
192	H-47, 27 〔原生林〕 根被	高 10.7 口 10.7 底 16.8	底葉から外輪葉が直立的に立ち上がる。葉脈はそのまま丸くおさめる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR8/6)	黒化斑成 黒質
193	H-47, 28 〔原生林〕 根被	高 [4.5] 口 1.93 底 -	体部の葉は直立し口輪葉はやかに外反する。葉脈はそのまま丸くおさめる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (10YR8/6)	黒化斑成 黒質
194	H-47, 29 〔原生林〕 根被	高 5.5 口 (14.4) 底 (6.6)	直立葉からその葉をもつ口輪葉が張る。葉脈ははくおさめられる。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (2.5YR6/6)	黒質
195	H-47, 30 〔原生林〕 根被	高 [8.1] 口 (20.8) 底 -	体部の葉がやや内側に凹き口輪葉が張る。葉脈はやかに外反する。口 : ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 - ヨコナデ [ヨコナデ] 有 -	灰 (2.5YR6/6)	黒質

番号	地区・部位	器種	法式	形態及び成形・調製方法	色調	割合
176	W-8、3 頭部	高 [69.8] 口 [47.0] 底 -	骨髄最大部が上位にあり頭部がややなる。口部は外反し頭部は前をもじ下に肥厚する。 口 ①ヨコナダ 体 1ナダ [中位迄具列] 頭部 1ナダ ②ヨコナダ	骨 [7.5YR 1/1]	濃化焰燒成 窯質	
177	D-1、1 頭部	高 [4.1] 口 [11.4] 底 [5.7]	表面から1日位潜れて立ち上がり口端部に残りをもじ頭部は先に灰黒におきめる。 コ ①ヨコナダ 年々ヨコナダ コ ②ヨコナダ 体 1ヨコナダ [クロ口目有] 頭部 1ヨコナダ [頭頂] コ ③ヨコナダ 体 1ヨコナダ [クロ口目有] 頭部 1ヨコナダ [頭頂]	灰白 [5YR 1/2]	窯質	
178	D-2、1 頭部	高 [6] 口 [14.2] 底 [8.8]	表面からやや内側凹間に立ち上がり口端部はかたかに外反する。高台は台形。 コ ①ヨコナダ [クロ口目有] 頭部 1ヨコナダ [クロ口目有] コ ②ヨコナダ [クロ口目有] 頭部 1ヨコナダ [クロ口目有]	浅青 [2.5YI 3/3]	酸化焰燒成 今や灰質	
179	D-71、1 頭部	高 [3.2] 口 [1.7] 底 [9.1]	正面中央に平頭。高台は「V」字状に分反しながらのび先くおきめる。 口 1ナダ 底 1ヨコナダ	淡青 [7.5YR 6/6]	酸化焰燒成 今や灰質	
180	D-71、2 頭部	高 [11.8] 口 [10.5] 底 -	骨端上部はほとんど頭部が下にびくびくして頭部はわずかに外反する。頭部に面をも ねる。頭部と足部は他の部位より付けられそれを部分でいたなたとなる。 口 ①ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ] 頭部後へラミガキ状頭部 ②ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ]	灰白 [7.5YR 6/3]	酸化焰燒成 窯質 31と同一個体	
181	D-71、2 頭部	高 [10.5] 口 - 底 -	骨端上部はほとんど頭部が下にびくびくして頭部はわずかに外反する。頭部に面をも ねる。頭部と足部は他の部位より付けられそれを部分でいたなたとなる。 口 ①ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ] 頭部後へラミガキ状頭部 ②ヨコナダ 体 1ヨコナダ 頭部 1ヨコナダ [頭頂]	灰白 [7.5YR 6/2]	酸化焰燒成 窯質 2次試焼有り 180と同一個体	
182	I-1、1 土師器 杯	高 [3.5] 口 [12.4] 底 -	骨端は済みながら立ち上がり口端部下で段々とも頭部にそのまま丸くおきめる。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 頭部 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [頭頂]	灰白 [7.5YR 6/3]	酸化焰燒成 今や灰質	
183	I-1、2 頭部	高 [14.1] 口 - 底 5.3	高台は済みなし、立ち上がり口端部下で段々とも頭部にそのまま丸くおきめる。 口 ①ヨコナダ [クロ口目有] ②ヨコナダ [頭頂] 未実現	灰白 [10YR 2/3]	酸化焰燒成 窯質	
184	I-1、3 頭部	高 [1.7] 口 - 底 7.7	骨端は三日月。 口 ①ヨコナダ [クロ口目有] ②ヨコナダ	灰白 [2.5YR 1/1]	酸化焰燒成 火腹 2号窯生?	
185	I-1、4 頭部	高 [1.2] 口 11 底 8.6	骨端は内側に達してもつら舌。	灰白 [2.5YR 1/1]	酸化焰 火腹 大尾 2号窑?	
186	X-1、1 土師器 杯	高 [3.5] 口 [11.6] 底 -	骨端は丸頭形で、底部から済みながら立ち二重りに頭部に至る。頭部は高く丸くお きる。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ]	灰白 [2.5YR 6/6]	酸化焰燒成 窯質	
187	X-1、2 土師器 杯	高 [3.5] 口 [11.3] 底 -	頭部は丸頭形で、底部から済みながら立ち二重りに頭部に至る。頭部は内側にわずかに 肥厚する。底部外側に二ビビヤエが施設してみられる。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ] こビビヤエ-ヘラケズリ	灰 [5YR 6/6]	酸化焰燒成 窯質	
188	X-1、3 土師器 杯	高 [3.2] 口 [2.2] 底 -	骨端と底部の筋の強くて不規則で頭部中央まで内側凹間に立ち上がり頭部に至る。頭部は内側にわずかに 肥厚する。頭部はそのままである。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [頭頂]	灰白 [7.5YR 6/3]	酸化焰燒成 窯質	
189	X-1、4 土師器 杯	高 [3.2] 口 [1.8] 底 8.5	頭部外側はヘラケズリにより手揉。底部は中空で内側突起に立ち上がり口端部はわず かに内側凹間に立ち上がり頭部に至る。頭部は高く丸くおきる。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [頭頂]	灰白 [2.5YR 6/6]	酸化焰燒成 窯質	
190	X-1、5 土師器 杯	高 [2.8] 口 [11.4] 底 7.8	表面からやや内側凹間に立ち上がり口端部に至る。頭部はそのまま丸くおきめる。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [頭頂]	灰白 [2.5YR 6/4]	酸化焰燒成 窯質	
191	X-1、6 土師器 杯	高 [3.8] 口 [11.9] 底 9.3	底部は丸頭形で体端から1日位潜れて外側に上方のび口端部は内側に把伏する。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ]	灰白 [2.5YR 6/6]	酸化焰燒成 窯質	
192	X-1、7 土師器 杯	高 [3.2] 口 [12.4] 底 -	表面からやや内側凹間に立ち上がり口端部はわずかに外反する。頭部は内側に丸く肥厚 する。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [頭頂]	灰白 [2.5YR 6/4]	酸化焰燒成 窯質	
193	X-1、8 土師器 杯	高 [2.6] 口 [12.0] 底 8.6	底部から1.5cmには底部筋との間に頭部に至る。頭部に内側に大く肥厚する。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ]	灰白 [2.5YR 6/6]	酸化焰燒成 窯質	
194	G-X26Y166 頭部	高 [16.0] 口 [18.6] 底 26.5 底径 -	骨端は丸頭形で頭部までそのまままる。頭部は上方に凹む。内側に複数の鋸歯状 の三角筋。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ②ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ]	灰白 [3YR 5/4]	酸化焰燒成 窯質	
195	G-不明 土師器 杯	高 [3.1] 口 [11.9] 底 -	骨端は丸頭形で頭部までそのまままる。頭部は丸くおきめる。頭部は丸くおきめる。 口 ①ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ナダ ②ヨコナダ 体 1ヨコナダ 底 1ヨコナダ ③ヨコナダ 体 1ナダ [ヘラケズリ]	灰白 [2.5YR 6/6]	やや灰質	
196	G-X11Y33 頭部	高 [5.5] 口 14.4 底 5.1	底部からやや内側凹間に立ち上がり口端部まで内側筋間にびわざかに外反する。頭部は やや丸くおきめる。高台は台形。 口 ①ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [クロ口目有] ②ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [頭頂]	灰白 [7.5YR 1/1]	酸化焰燒成 窯質 筋膜生存有り	
197	G-X26Y41 頭部	高 [5.2] 口 [16.0] 底 5.6	底部から内側筋間に立ち上がり口端部はわずかに外反する。高台はやや高めの台形。 口 ①ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [クロ口目有] ②ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [頭頂]	灰白 [3YR 1/4]	酸化焰燒成 窯質	
198	G-X14Y33 頭部	高 [5.2] 口 [5.6] 底 5.0	底部は中空で動輪らしきもので頭部はそのまま丸くおきめる。底部内側に筋が突出する。 口 ①ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [クロ口目有] ②ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [頭頂]	灰白 [2.5YR 5/4]	酸化焰燒成 窯質 内側すり筋膜	
199	G-X30Y41 頭部	高 [5.5] 口 [6.2] 底 5.8	底部から底に二方に突出する。 口 ①ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [クロ口目有] ②ヨコナダ [クロ口目有] 体 1ヨコナダ [頭頂]	灰白 [2.5YR 6/6]	酸化焰燒成 窯質	

Tab. 3 石製品、木製品、特殊遺物観察表

番号	地区・層位	種類・特徴	生長	表面	表面の特徴
1	H47. 18	丸 球	長 2.6 幅 4.0 厚 0.8		
2	II 1. 5	筋 陶 瓦	長 8.1 幅 2.1 厚 0.8	断面台形状。全体を高く。	
3	H39. 4	瓦	長 8.1 幅 4.5 厚 1.2 勾端 0.8	断面丸台形状。下端を比較的高く。	
4	XI 2Y44	骨 採	骨 石	長 6.8 幅 4.5 厚 2.6	台形状で厚さをもつ。瓦片に比較的多く。
5	H 5. 29	粘土下層	灰 石	長 9.5 幅 3.9 厚 2.9	台形状で厚さをもつ。瓦片に比較的多く。
6	H 5. 21	粘土下層	瓦	長 [10.7] 厚 7.1 孔径 1.8	断面がわずかに斜角形。ナマ板壁。先端部は球質化。
7	H11. 7	粘土下層	土 瓦	長 4.5 幅 1.8 厚 0.4	外面がアラカニ。
8	H13. 16	粘土下層	土 瓦	長 3.8 幅 1.9 厚 0.4	外面がアラカニ。一部欠損。
9	H17. 1	無土	土 瓦	長 [4.2] 幅 1.8 厚 0.5	外側がアラカニ。一部欠損。
10	H 9. 3	無土	土 瓦	長 [3.7] 幅 1.6 厚 0.3	外側がアラカニ。兩端欠損。
11	W9. 1	無土	土 瓦	長 [2.6] 幅 1.1 厚 0.3	外側がアラカニ。一部欠損。
12	II 1. 5	無土下層	井戸 砂?	長 12.7 幅 15.2 厚 5.1	一端が切られる。萬葉集に書いたため加工面に不平。
13	II 1. 5	無土下層	井 戸 砂?	長 [8.4] 幅 [7.6] 厚 0.2	結合部分。水鏡(鏡?)により合わせられる。
14	II 1. 7	無土下層	井 戸 砂?	長 [6.2] 幅 [5.1] 厚 0.3	切れ込みが表面層に入る。
15	II 1. 8	無土下層	井 戸 砂?	長 [8.3] 幅 [7.9] 厚 0.3	切れ込みが表面層に入る。
16	II 1. 3	無土	石 瓦	長 2.6 幅 1.5 厚 0.4	正規形。
17	H17. 2	無土	土 片	長 6.8 幅 7.7 厚 0.8	黒色瓦質。
18	H 2. 15	無土	土 片	長 8.1 幅 6.6 厚 0.1	黒色瓦質。
19	H 2. 17	無土	土 片	長 2.9 幅 5.6 厚 1.3	黒色瓦質。

Tab. 4 鉄器観察表

番号	地区・層位	種類・特徴	生長	表面	表面の特徴
1	H 1. 2	鐵 土	面 長 4.8 幅 0.9 厚 0.8	面積が平たく墨引辺をもつ。裏面は方形。先端部は欠損。	
2	H 1. 3	鐵	面 長 6.9 幅 0.9 厚 1.0	變化が複雑。裏面が一方へ突出する。	
3	H16. 4	劍	面 長 7.9 幅 0.6 厚 0.7	楕円が平たく一方へ突出する。裏面は方形。先端へ傾くなる。	
4	H10. 16	劍	面 長 8.8 幅 0.8 厚 0.6	變化が複雑。裏面は方形。先端へ傾くなる。	
5	H23. 2	鐵 金 不	面 51面 4.6 厚 0.3 無心 0.5	輪郭は欠損。必ずしも車輪のみ現存。	
6	H 2. 14	鐵 土上層	面 51面 4.6 厚 0.4 厚 0.4	輪郭は一部欠損し先端が鋭状になる。背面はやや方形を呈する。	
7	D22. 1	鐵?	面 11.4 厚 2.5 厚 0.9	變化が複雑。	
8	H 1. 4	鐵 土上層	刀 面 3.8 厚 1.1 厚 0.3	万字形の車輪のみ現存。	
9	H 5. 16	鐵 土	刀 面 6.8 厚 1.0 厚 0.6	刃部先端欠損。裏面に木質が残る。	
10	H 5. 19	鐵 土	刀 面 10.9 厚 1.1 厚 0.5	變化が複雑。裏面先端欠損。	
11	H10. 17	鐵 土上層	刀 面 10.9 厚 3.1 厚 0.5	變化が複雑。刃部先端欠損。折り返し部が鋭く。	
12	H 2. 15	鐵 土上層	刀 金 兵 長 4.2 厚 4.1 厚 1.0	變化が複雑。かこであろう。	
13	H 4. 4	鐵 土	刀 長 3.4 厚 3.4 厚 2.5	變化が複雑。	
14	H 4. 5	鐵 土	刀 長 7.3 厚 6.7 厚 1.5	變化が複雑。	
15	H 4. 6	鐵 土	刀 長 8.3 厚 4.9 厚 1.6	變化が複雑。	

出土遺物の観察表について

出土遺物の観察表は土器、鉄器、石製品、木器及びその他の遺物と植物の都合上3つに分け記述した。

[番 号] 実図版と写真図版に共通のもの。

[地 区・層 位] 出土遺物番号と併せて造構内での遺物番号(造構内出土位置に対応)を併記した。層位は「床直」「壁内」「埋土下層」「埋土上層」に分けた。「床直」は床直面上及び床面から10センチ以内で出土したものとし、「壁内」は壁内部より出土したもの、「埋土下層」「埋土上層」は「床直」より上部を便宜的に2層に分けたものである。尚、数字で表された層位はその遺構での層位に対応したものである。

[番 号] 「器後」は「壺」「瓶」「杯」「碗」「皿」「壺(底蔵形態)」「壺」等に分類し、種別として「土器」「須恵器」「灰釉」「銀瓶」等の区別をした。

[法 量] 器高、口縁部径、底部径、体部最大幅を計測し、それぞれ「高」「口」「底」「体最」と略した。反転復原等により指定された計測値には()を付け、復原できないものについては現存での計測値としてそれに[]を付けて了。

[形 線 及び 成形・調整技法] 調整技法は各部位ごとに「i」(内面)、「o」(外周)に分け記述した。また、「→」により調整の順序を示した。

[色 滅] 土器外面で観察し、色名は 小山正忠他1967「新波標準土色帖」日本色研究所株式会社によった。

[備 考] 烧成として「硬質」「やや硬質」「やや軟質」「軟質」の区別をし、「須恵器」に関しては色質等により「酸化焼成」「還元焼成」の区別をした。また土器に関して特徴的なものに限り記述した。

Tab. 5 住居跡一覧表

遺構名	位置	規模 (m)	面積 (m ²)	壁現高 (cm)	主軸方向	竪	備考	
							重複等	
H-1	X29~31, Y41~42	3.27×(3.96)	(12.53)	22	N-86°-E	東	壁	H-2 W-1
H-2	X29~31, Y41~42	5.66×(3.36)	(16.79)	45	N-92°-E	な	し	H-1 H-4 W-1
H-3	X27, Y39~40	(0.60)×(3.18)	(1.73)	23	[N-87°-E]	東	壁	H-2 W-5
H-4	X29~30, Y42	3.42×(1.82)	(5.23)	20	[N-87°-E]	な	し	H-2 W-1 W-3 W-4
H-5	X27~28, Y39~41	(3.82)×5.19	(17.03)	54	[N-87°-E]	な	し	H-8 D-8 W-3 W-4
H-6	X27, Y41~42	(2.21)×3.42	(5.04)	4	N-91°-E	東壁南寄り		H-7 D-3 D-4 W-7
H-7	X26~27, Y41~42	(2.08)×4.22	(6.48)	6	N-84°-E	東壁南寄り		H-6 W-7
H-8	X28, Y39	(2.75)×(1.34)	(2.69)	45	[N-75°-E]	な	し	H-5 W-3 W-4 W-5
H-9	X28, Y37~38	(2.08)×3.80	(7.47)	33	N-92°-E	な	し	H-44
H-10	X27~28, Y36~37	(3.06)×5.23	(15.68)	50	N-96.5°-E	東壁南寄り		H-13 E-44
H-11	X27~28, Y36~37	3.43×31.2	9.77	28	N-69°-E	東	壁	H-10
H-12	X27~28, Y35~36	(1.58)×4.72	(6.00)	10	N-85°-E	東	壁	H-11
H-13	X28, Y35~36	(1.67)×3.95	(5.80)	40	N-88°-E	な	し	H-10 H-15
H-14	X25~27, Y32~33	(4.25)×3.85	(16.94)	9	N-83°-E	東壁南寄り		H-8 W-9 H-21 古い壁あり
H-15	X28, Y35	(0.85)×(1.85)	(1.26)	42	(N-86°-E)	な	し	H-13 E-16
H-16	X28, Y34~35	(1.18)×3.28	(3.25)	35	N-94°-E	な	し	H-15 D-38 D-51
H-17	X27~28, Y33~34	(1.88)×3.25	(3.82)	16	N-85°-E	東壁南寄り		D-42
H-18	X27~28, Y32~33	2.85×2.83	7.50	20	N-91°-E	東壁南寄り		W-9
H-19	X28, Y32~33	(2.27)×3.28	(6.11)	40	N-94°-E	な	し	H-20
H-20	X-28, Y33	(0.75)×(0.57)	(0.55)	28	[N-87°-E]	な	し	H-19
H-21	X26~27, Y33	(0.6)×(1.23)	(0.66)	14	N-85°-E	東	壁	H-14 W-9
H-22	X27, Y40	(0.19)×(1.95)	(0.86)	10	N-90°-E	東	壁	H-3 D-46
H-23	X19~20, Y42	3.48×(0.96)	(1.87)	16	N-78°-E	な	し	H-45
H-24	X18~19, Y41~42	3.45×(3.01)	(5.96)	4	N-58°-E	な	し	
H-25	X14~15, Y42~42	3.45×(2.35)	(4.59)	6	N-60°-E	東壁南寄り		
H-26	X13~14, Y41~42	2.88×(1.67)	(4.50)	40	N-86°-E	東	壁	W-25
H-27	X12, Y40~41	3.00×5.60	9.75	32	N-86°-E	東	壁	壁の両側に徑あり
H-28	X11, Y41~42	(1.13)×3.72	(4.94)	25	N-88°-E	東	壁	W-27
H-29	X11~12, Y40~41	(2.65)×3.28	(7.41)	25	N-81°-E	東	壁	
H-30	X11~13, Y39~40	(1.21)×3.19	(3.46)	28	N-92°-E	な	し	H-47 D-69
H-31	X11, Y39	(0.62)×(2.56)	(1.01)	14	N-96°-E	東壁南寄り		H-32 H-33 H-47
H-32	X11, Y39~40	(1.83)×3.12	(2.86)	19	N-85°-E	東壁南寄り		H-31 H-47
E-33	X11, Y38~39	(1.66)×4.22	(5.16)	30	N-82°-E	東壁南寄り		H-31 E-34
H-34	X11~12, Y38~38	(2.71)×3.46	(8.07)	13	N-88°-E	な	し	H-33
H-35	X11~12, Y37~38	(3.06)×3.48	(9.78)	12	N-90°-E	東壁南寄り		H-36 D-66
H-36	X11~12, Y36~37	(1.60)×(3.45)	(4.15)	5	N-79°-E	な	し	H-35
H-37	X11, Y35	(1.18)×(2.16)	(2.38)	15	N-93°-E	東	壁	H-38 H-39
H-38	X11~12, Y34~35	(1.76)×(2.33)	(3.43)	6	N-87°-E	な	し	H-37 H-39
H-39	X11~12, Y34~35	(3.20)×3.97	(12.79)	24	N-86°-E	東壁南寄り		H-37 H-38 H-40 H-41 H-46
E-40	X11, Y33~34	(1.86)×(2.23)	(3.82)	20	N-86°-E	東壁南寄り		H-38 H-46
H-41	X11~12, Y33~34	(2.78)×(2.85)	(4.12)	15	[N-82°-E]	な	し	H-39 H-39
H-42	X11, Y32~33	(2.09)×2.98	(6.15)	23	N-89°-E	東壁南寄り		
H-43	X14~15, Y32~33	2.99×(2.72)	(7.83)	10	N-88°-E	東壁南寄り		
H-44	X28, Y37	(0.85)×(1.54)	(1.20)	23	[N-80°-E]	な	し	H-9 H-10 H-11
H-45	X19~21, Y42	3.90×(2.47)	(6.31)	40	[N-73°-E]	東	壁	E-23
H-46	X11, Y34	—	(0.17)	—	—	東	壁	E-39 H-40 壁のみ
H-47	X11, Y39~40	2.67×4.14	[9.70]	34	N-90°-E	東壁南寄り		E-39 H-31 H-32 D-69

※検測値については「」は現存値「」は復元値を表す。

Tab. 6 痕跡一覧表

遺構名	主 墓 方 向	全 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	突 口 部 幅 (cm)	備 考 (構 造 材 等)
H-1	N-96° - E	75	64	27	支脚と袖の構造材として石を使用
H-3	N-94° - E	80	115	45	
H-6	N-94° - E	105	74	50	
H-7	N-92° - E	(77)	110	88	支脚の構造材として石を使用
H-10	N-96° - E	(85)	(94)	37	構造材として粘土を使用
H-11	N-103° - E	93	88	40	支脚と袖の構造材として石を使用
H-12	N-87° - E	92	88	60	構造材として粘土を使用
H-14	N-75° - E	100	70	50	支脚と袖の構造材として石を使用
H-17	N-84° - E	80	96	45	構造材として粘土を使用
H-18	N-101° - E	82	75	36	支脚と袖の構造材として石を使用
H-21	N-52° - E	(30)	(50)	(22)	
H-22	N-92° - E	90	88	60	
H-25	N-83° - E	70	(65)	(57)	
H-26	N-72° - E	66	73	47	
H-27	N-82° - E	110	112	57	
H-28	N-67° - E	100	78	48	支脚の構造材として石を使用
H-29	N-88° - E	110	67	43	袖の構造材として石を使用
H-31	N-86° - E	55	52	30	
H-32	N-86° - E	77	77	44	
H-33	N-83° - E	68	73	45	構造材として粘土を使用
H-35	N-110° - E	56	56	30	支脚の構造材として石を使用
H-37	N-95° - E	67	65	52	
H-39	N-93° - E	(50)	63	35	支脚の構造材として石を使用
H-40	N-86° - E	70	75	60	支脚の構造材として石を使用
H-42	N-90° - E	70	85	68	
H-43	N-92° - E	68	75	52	
H-45	N-79° - E	(82)	(74)	(56)	
H-46	N-82° - E	(40)	(50)	(25)	
H-47	N-93° - E	102	80	30	支脚と袖の構造材として石を使用

Tab. 7 住居跡柱穴等計測表

遺構名	種類	形 状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
H-5	貯藏穴	楕円形	115	55	44
E-9	貯藏穴	楕円形	100	88	15
H-11	P-1	円 形	70	67	21
H-14	P-1	半円形	60	(48)	23
H-18	床下土坑	楕円形	130	50	13
H-19	P-1	半円形	82	(45)	23
H-23	P-1	円 形	56	50	13
H-27	P-1	不整形	101	90	12
H-29	P-1	半円形	53	(30)	23
H-33	貯蔵穴	楕円形	(113)	100	15
H-36	P-1	半円形	100	95	8
H-39	貯蔵穴	円 形	56	50	31
H-39	P-1	半円形	63	(53)	37
H-43	若窓穴	楕円形	48	40	15
H-43	P-1	-	45	48	26
H-45	P-1	楕円形	67	37	45
H-47	貯蔵穴	不整形	52	46	46
H-47	P-1	円 形	55	53	32

※検測値については()は現存値 []は復元値を表す。

Tab. 8 溝跡計測表

走標名	位 置	長さ(cm)	深さ(cm)	上 綫(cm)		方 位	形 状
				(cm)	最大		
W - 1	X28~35, Y41~42	(28.46)	28	62	50	注 b	U字形
W - 2	X32~35, Y41~42	(12.60)	26	261	96	注 c	楕円形
W - 3	X27~29, Y37~42	(21.50)	6	64	34	N-2° - W	楕円形
W - 4	X27~29, Y38~42	(19.40)	7	100	24	N-28° - W	U字形
W - 5	X27~28, Y39	(2.52)	30	73	66	N-88° - W	楕円形
W - 6	X27~28, Y38	(4.98)	34	92	38	N-77° - W	U字形
W - 7	X25~27, Y41~42	(4.98)	42	121	95	N-25° - W	すり鉢形
W - 8	X25~26, Y32~33	(5.65)	48	160	129	N-43° - E	すり鉢形
W - 9	X25~26, Y32~33	(9.22)	16	39	21	N-62° - E	すり鉢形
W - 10	X25~26, Y41~42	(4.98)	40	152	127	N-33° - W	楕円形
W-11南	X20~25, Y41~42	(5.50)	—	—	—	N-40° - W	—
W-11北	X15~19, Y32~33	(4.40)	88	1380	1310	N-14° - W	楕円形
W - 12	X25~26, Y32~33	(5.86)	8	26	21	N-35° - E	逆台形
W - 13	X24~25, Y32~33	(5.01)	18	51	28	N-26° - E	すり鉢形
W - 14	X24~25, Y32~33	(3.83)	6	48	19	N-50° - W	楕円形
W - 15	X22~23, Y32~33	(4.51)	17	83	31	N-5° - W	楕円形
W - 16	X22~23, Y32~33	(4.89)	39	85	51	N-25° - W	すり鉢形
W-17北	X21~22, Y32~33	(4.48)	(18)	377	368	N-17° - W	—
W - 18	X20~21, Y32~33	(5.15)	20	45	24	N-47° - W	逆台形
W - 19	X27~28, Y35	(3.76)	9	35	28	N-47° - W	楕円形
W - 20	X25, Y42	(2.62)	16	82	67	N-74° - E	すり鉢形
W - 21	X17~18, Y41~42	(5.78)	20	70	50	N-37° - W	楕円形
W - 22	X17~18, Y41~42	(5.58)	26	70	54	N-35° - W	すり鉢形
W-23北	X16~18, Y41~42	(6.35)	82	216	186	N-37° - W	すり鉢形
W - 24	X15~16, Y41	(2.51)	7	39	19	N-63° - E	楕円形
W - 25	X14~15, Y41~42	(8.17)	13	55	26	注 a	楕円形
W-17南	X25~26, Y41~42	(4.58)	—	280	150	N-18° - W	—
W - 27	X11, Y42	(2.70)	29	24	18	N-21° - W	楕円形
W - 28	X11~12, Y41	(5.30)	20	38	27	N-79° - E	U字形
W - 29	X11~12, Y32~34	(8.20)	6	35	18	N-13° - W	楕円形
W - 30	X11~12, Y36	(3.43)	34	50	35	N-85° - W	(U字形)
W - 31	X11~12, Y35~36	(3.45)	50	111	95	N-80° - W	逆台形
W - 32	X11~12, Y35	(3.41)	7	24	18	N-84° - W	U字形
W - 33	X12, Y32~33	(5.96)	5	41	23	N-21° - E	—
W - 34	X12~13, Y32~33	(5.20)	23	118	76	N-21° - E	楕円形
W - 35	X18, Y41~42	(3.42)	19	30	12	N-33° - W	すり鉢形
W - 36	X13~14, Y33	(3.10)	27	54	48	N-37° - W	逆台形

注 a : 北壁より西へ3.4mは、N-26° - E。そこから西へ4.8mはN-69°。

注 b : 東壁より西へ9.78mにN-77° - E。そこからまた西へN-90° - Eの方位で進み18.68mで消滅する。

注 c : 東壁より西へ7.76mにN-89° - E。そこから弯曲しながらN-57° - Eの方位で4.79m進み、南壁にぶつかる。

※検測値については()は現存値 [] は復元値を表す。

Tab. 9 土坑・井戸跡・落ち込み計測表

測量名	長軸	短軸	深さ	形状	透溝名	長軸	短軸	深さ	形次
	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)		(cm)	(cm)	(cm)	
D-1	45	35	5	円 円 形	D-41	51	39	38	不 整 形
D-2	56	56	16	円 形	D-42	57	85	6	円 形
D-3	33	32	6	菱 形	D-43	47	44	5	円 形
D-4	57	60	34	円 形	D-44	71	62	18	円 形
D-5	60	(30)	10	円 形	D-45	30	27	15	円 形
D-6	81	65	8	椭 圆 形	D-46	109	71	18	椭 圆 形
D-7	27	(21)	5	{ 円 形 }	D-47	126	90	11	{ 椭 圆 形 }
D-8	18	14	3	椭 圆 形	D-48	89	82	16	不 整 形
D-9	14	14	3	円 形	D-49	133	58	48	不 整 形
D-10	15	10	3	海 圆 形	D-50	49	40	36	不 整 形
D-11	10	10	4	円 形	D-51				欠 番
D-12	79	44	9	不 整 形	D-52	95	75	6	円 形
D-13	17	15	8	円 形	D-53	35	35	4	円 形
D-14	18	17	5	円 形	D-54	53	38	6	椭 圆 形
D-15	18	12	3	椭 圆 形	D-55	143	76	24	椭 圆 形
D-16	12	10	3	円 形	D-56	91	76	3	椭 圆 形
D-17	12	14	2	円 形	D-57	(68)	60	8	不 整 形
D-18	95	85	6	椭 圆 形	D-58	82	47	9	不 整 形
D-19	33	21	5	馬九長方形	D-59	71	66	3	正 方 形
D-20	13	13	2	円 形	D-60	136	140	62	円 形
D-21	13	11	3	円 形	D-61				欠 番
D-22	126	98	26	椭 圆 形	D-62	96	(30)	12	{ 円 形 }
D-23	174	(54)	14	{ 馬九長方形 }	D-63	92	65	14	椭 圆 形
D-24	9	8	4	円 形	D-64	57	78	17	円 形
D-25				欠 番	D-65	50	21	24	椭 圆 形
D-26	150	(72)	16	{ 円 形 }	D-66	110	108	19	円 形
D-27	70	51	8	椭 圆 形	D-67	95	93	15	円 形
D-28	79	(52)	(20)	馬九正方形	D-68	51	44	4	椭 圆 形
D-29	86	73	15	椭 圆 形	D-69	145	76	17	馬九長方形
D-30				欠 番	D-70	133	142	30	正 方 形
D-31	114	100	44	円 形	D-71	210	150	15	椭 圆 形
D-32	56	47	4	円 形	D-72	83	(44)	42	{ 円 形 }
D-33	79	66	56	菱 形	D-73	(54)	49	13	椭 圆 形
D-34	40	40	6	円 形	P-1	46	(39)	18	{ 円 形 }
D-35	27	21	7	海 圆 形	P-2	48	42	31	椭 圆 形
D-36	39	33	20	椭 圆 形	P-3	51	44	62	正 方 形
D-37	69	64	68	円 形	I-1	(155)	(49)	(200)	{ 方 形 }
D-38	72	65	14	円 形	O-1	-	-	40	不 整 形
D-39	87	64	8	椭 圆 形	O-2	-	-	46	不 整 形
D-40				欠 番					

※検査値については()は現存値 []は復元値を表す。

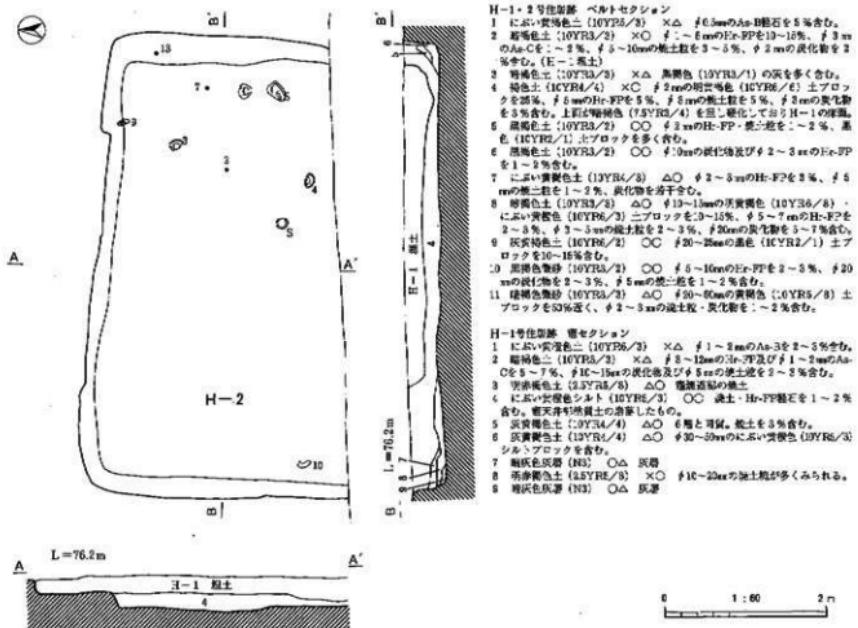
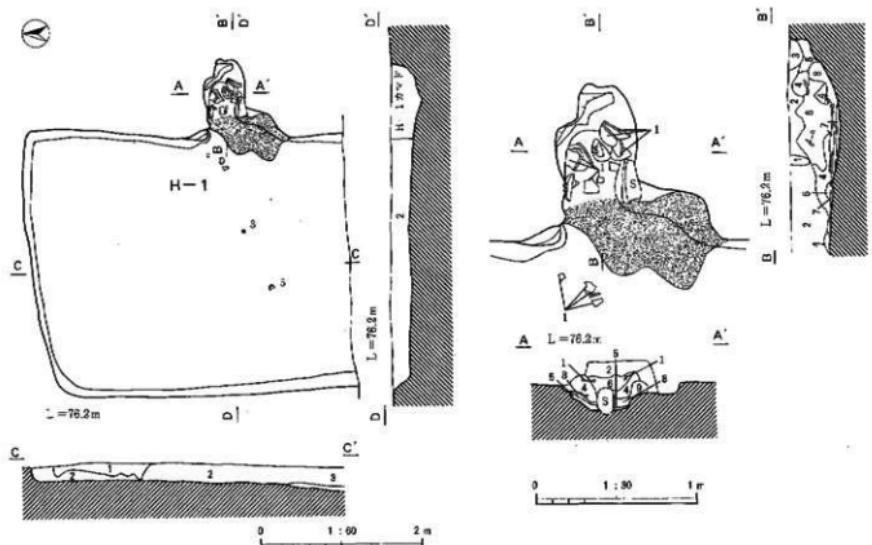


Fig. 6 H-1・2号住居跡

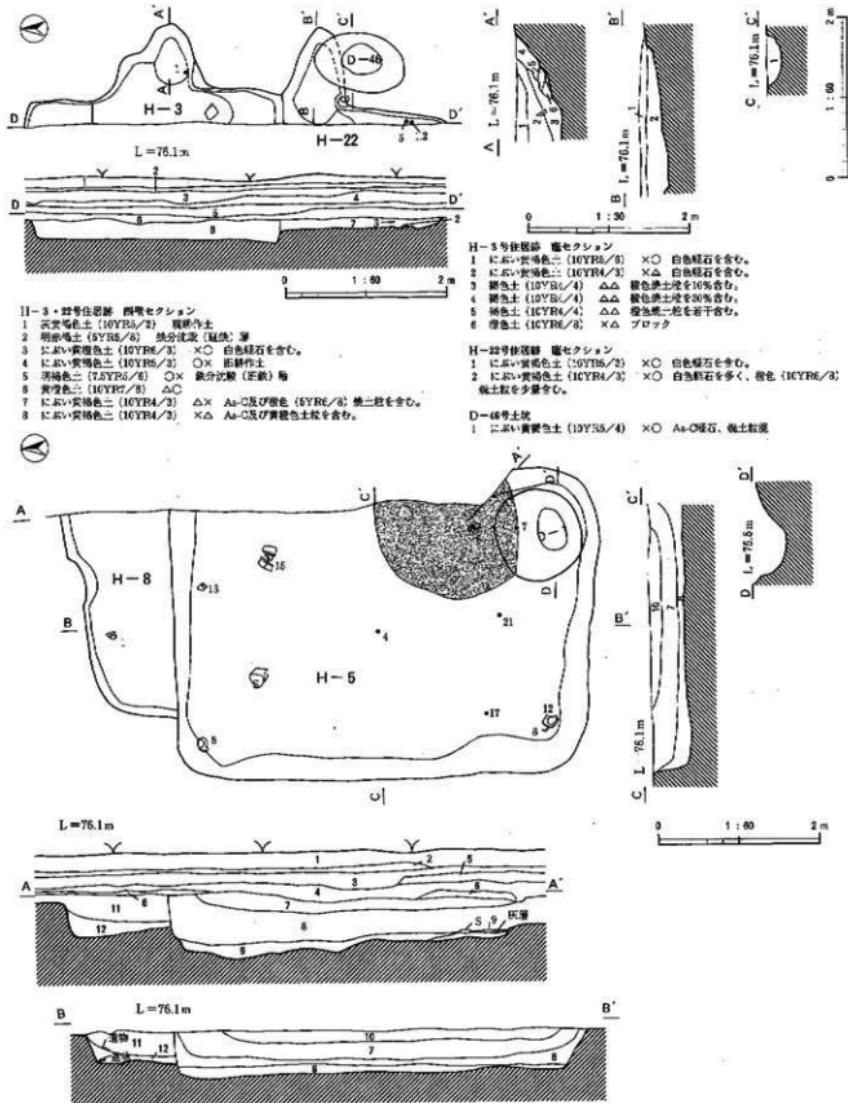


Fig. 7 H-3・22・5・8号住居跡、D-46号土坑

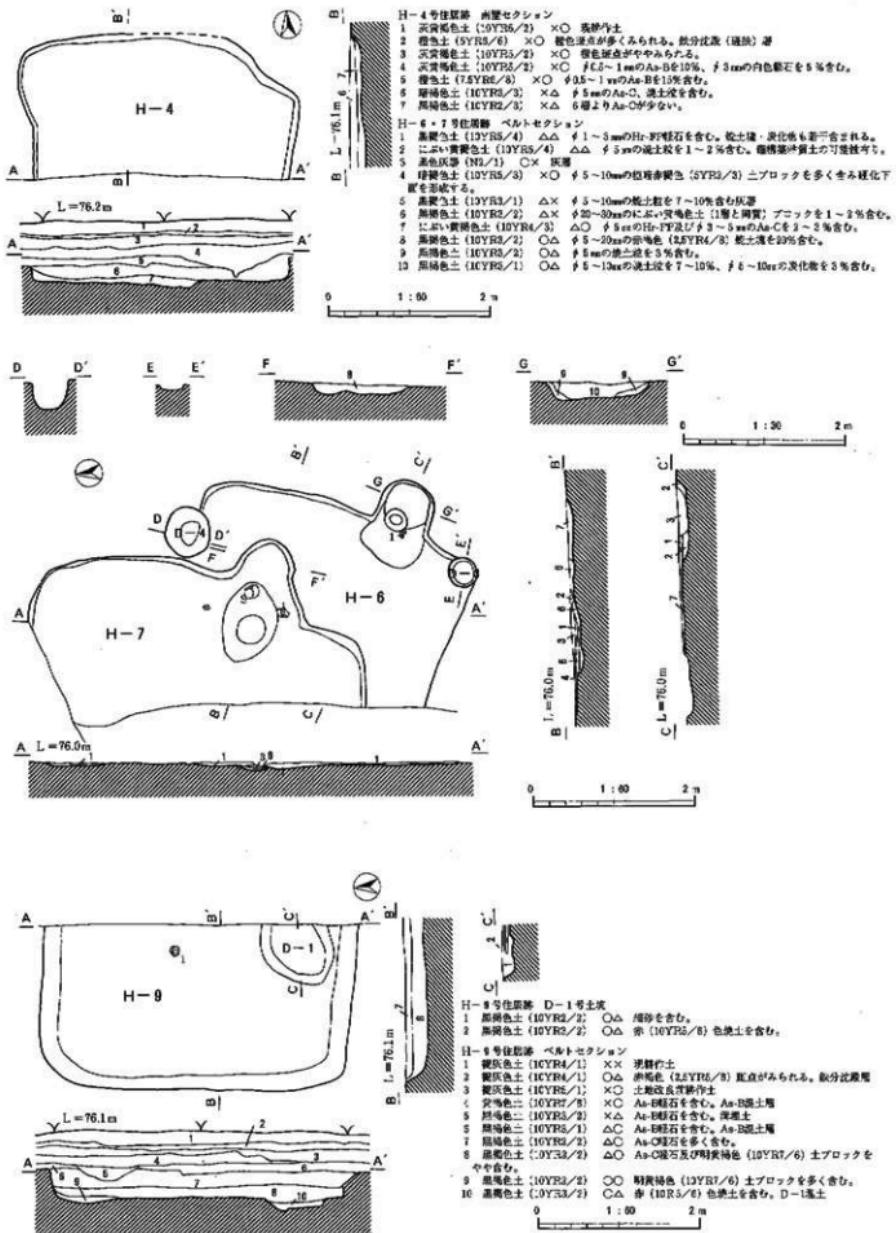


Fig. 8 H-4・6・7・9号住居跡、D-3・4号土坑

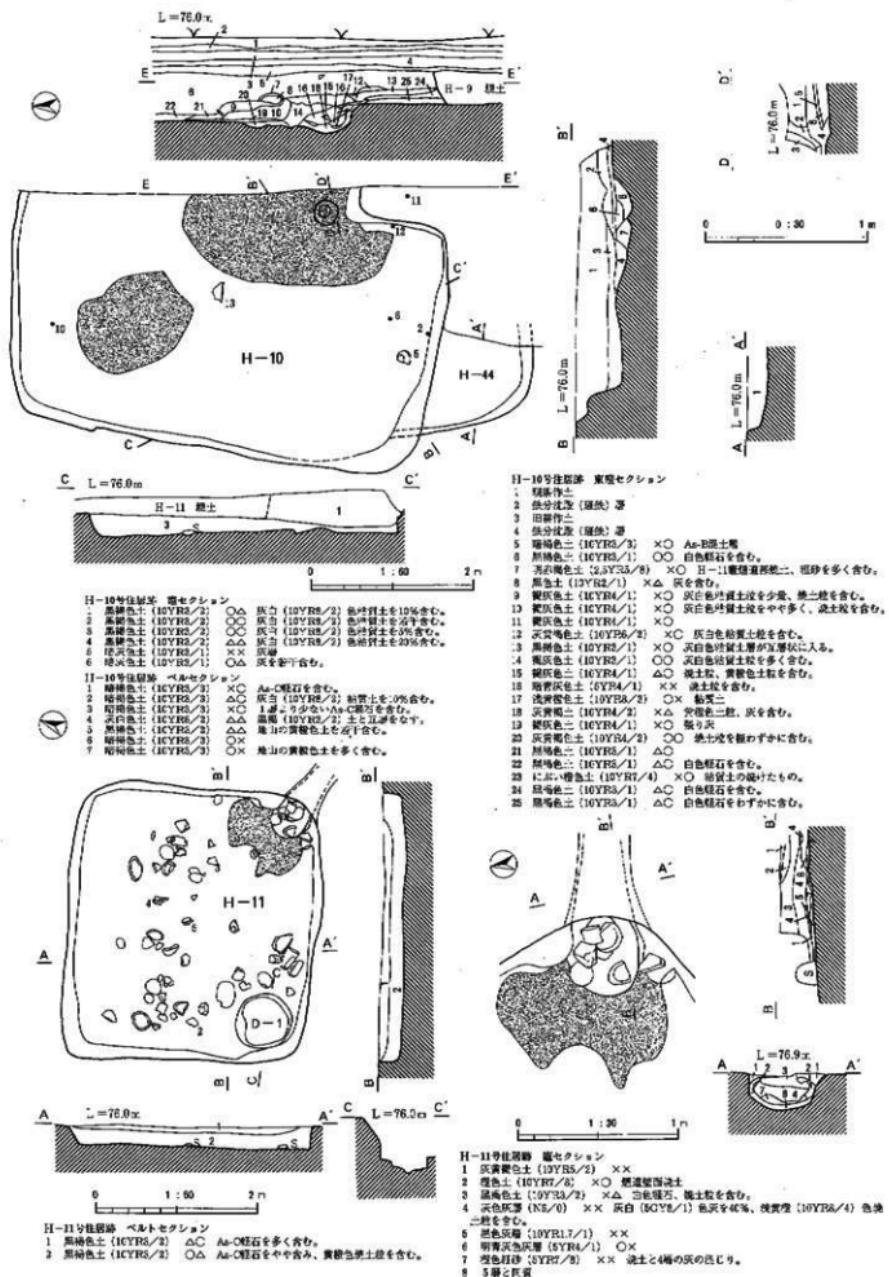


Fig. 9 H-10・11・44号住居跡

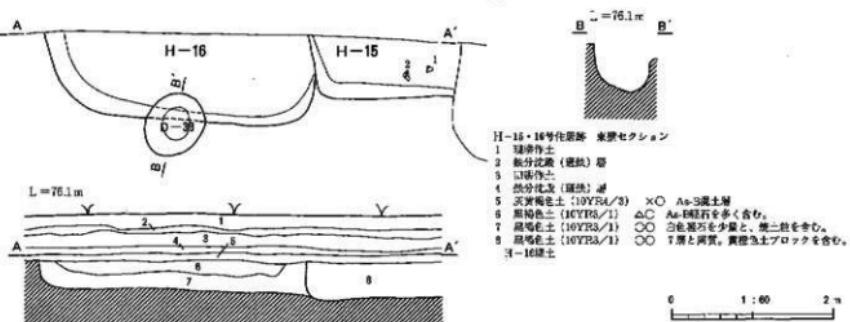
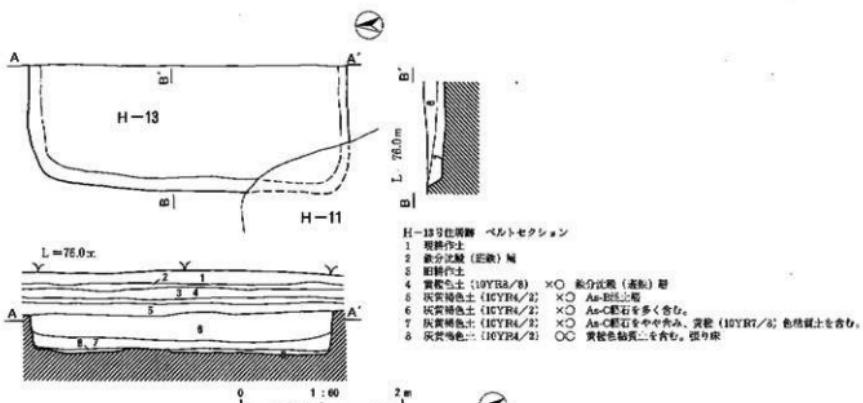
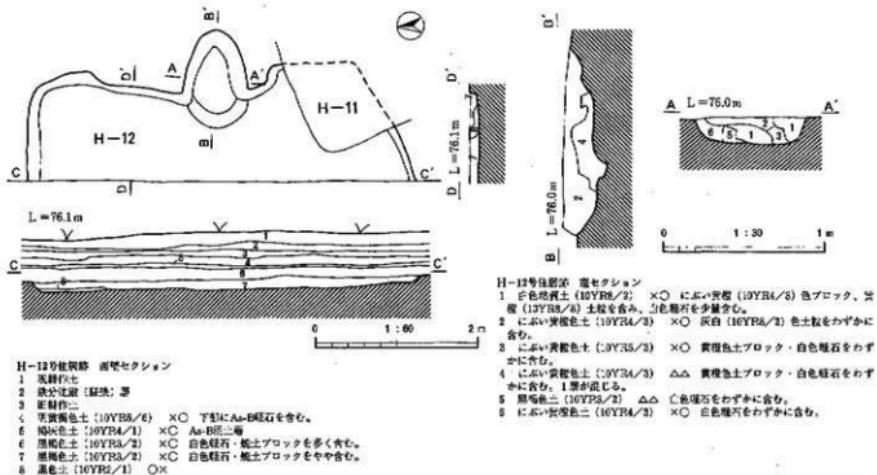
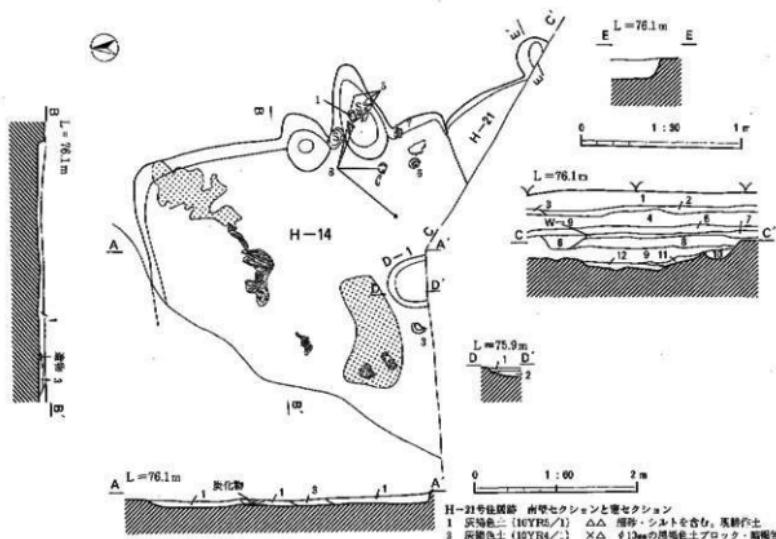


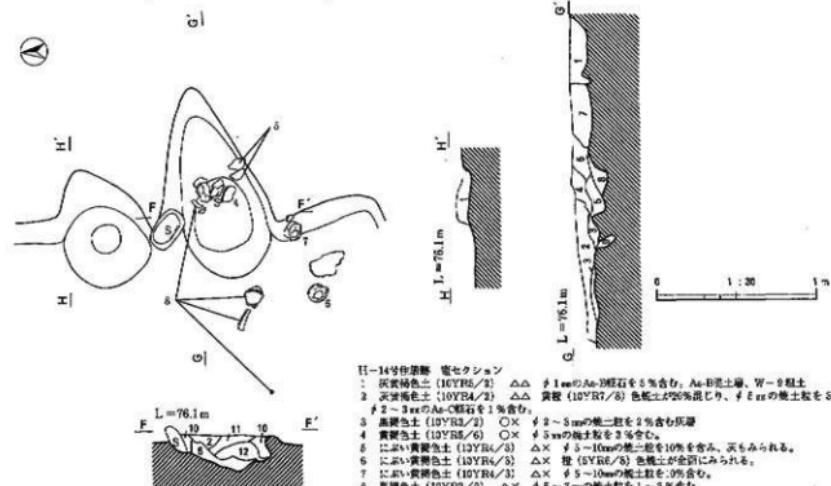
Fig. 10 H-11~13・15・16号住居跡、D-33号土坑



H-14号住居跡 ベルトセクションとW-8号消音セクション
 1 火成岩 (10YR5/2) ○× As-C砾石・泥 (SYR7/6) 色鉄土をわずかに含む。
 2 火成色土 (10YR8/2) ○△ 泥炭ロームブロックをやや含む。
 3 黑褐色土 (10YR2/2) ○○ 墓地ロームブロックを30%含む。

H-14号住居跡 D-1セクション
 1 黑褐色土 (10YR4/1) ♀ 3mmの泥土を2~3%含む。
 2 黑褐色土 (10YR2/2) ♀ 1mmの白色砾石を2~3%、♀ 3mmの泥土を極わずかに含む。

- H-21号住居跡 南壁セクションとセクション
 1 深成色土 (10YR8/1) △△ 領域: シルトを含む。灰化作土
 2 深成色土 (10YR8/1) ○× ♀ 1mmの黒褐色土ブロック・褐褐色As-B泥炭土ブロックを含む。
 3 深成色土 (10YR8/1) △△ 分級化段 (深成土): 黒
 4 深成色土 (10YR8/1) △△ ♀ 3~5mmの褐色色砾石を5%含む。II地作土
 5 黑褐色土 (10YR5/6) △○ ♀ 5~10mmのAs-C砾石を5%、♀ 1~2mmのAs-B砾石を5%含む。
 6 黑褐色土 (10YR4/1) △△ ♀ 0.5~1mmのAs-C砾石を5%含む。W-9黑土
 7 黑褐色土 (10YR4/3) △△ ♀ 0.5~1mmのAs-C砾石を20%、♀ 1~2mmの褐色
 色鉄土を3%含む。As-B泥炭土
 8 黑褐色土 (10YR5/1) ○△ ♀ 3mmのAs-C砾石・♀ 5mmのAs-C砾石を5%、
 ♀ 5mmの泥土を2%含む。
 9 黑褐色土 (10YR2/2) ○× ♀ 5~10mmの泥土を2~3%、灰化物を含む。
 10 黑褐色土 (10YR2/2) ○△ ♀ 10~15mmの泥土を5%含む。H-21號土
 11 黑褐色土 (10YR2/2) ○○ 黑褐色 (10YR5/6) 色土ブロックを3%含む。
 12 黑褐色土 (10YR2/1) ○○ ♀ 2~3mmのAs-C砾石・♀ 5mmの泥土を2%含む。
 強り味



- H-14号住居跡 室セクション
 1 黑褐色色土 (10YR6/2) △△ ♀ 1mmのAs-C砾石を5%含む。As-B泥炭土、W-9粘土
 2 黑褐色色土 (10YR4/2) △△ 露頭 (10YR7/6) 色紙土が26%混じり、♀ Eexの泥土を5%、
 ♀ 2~3mmのAs-C砾石を1%含む。
 3 黑褐色土 (10YR2/2) ○× ♀ 2~3mmの褐色土を2%含む。灰
 4 黑褐色土 (10YR5/2) ○× ♀ 3mmの褐色土を3%含む。
 5 にふく黒褐色土 (10YR4/3) △× ♀ 5~10mmの褐色土を10%を含む。灰もみられる。
 6 にふく黒褐色土 (10YR4/3) △+ 推 (SYR6/6) 色鐵土が混じてみられる。
 7 にふく黒褐色土 (10YR4/3) △× ♀ 5~10mmの褐色土を5%含む。
 8 黑褐色土 (10YR2/2) △× ♀ 2~3mmの褐色土を1~2%含む。
 9 灰成色土 (10YR5/2) △× ♀ 2~3mmの褐色土を5%含む。3層と同質の灰もみられる。
 10 灰成色土 (10YR5/2) ○△ ♀ 10mmの褐色土を5%含む。
 11 灰成色土 (10YR2/2) ○ 塔場から出土する泥土
 12 黑褐色土 (10YR2/1) ○× ♀ 5mmの褐色土を3%、また灰を多く含む。

Fig. 11 H-14・21号住居跡

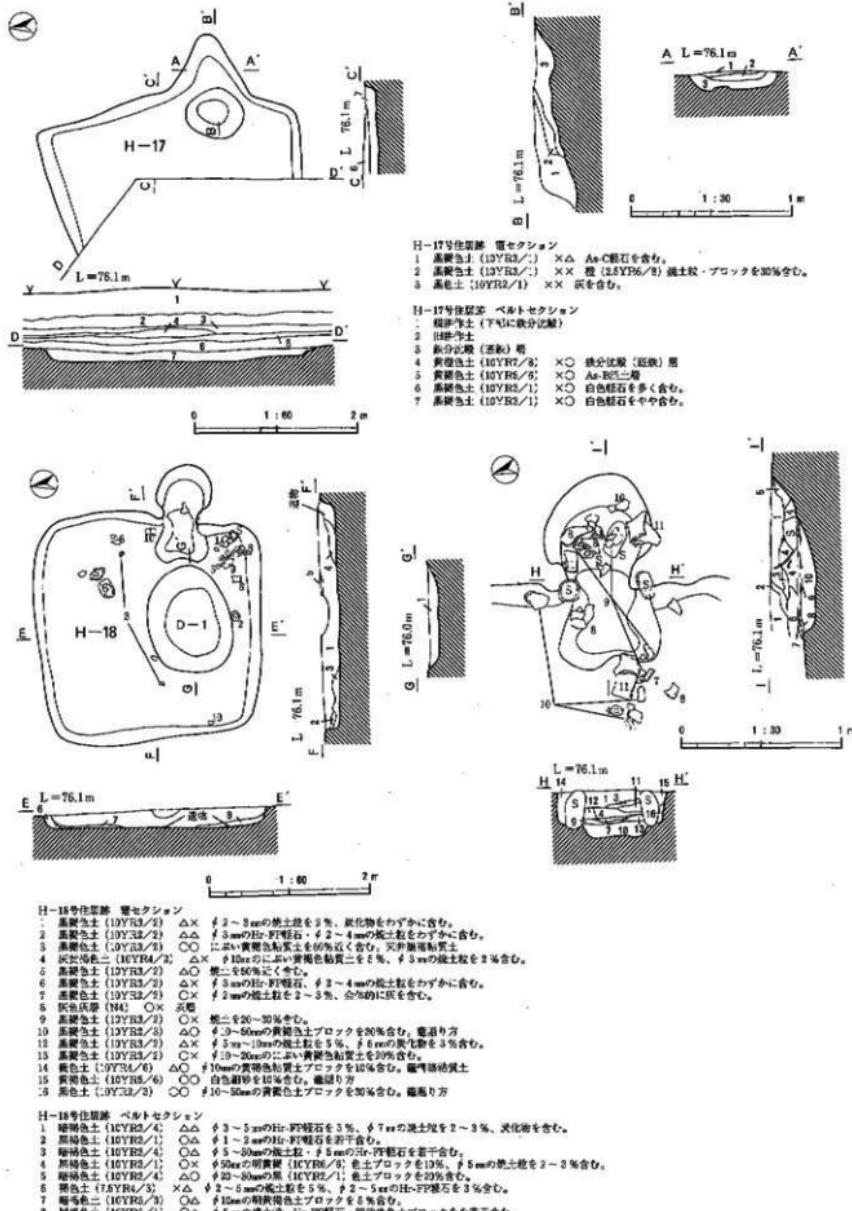


Fig. 12 H-17・18号住居跡

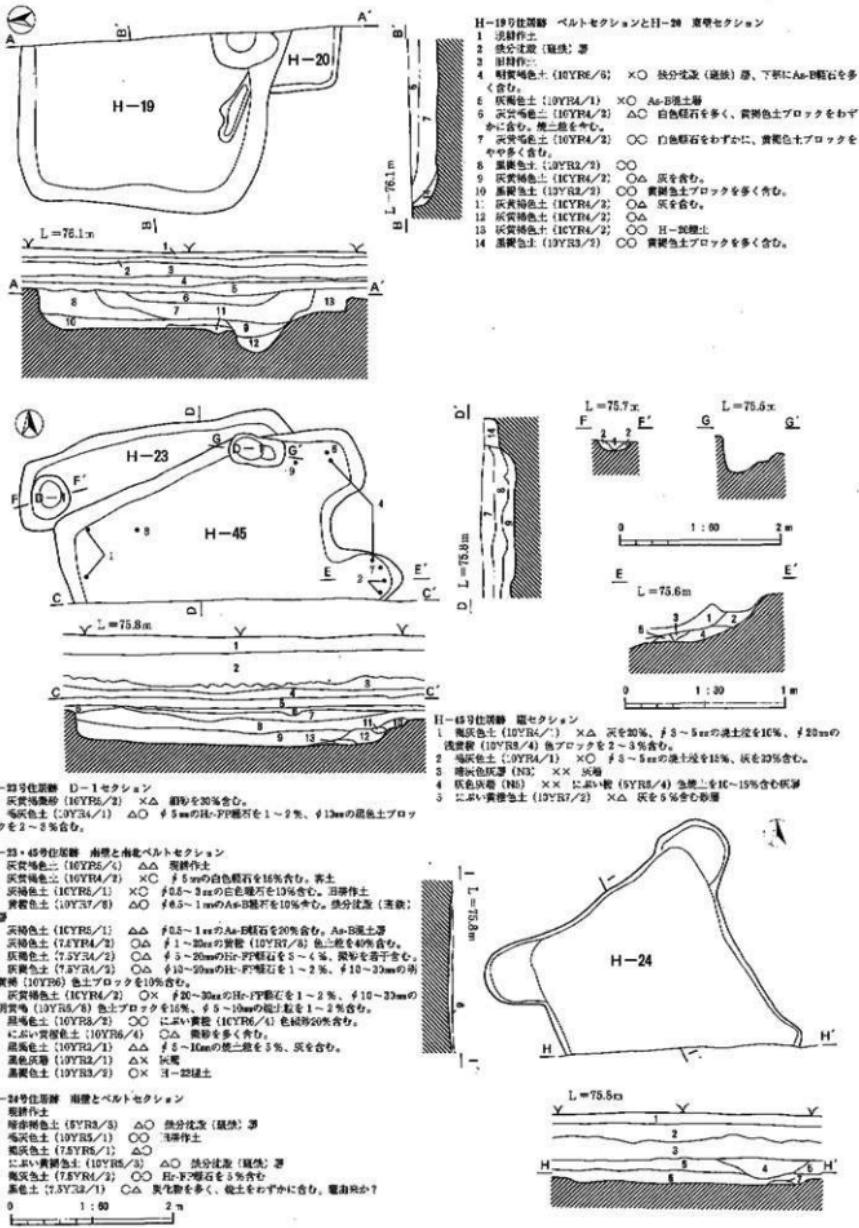


Fig. 13 H-19・20・23・45・24号住居跡

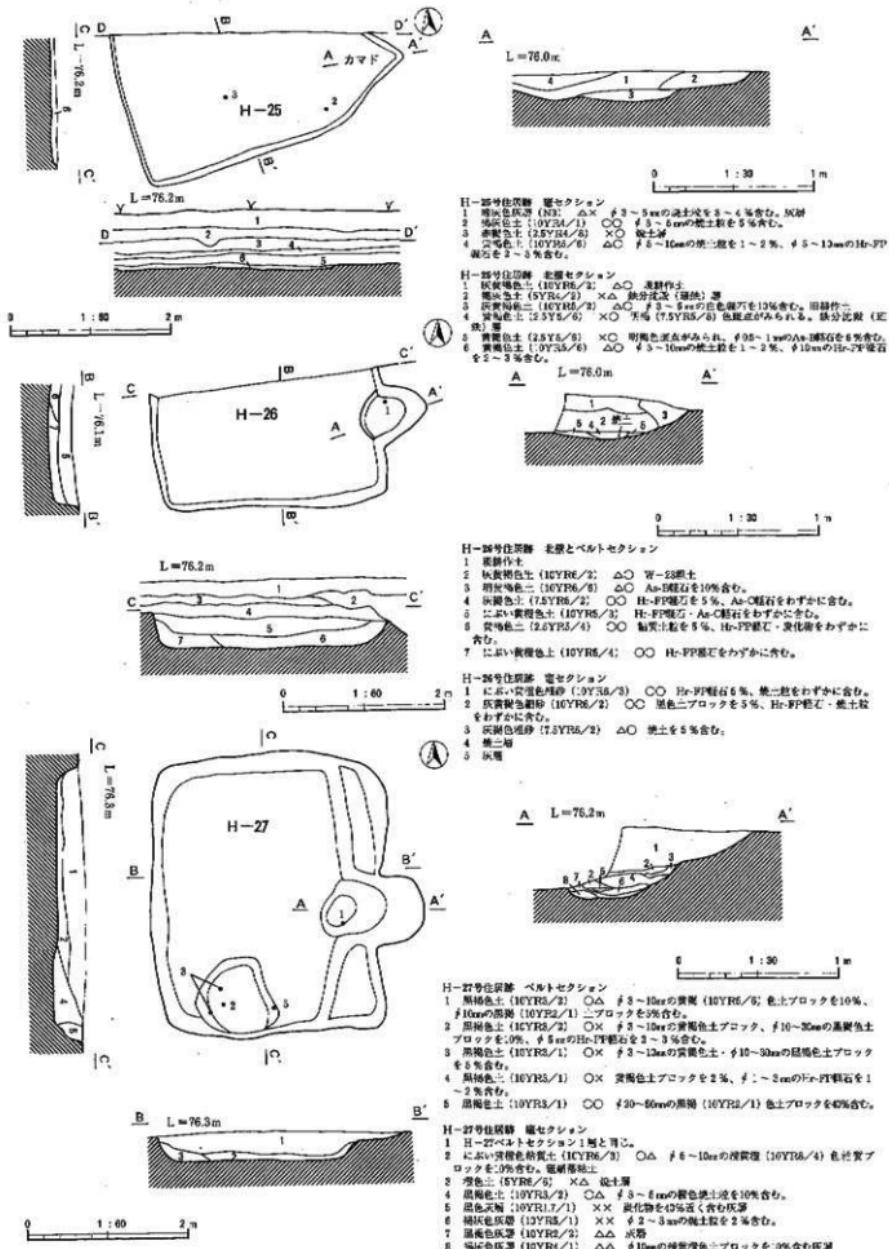


Fig. 14 H-25～27号住居跡

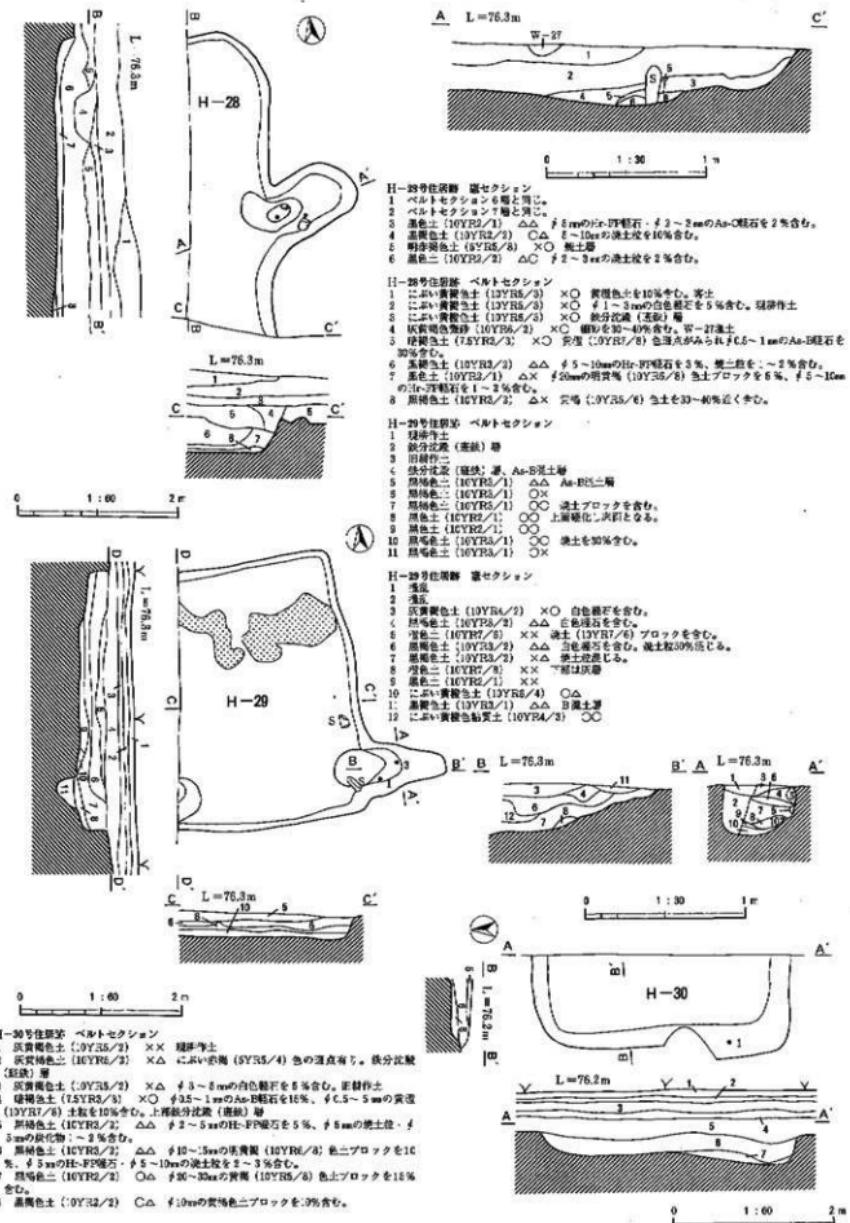
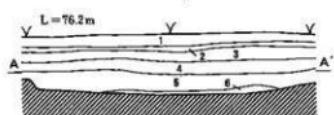
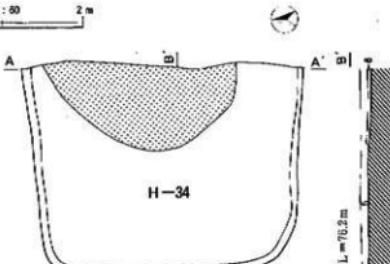
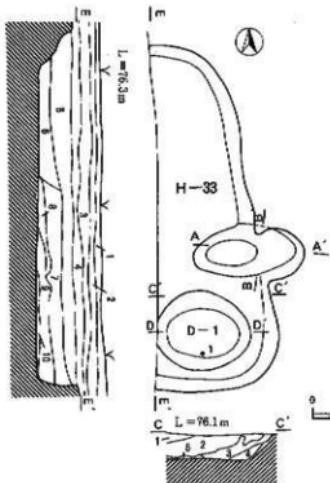
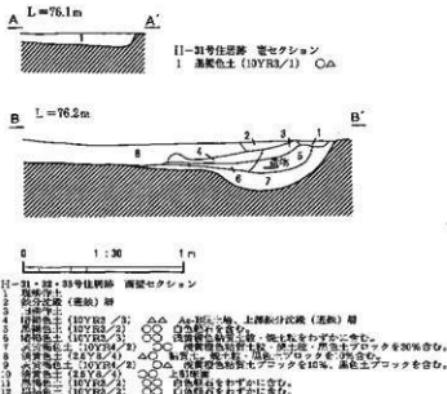
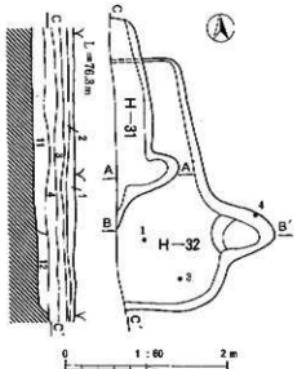


Fig. 15 H-28~30号住居跡



H-34号住居跡 ベルトセクション
1 黒褐色土
2 低分灰土 (底付)
3 灰褐色土
4 黄褐色土 (10YR7/8) ×○ Aa-Bt2二層、下部は6層との接続部
5 灰褐色土 (10YR6/3) △○ 白色砾石を含む。
6 黑褐色土 (10YR2/3) ○△ 灰を含む。

Fig. 16 H-31~34号住居跡

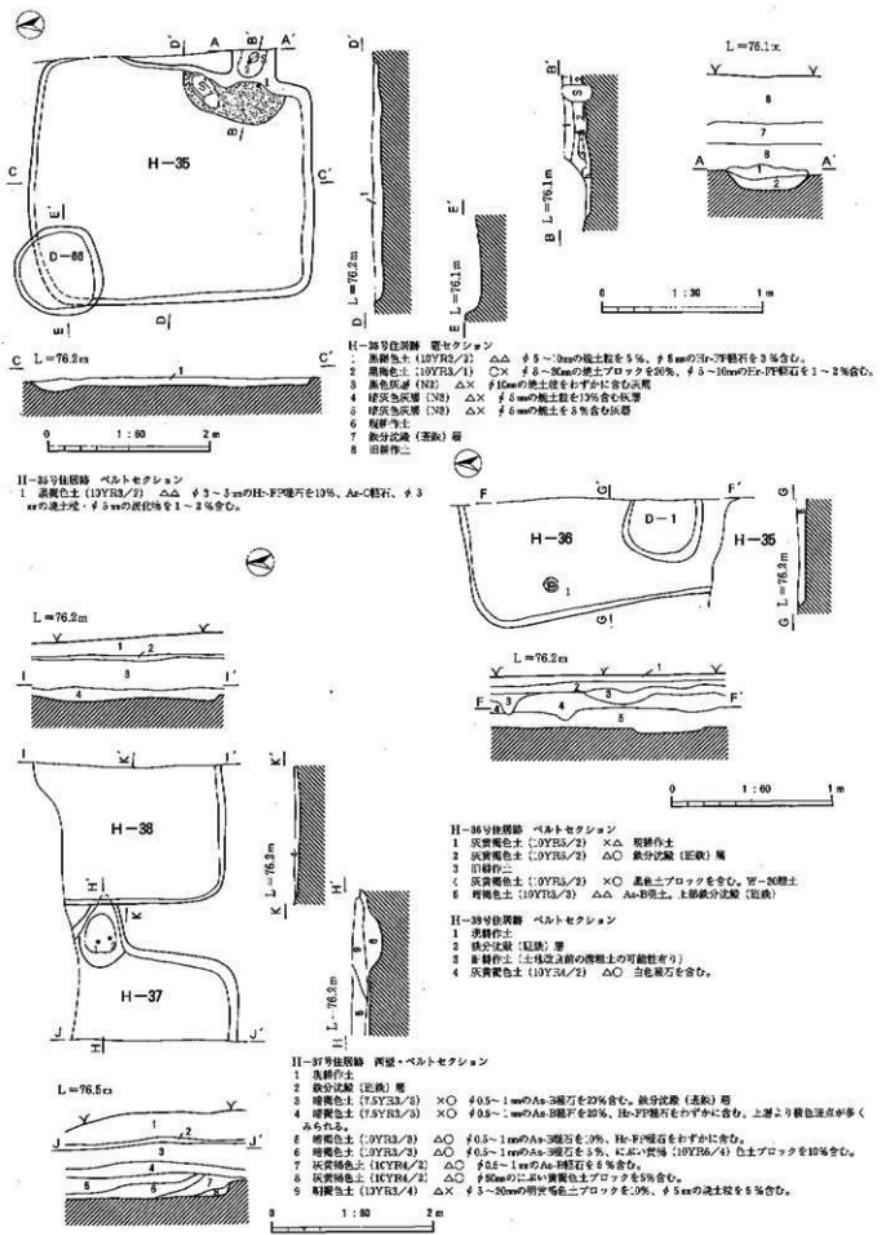


Fig. 17 H-35~38号住居跡、D-66号土坑

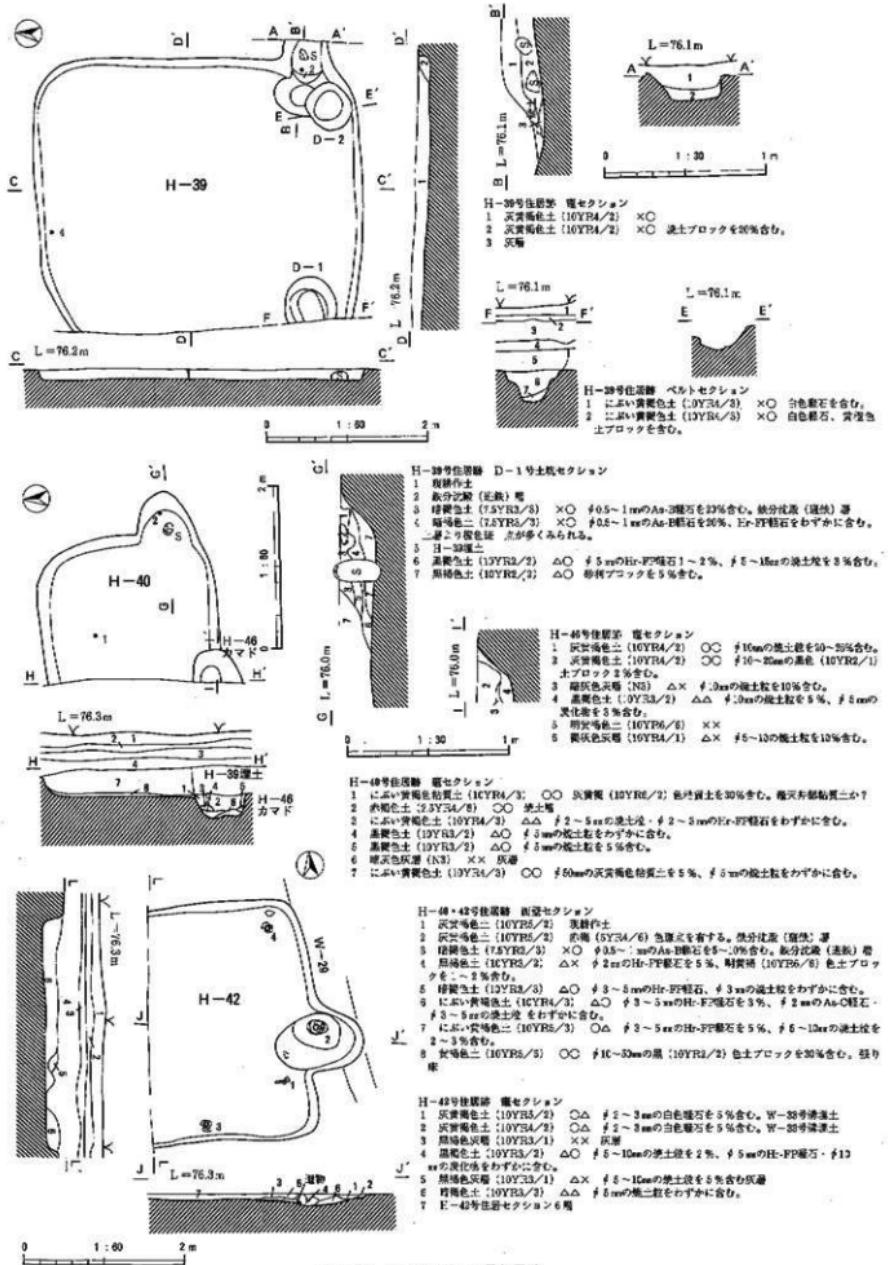


Fig. 18 H-39・40・42号住居跡

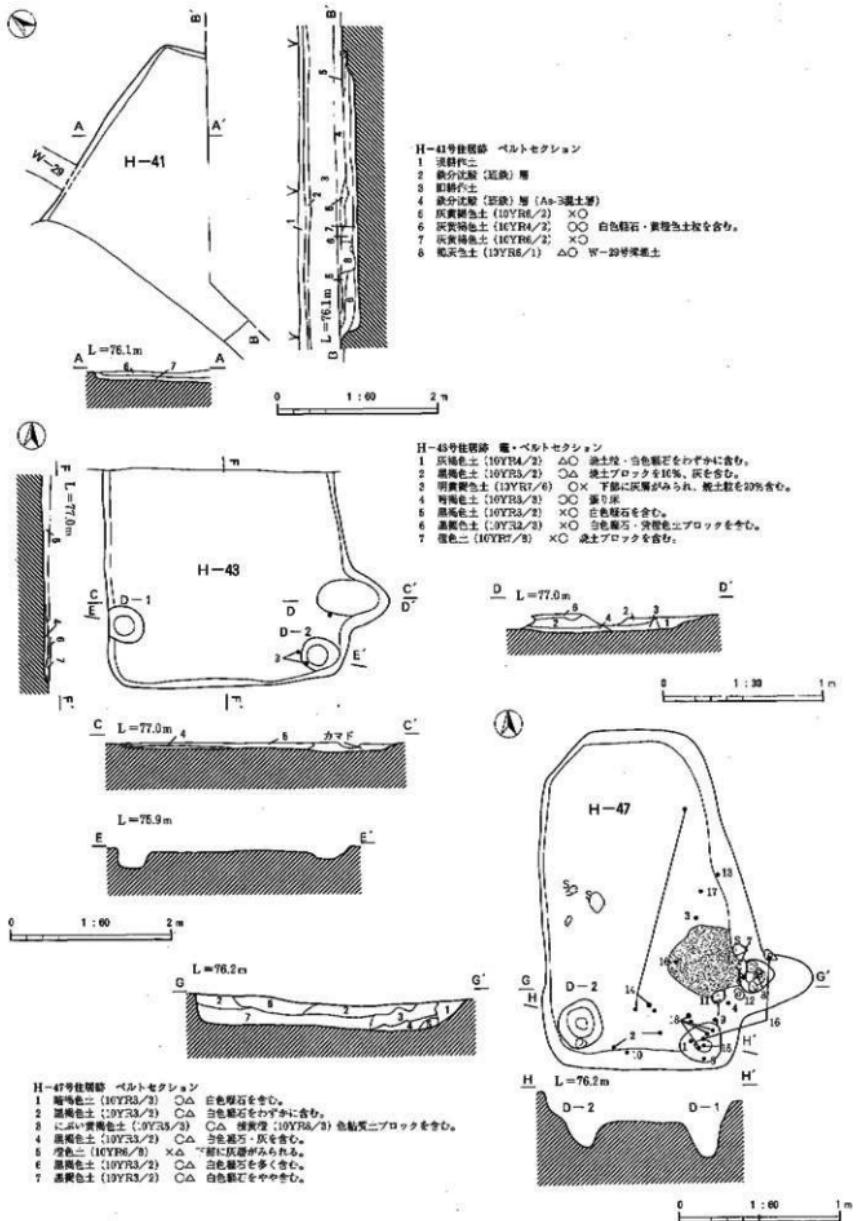
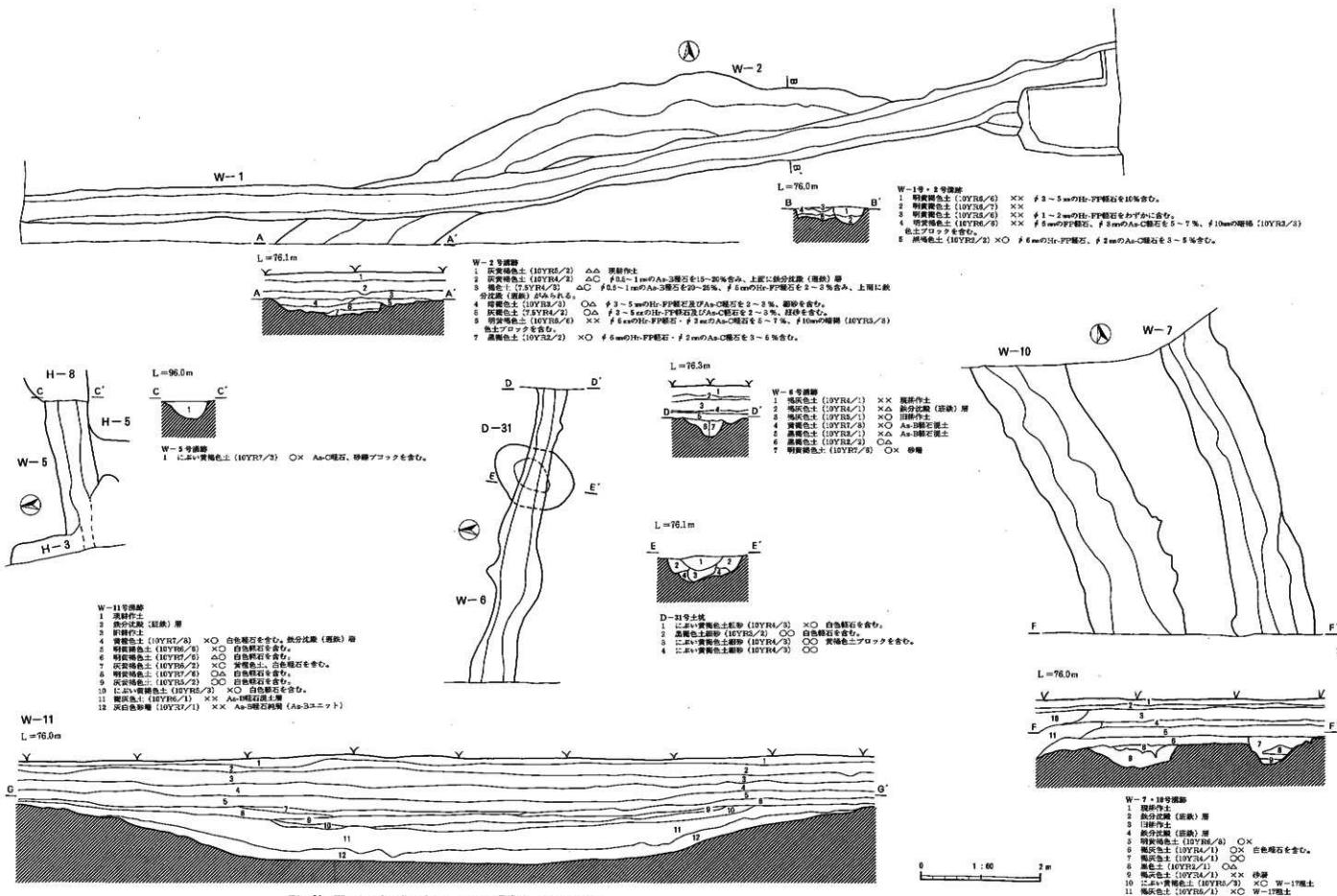


Fig. 19 H-41・43・47号住居跡



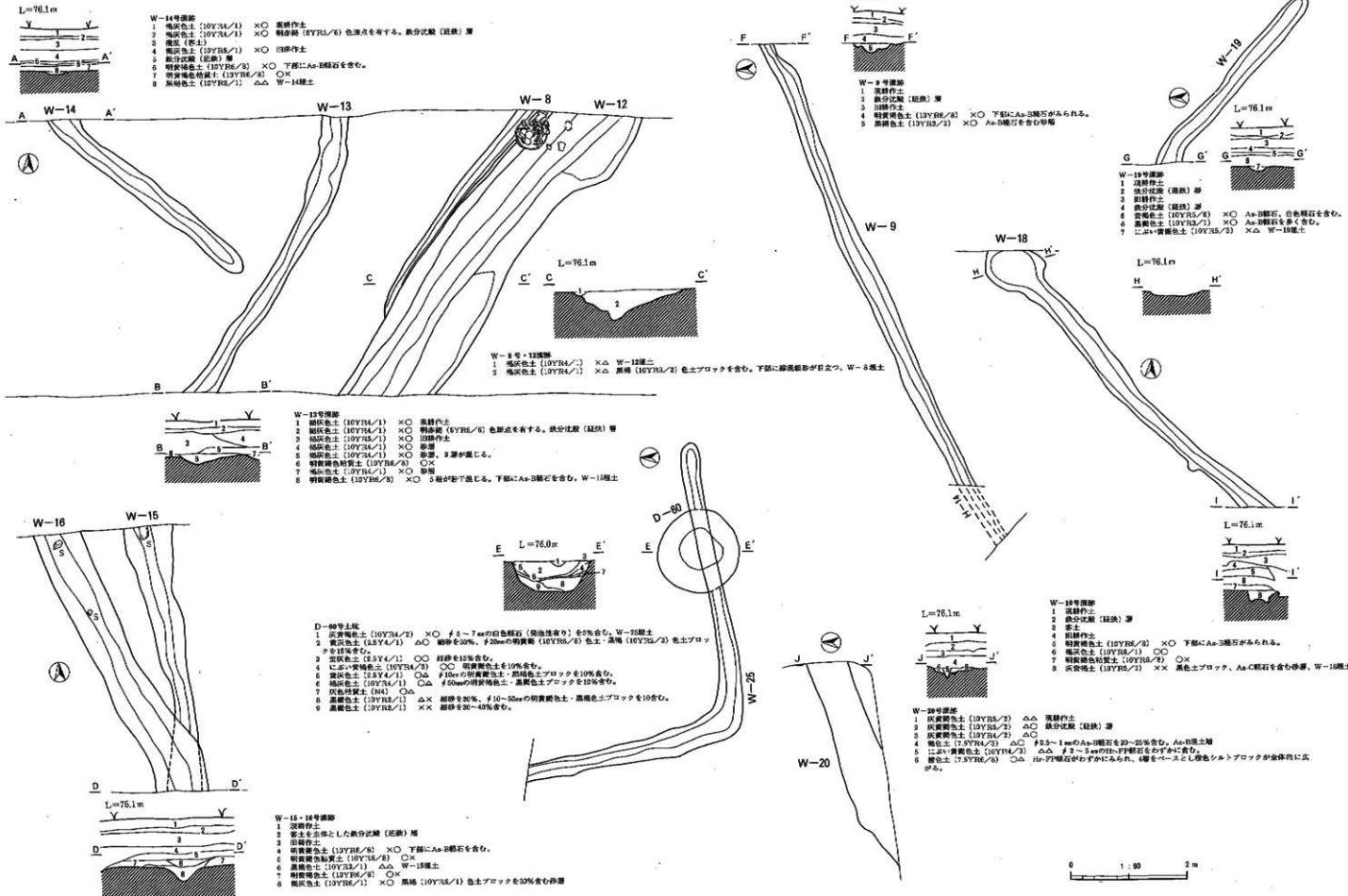


Fig. 21 W-8 - 9 - 12 - 13 - 14 - 15 - 16 - 18 - 19 - 20 - 25号溝跡 D-60号土坑

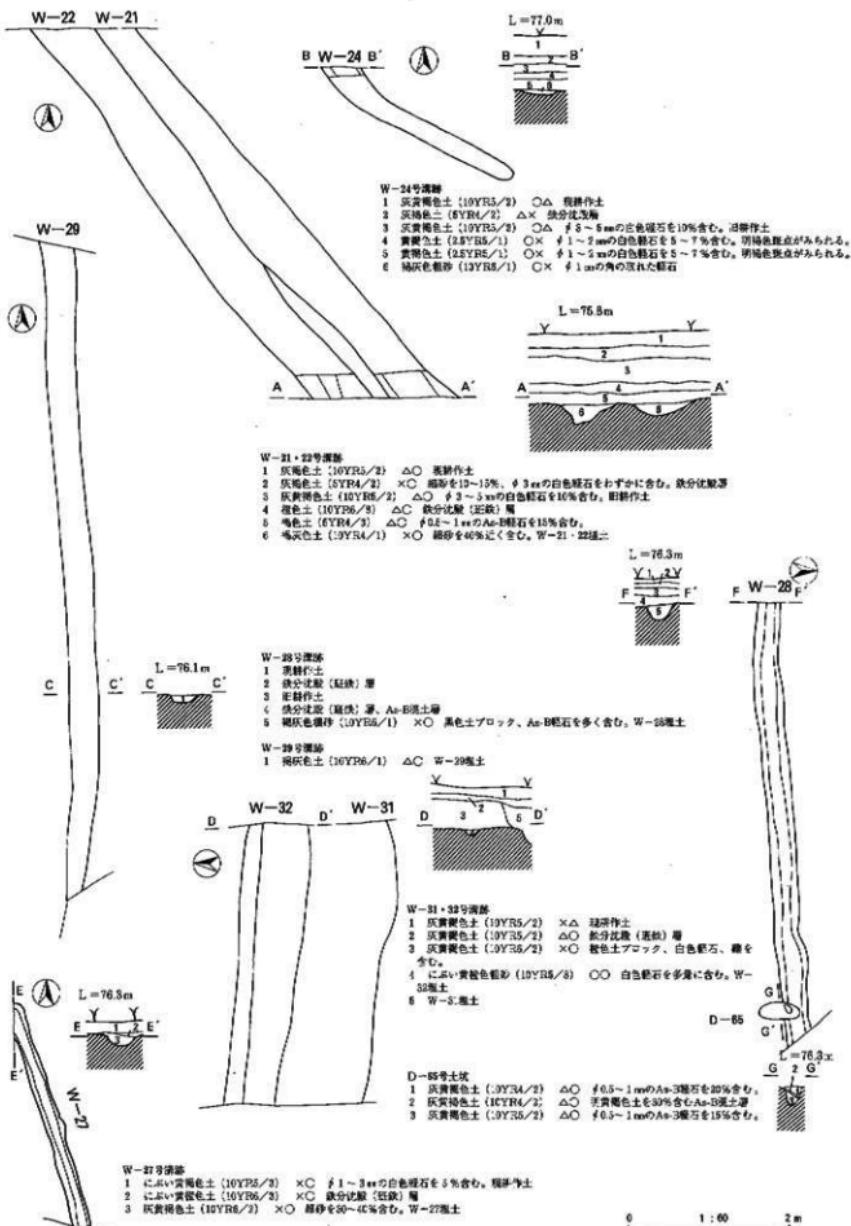


Fig. 22 W-21・22・24・27~29・31・32号測定

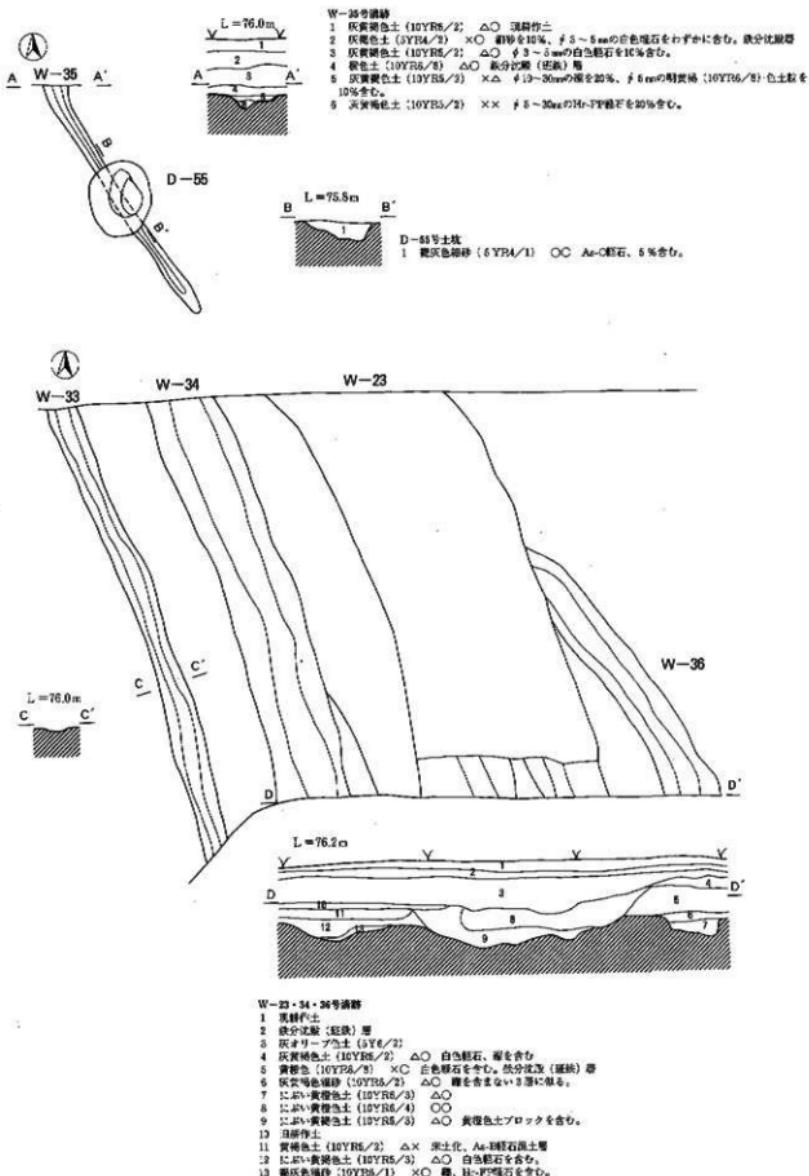


Fig. 23 W-23・33~36号潜跡

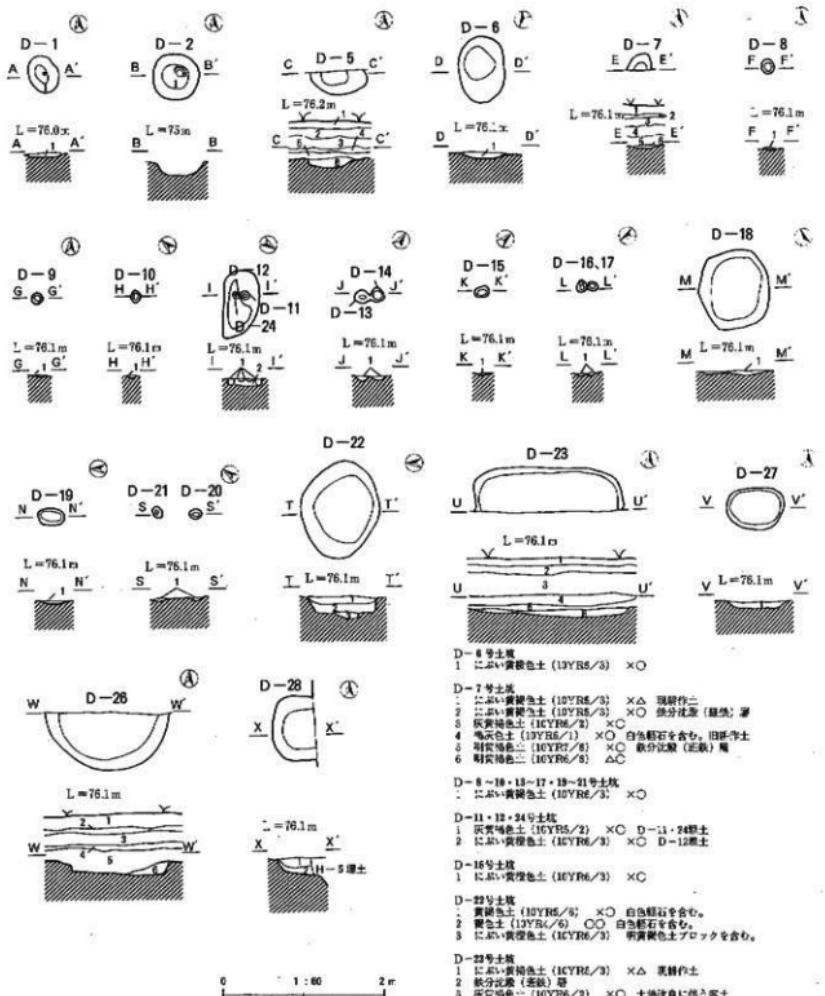


Fig. 24 D-1~28号土块

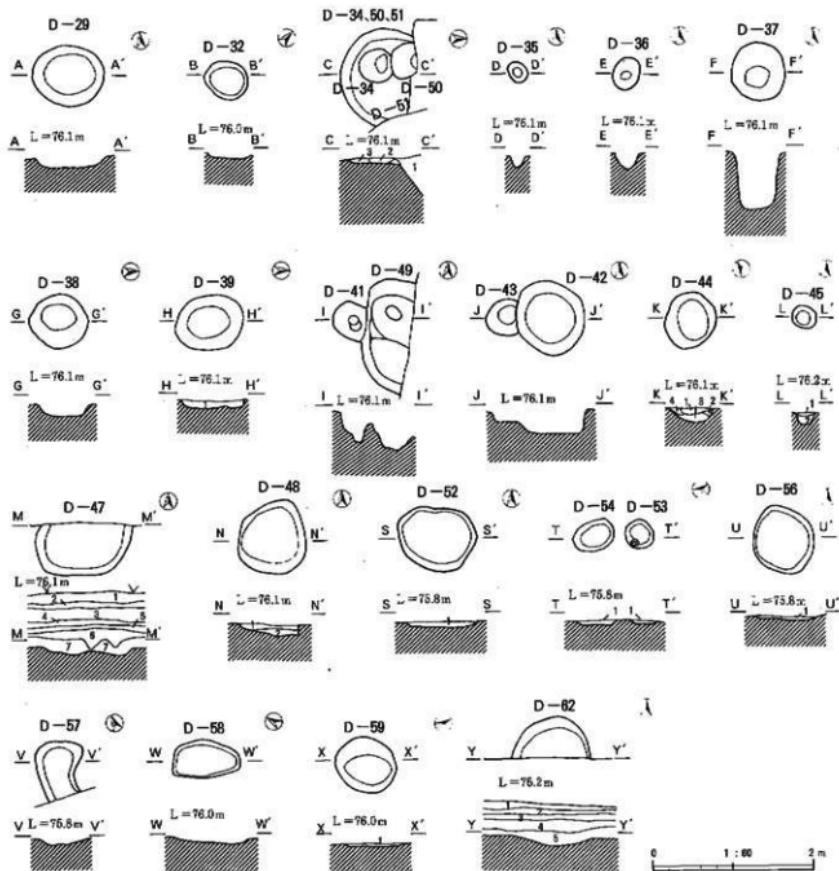


Fig. 24 D-1~28号土坑

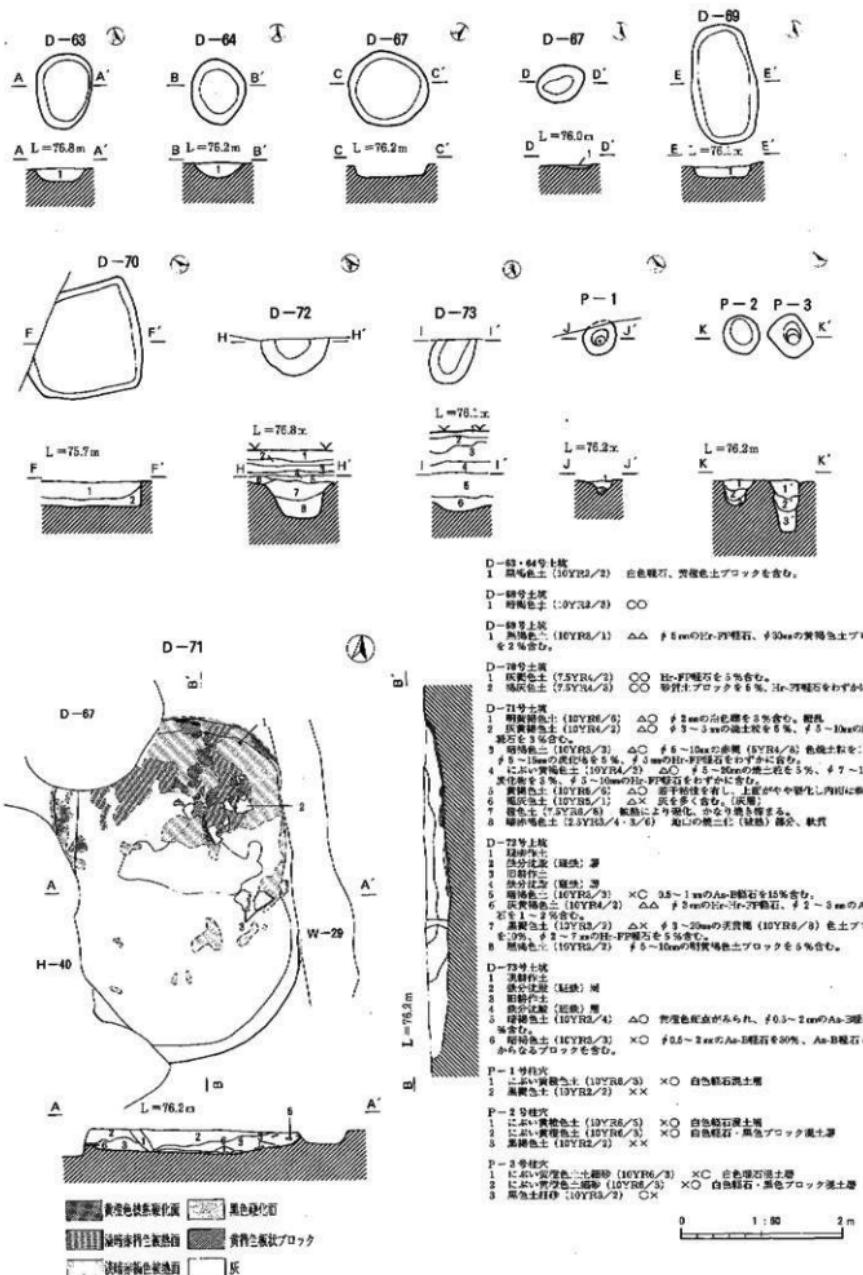


Fig. 26 D-63~73号土坑、P-1~3号柱穴

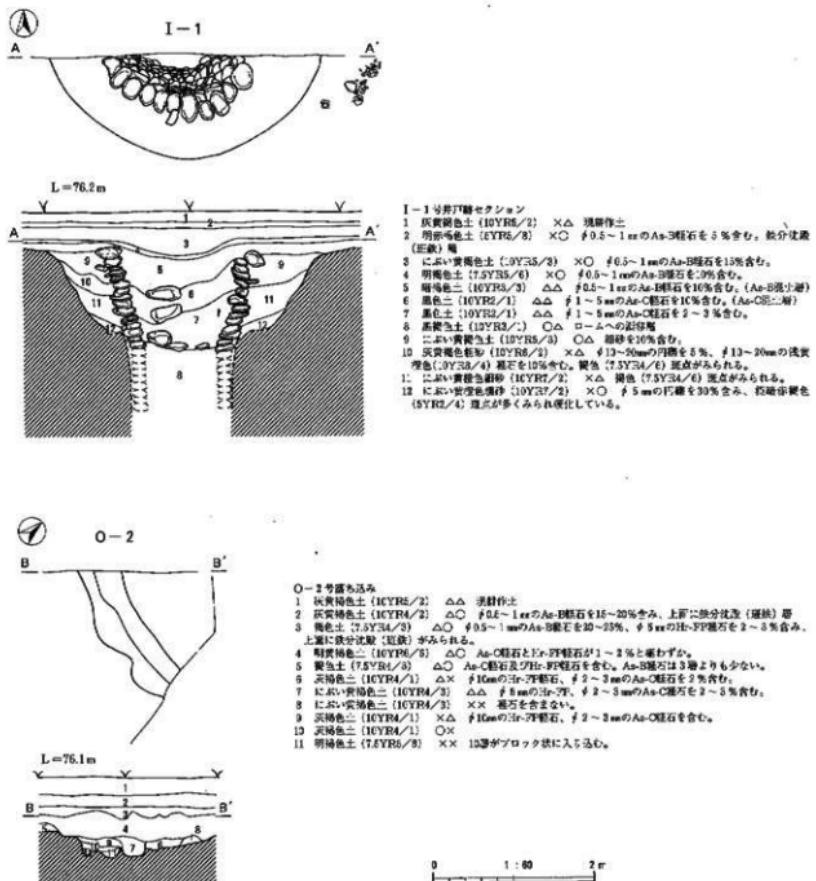


Fig.27 I-1号井戸跡、O-2号落ち込み

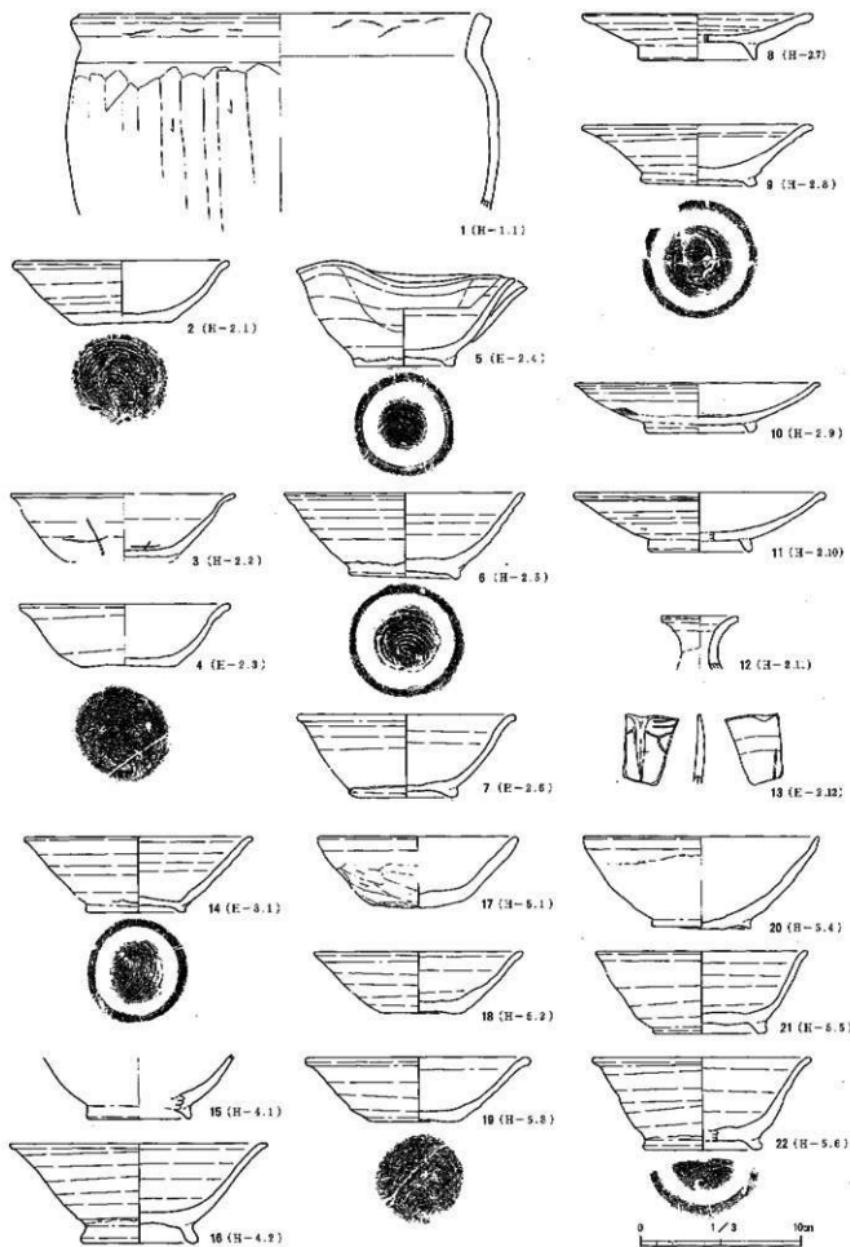


Fig. 28 H-1 ~ H-5号住居跡出土土

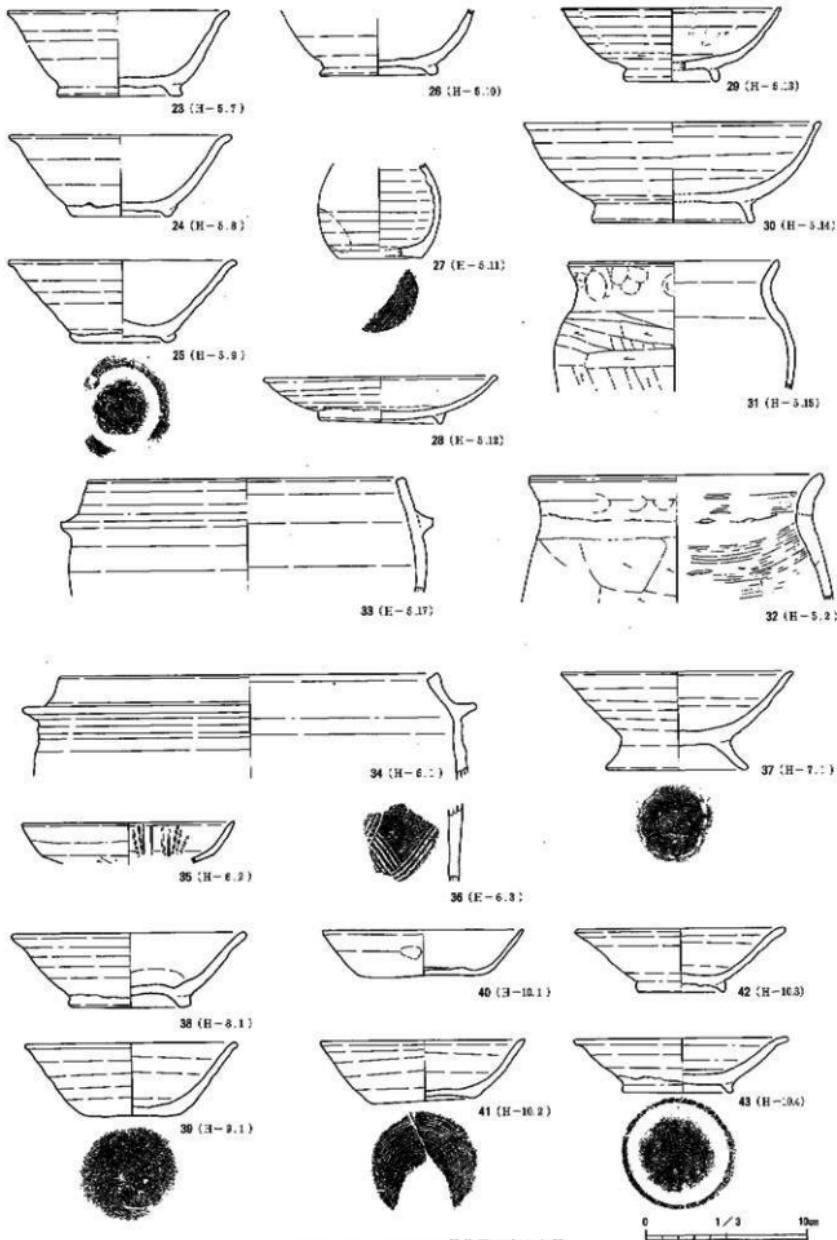


Fig. 29 H - 5 ~ H - 10号住居跡出土土器

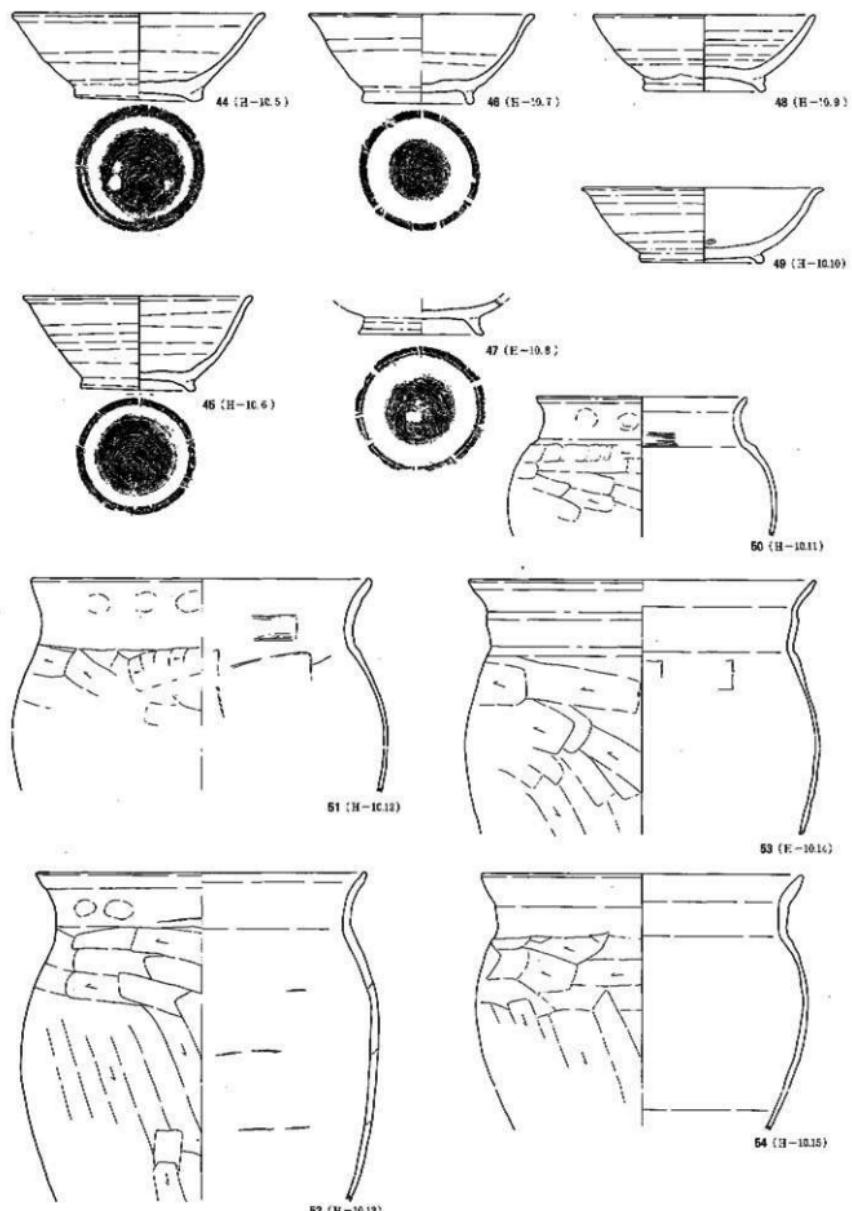


Fig. 30 H-10号住居跡出土土器

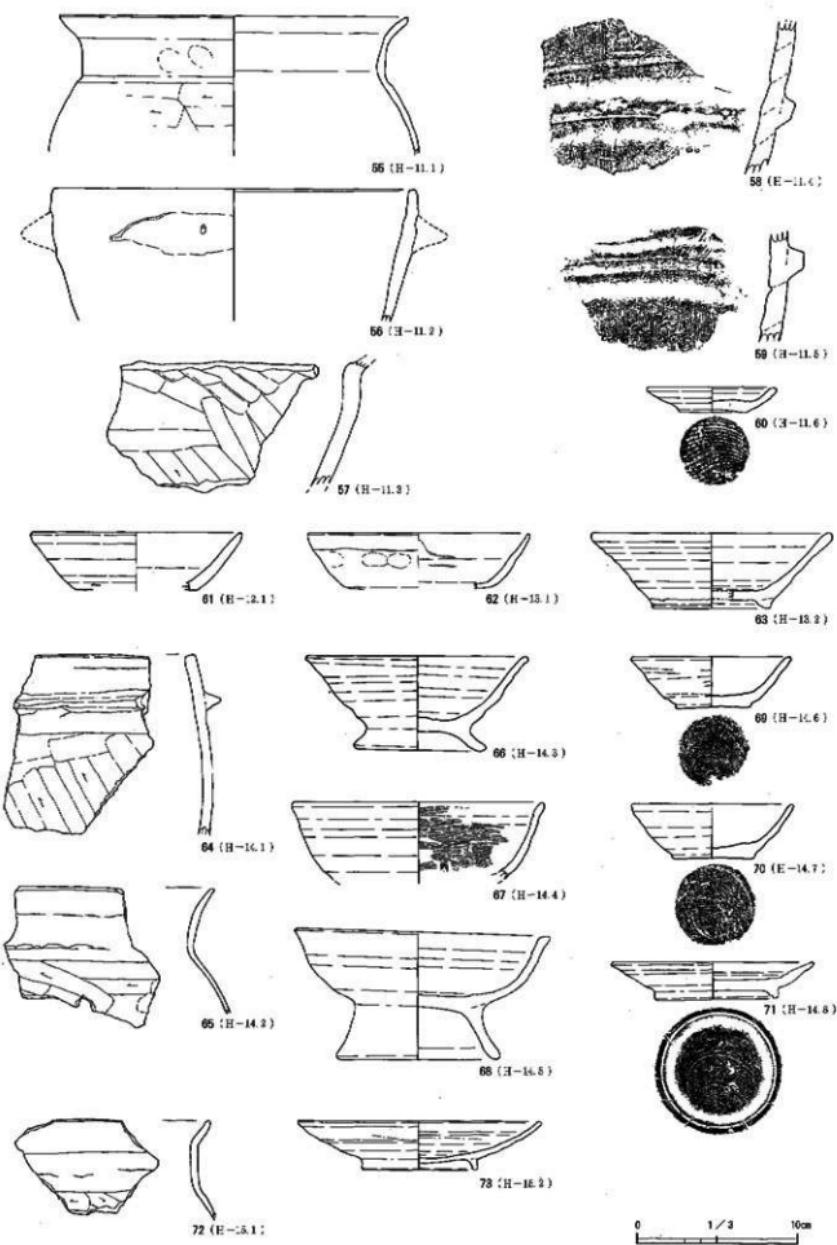


Fig. 31 H-11~15号住居跡出土土器

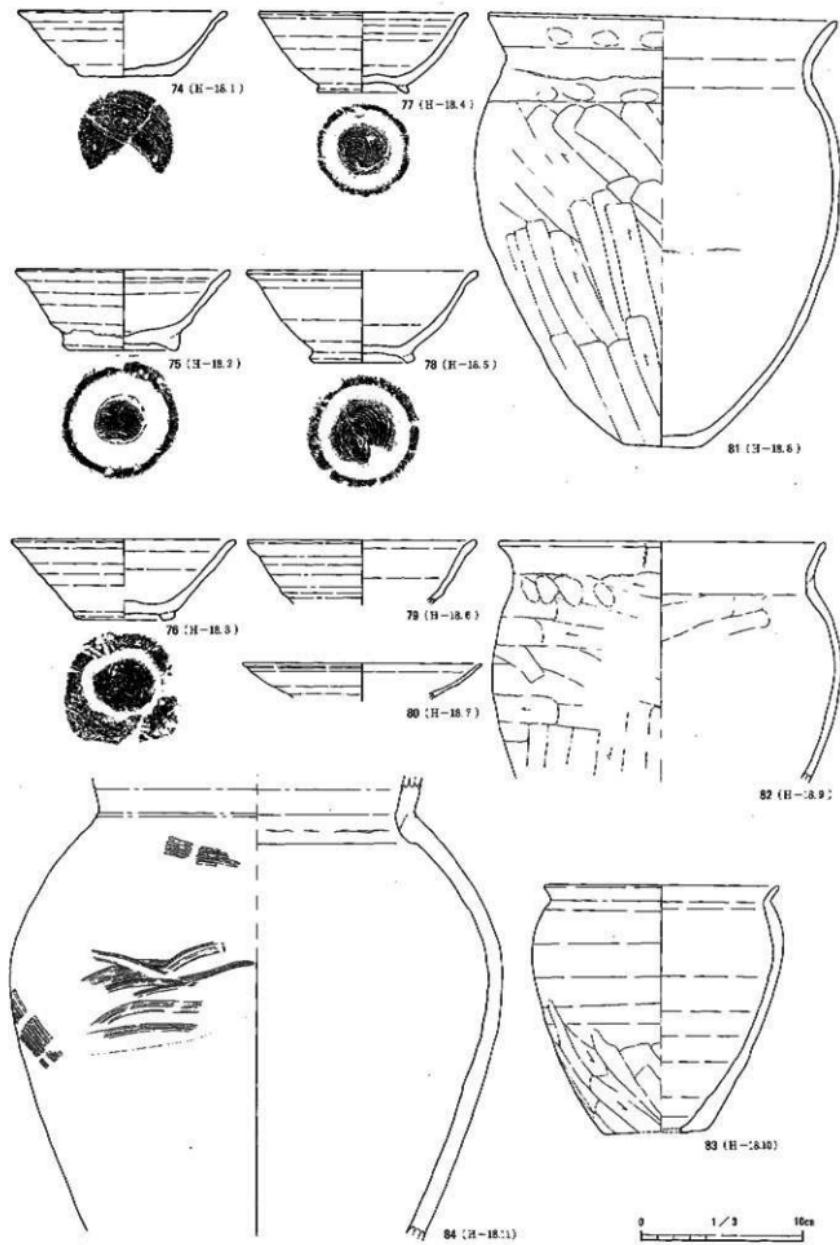


Fig. 32 H-18号住居跡出土器

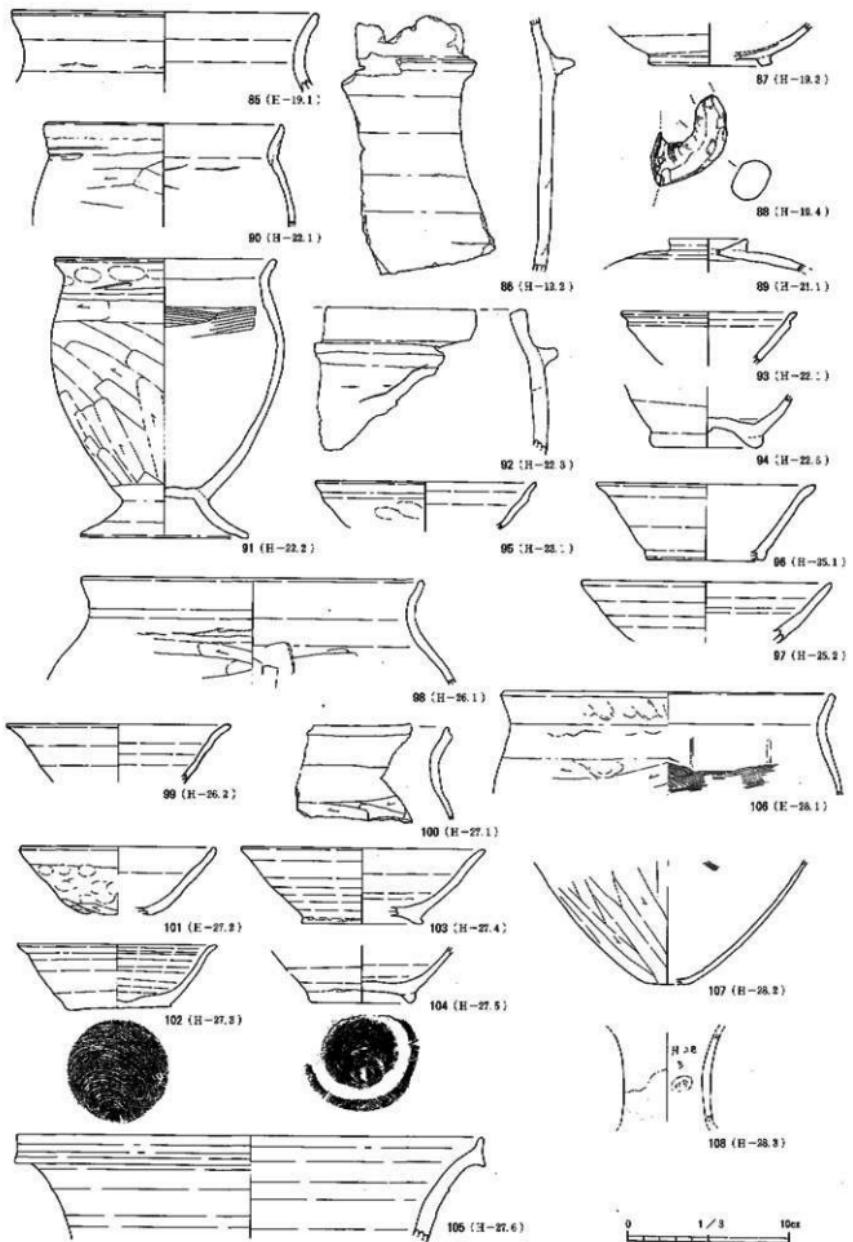


Fig. 33 H-19~28号住居跡出土土器

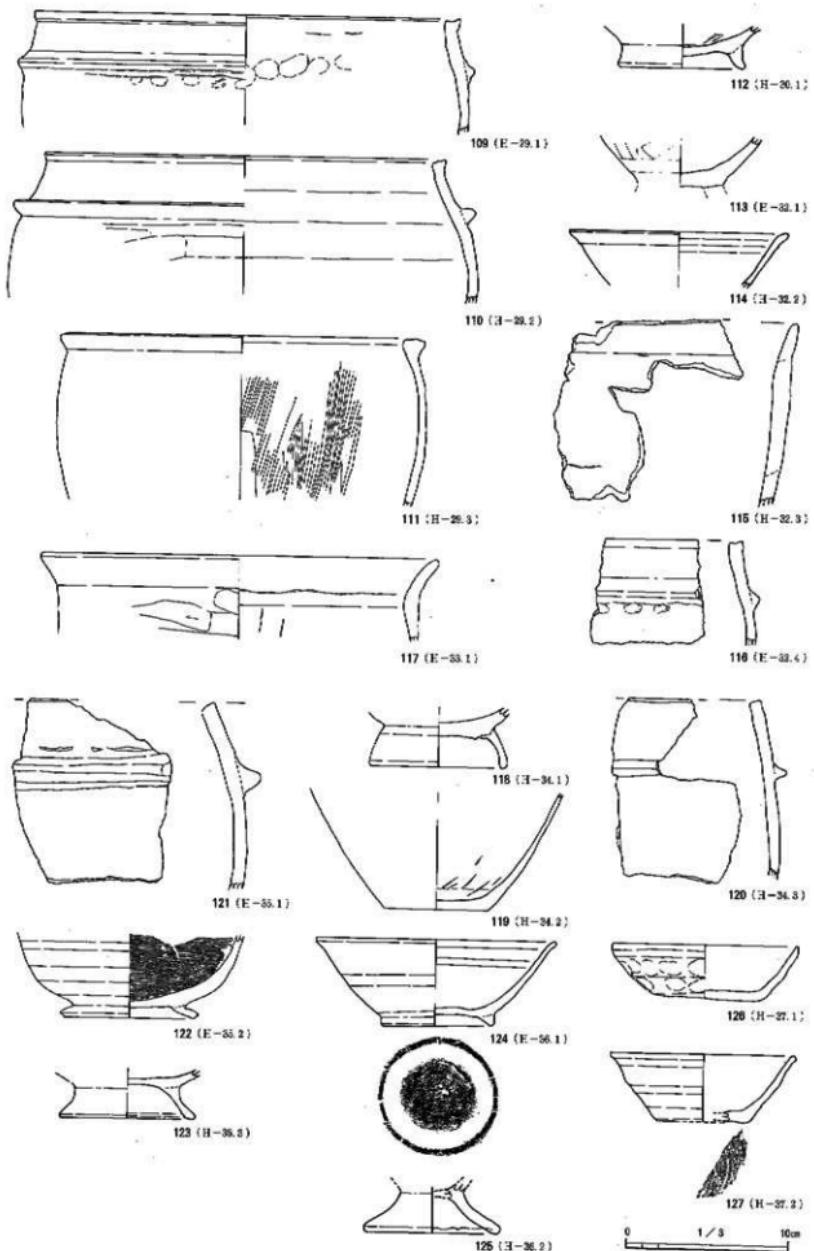


Fig. 34 H-29~37号住居跡出土土器

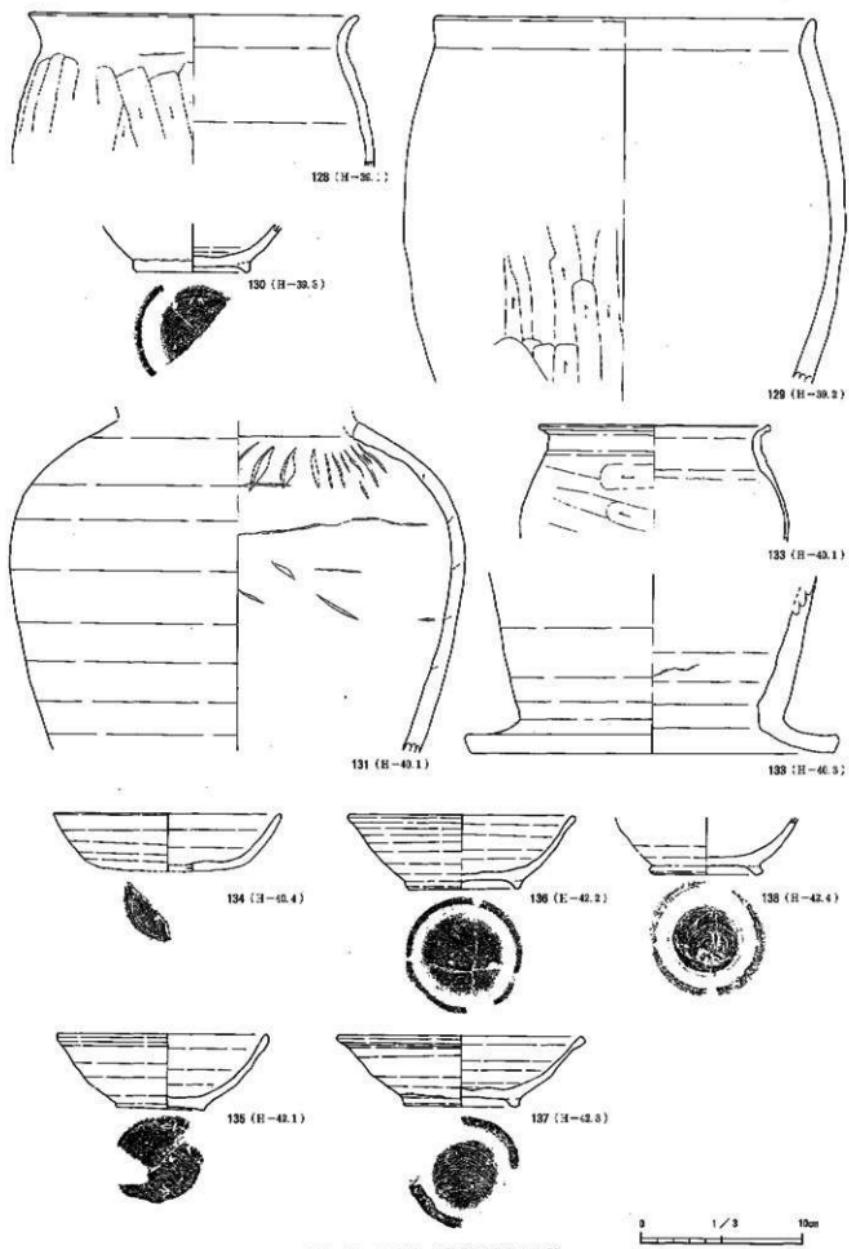


Fig. 35 H-39~42号住居出土土器

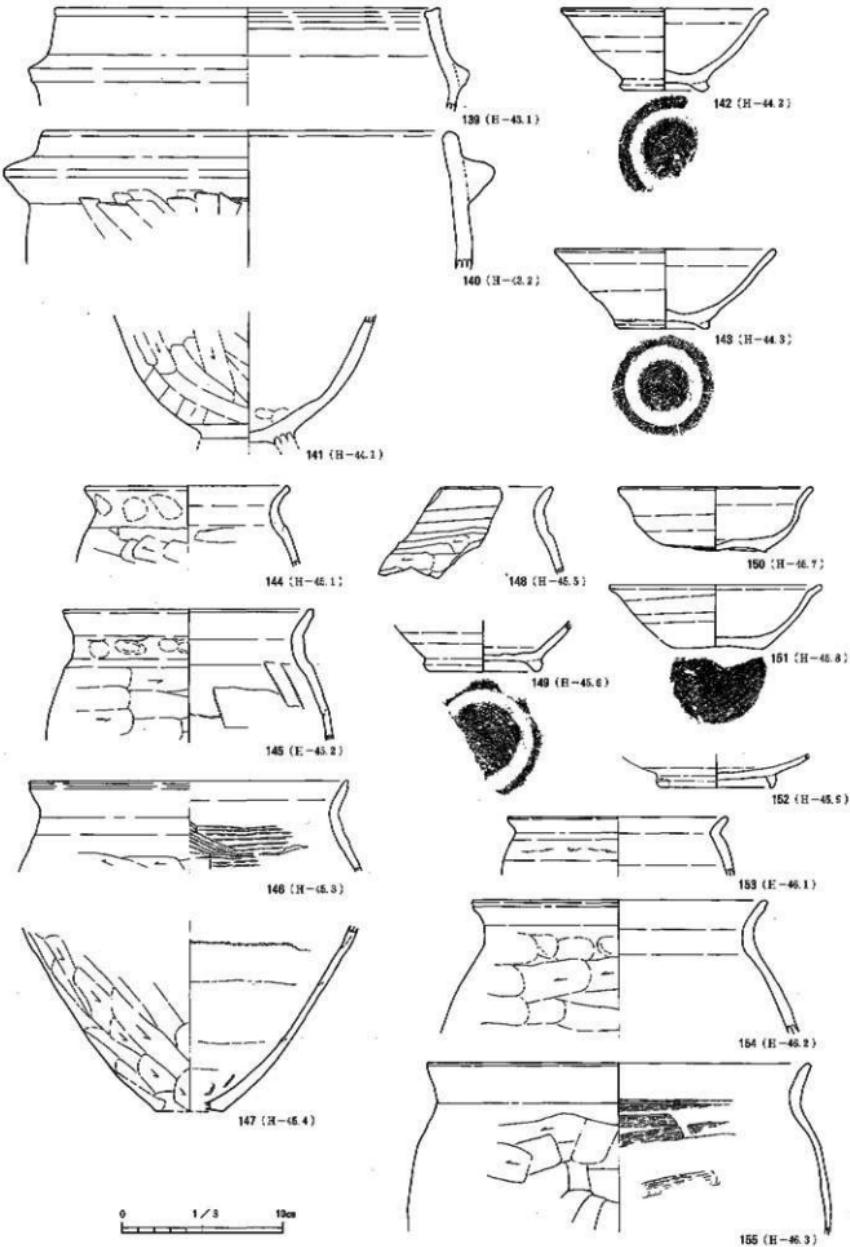


Fig. 36 H-43~46号住居跡出土土器

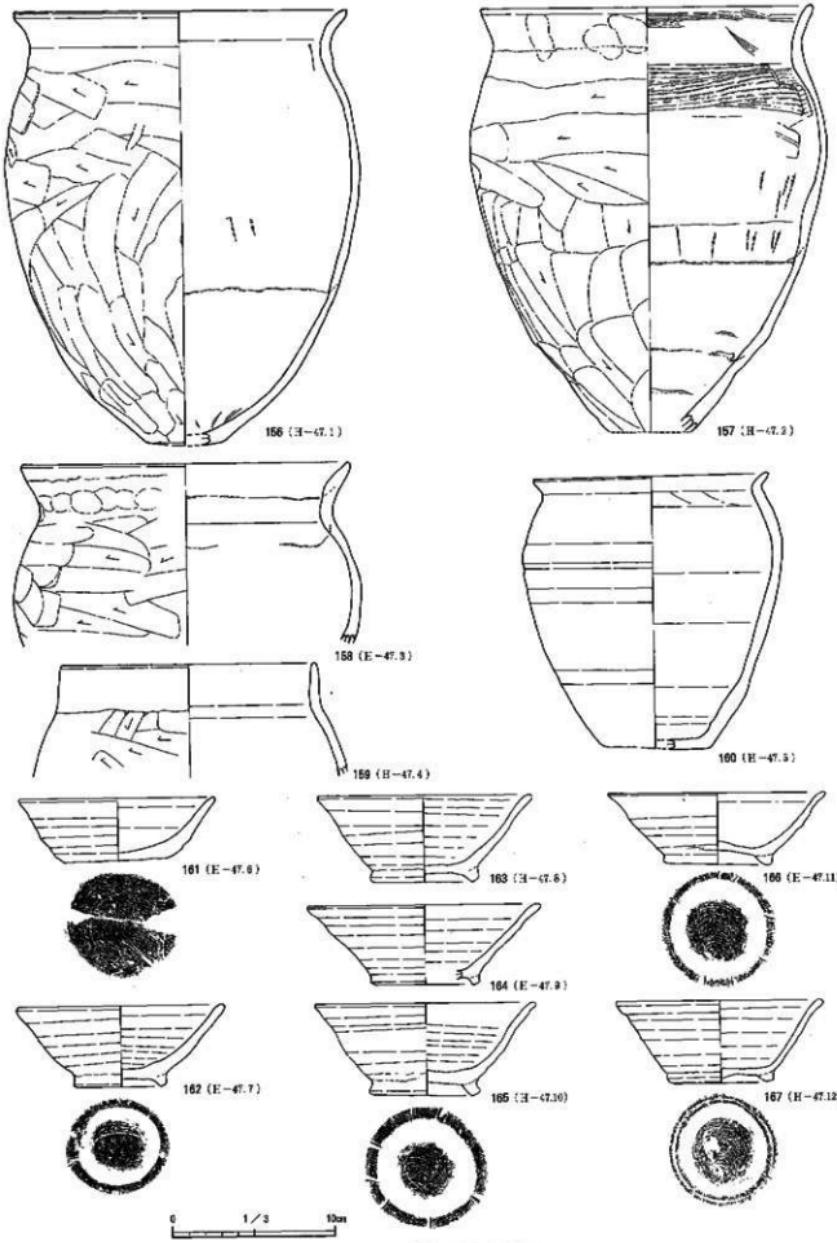
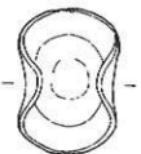
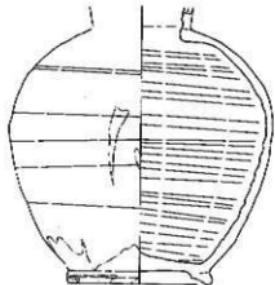


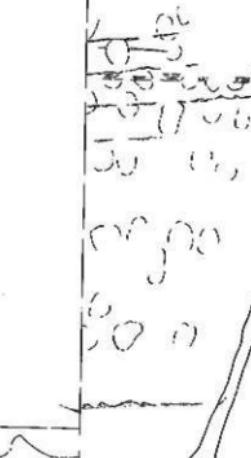
Fig. 37 H-47号住居跡出土土器(1)



168 (E-47.13)



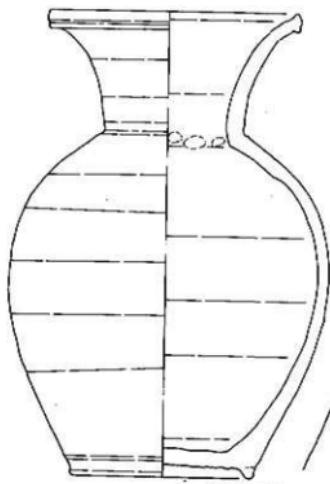
169 (E-47.14)



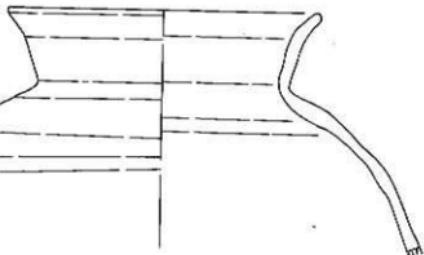
171 (E-47.15)



172 (E-47.17)



170 (E-47.15)



173 (E-47.18)

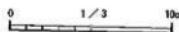


Fig. 38 E-47号住居跡出土土器(2)

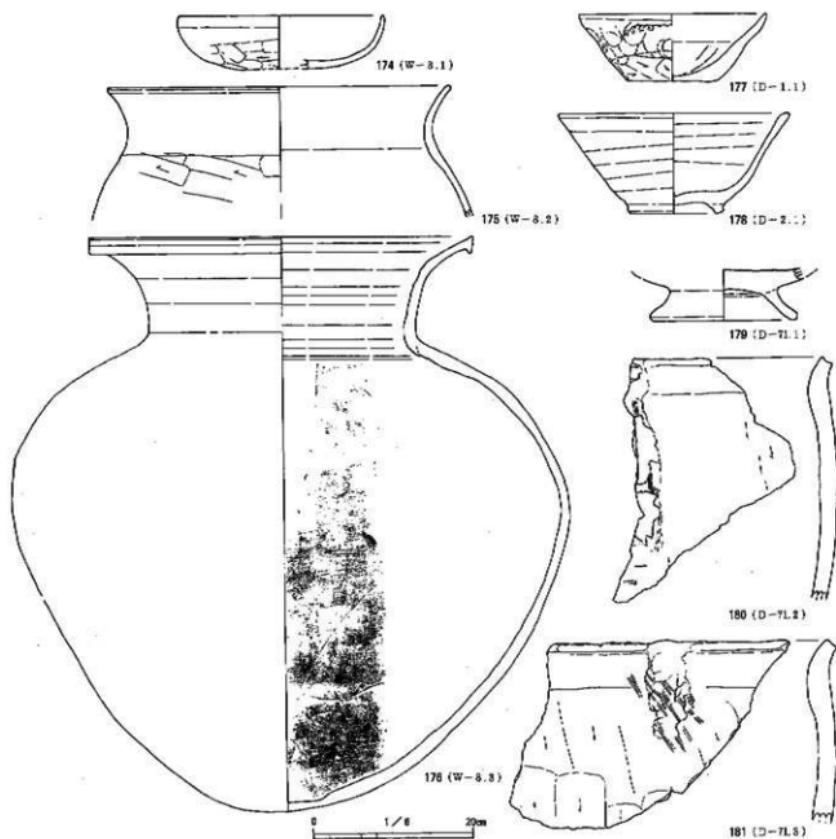


Fig. 39 W-8号溝跡、D-1、72号土坑、I-1号井戸跡、X-1号土器窯出土土器

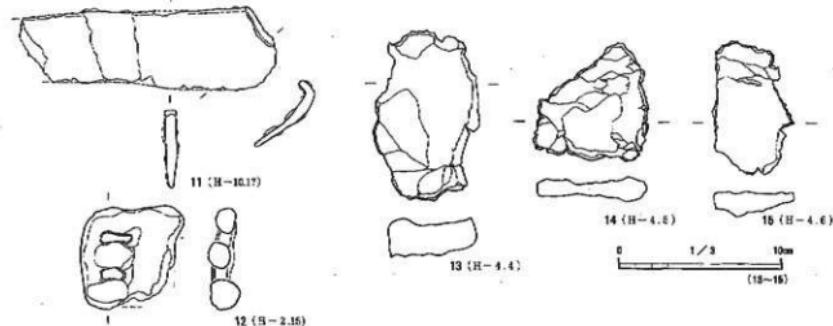
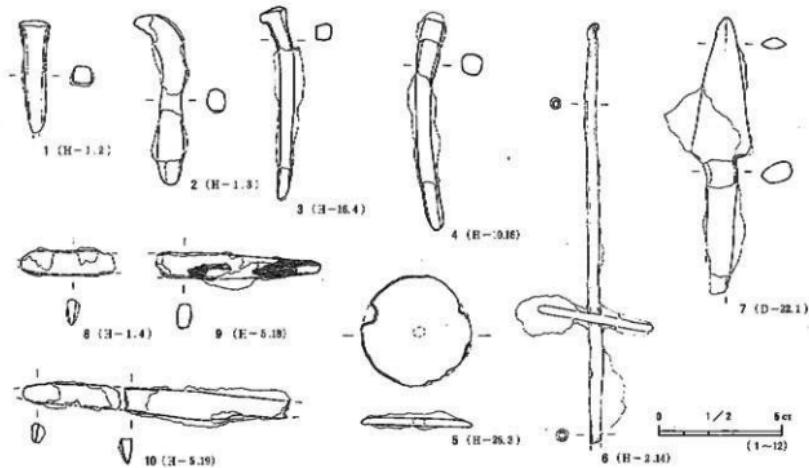
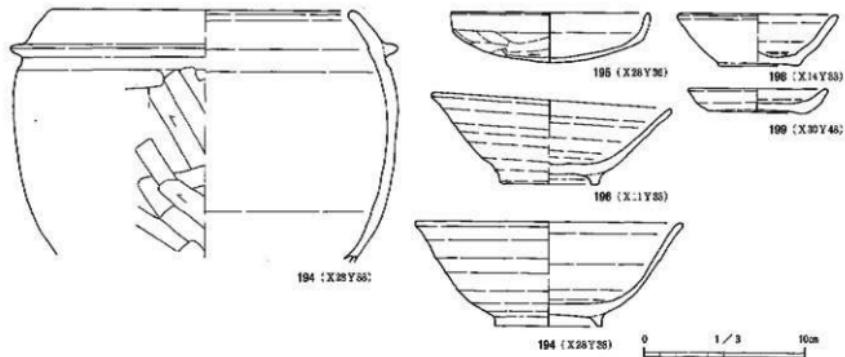


Fig. 40 グリッド出土土器及び出土鉄

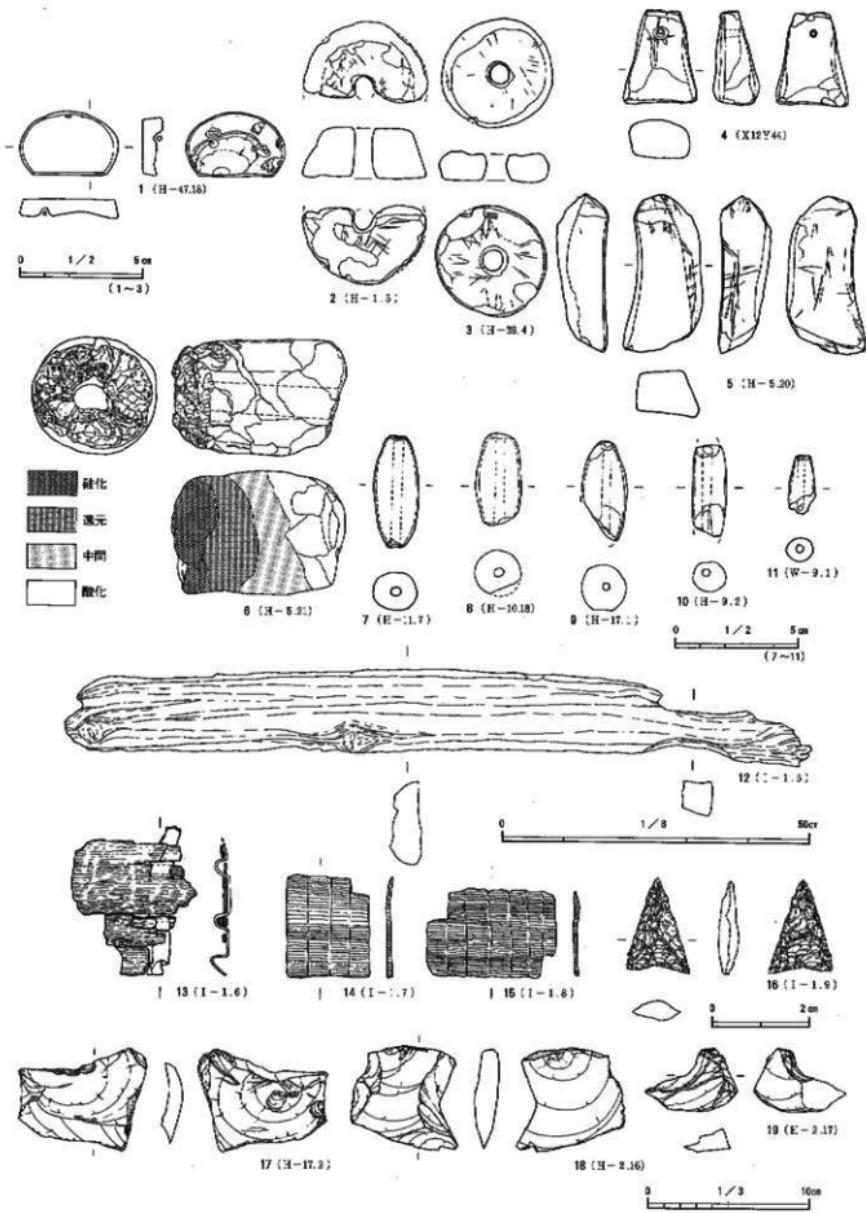


Fig.41 石製品、木製品、特殊遺物など

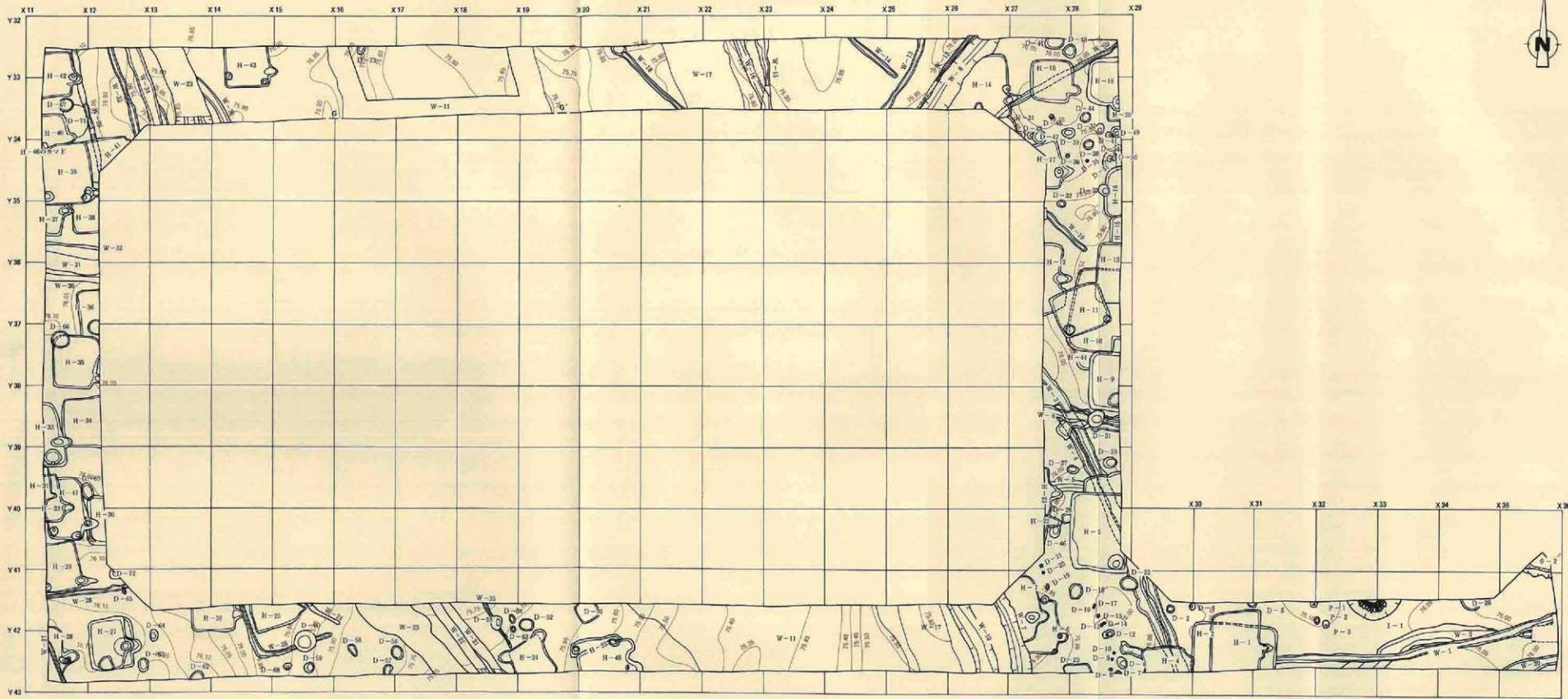


Fig.42 前田V遺跡 全体図

1 : 200
0 10m



H-1号住居跡全景（西から）



H-1号住居跡全景（北から）



H-1号住居跡遺物出土状況（西から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡鐵製紡車出土状況（南西より）



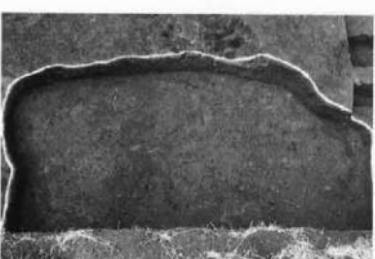
H-3・22号住居跡全景（南から）



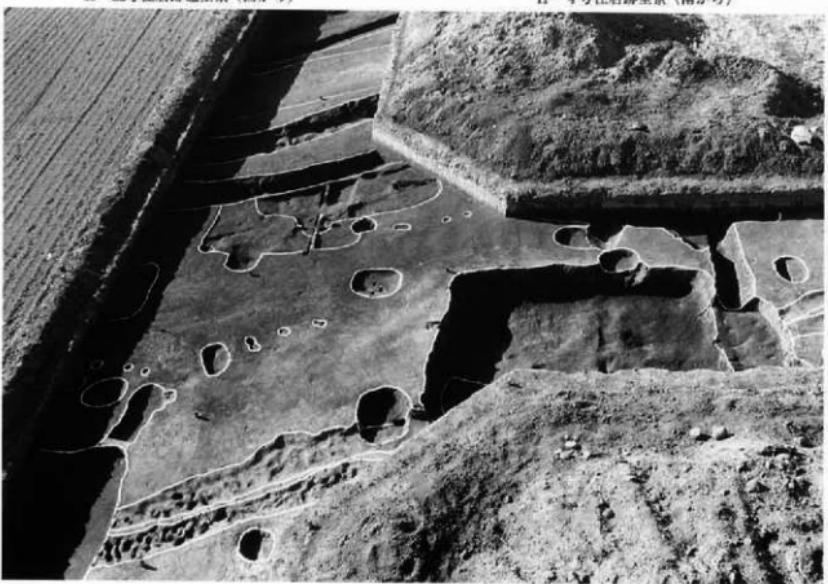
H-3号住居跡全景（西から）



H-22号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡全景（南から）



H-5号住居跡周辺（東から）



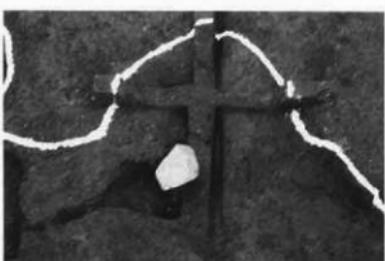
H-5・8号住居跡全景（西から）



H-6・7号住居跡全景（北西から）



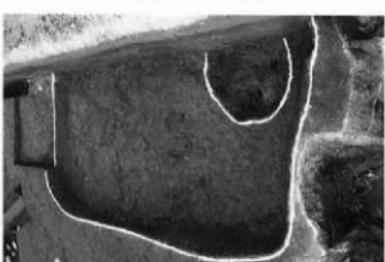
H-6号住居跡全景（西から）



H-7号住居跡全景（西から）



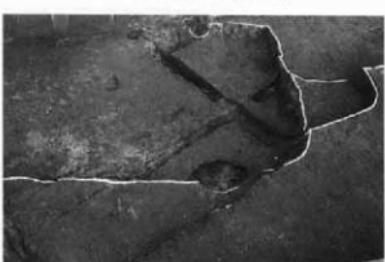
H-11号住居跡周辺（東から）



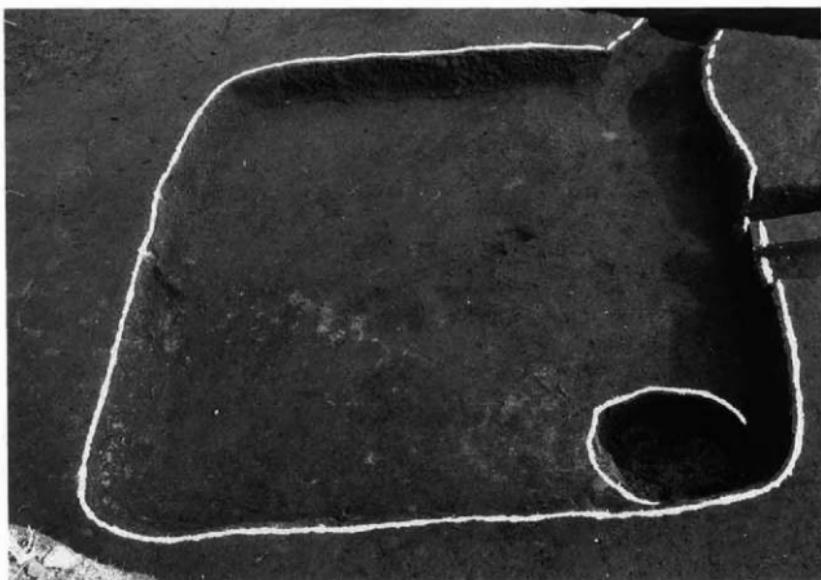
H-9号住居跡全景（南から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-9・10・44号住居跡の重複（西から）



H-11号住居跡全景（西から）



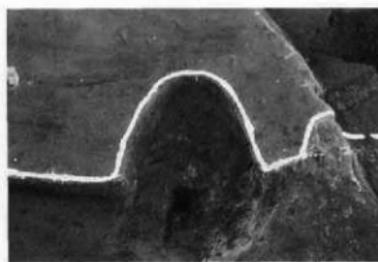
H-11号住居跡セレクション（西から）



H-11号住居跡石出土状況（西から）



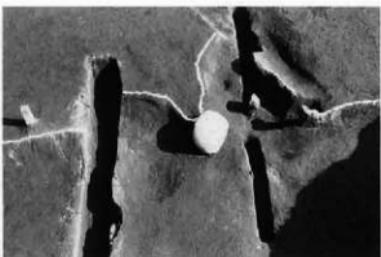
H-12号住居跡全景（西から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-13号住居跡全景（南から）



H-14号住居跡の2つの窓全景（西から）



H-14号住居跡の焼土、炭化物出土状況



H-14・21号住居跡全景（北から）



H-14号住居跡綠釉皿出土状況（西から）



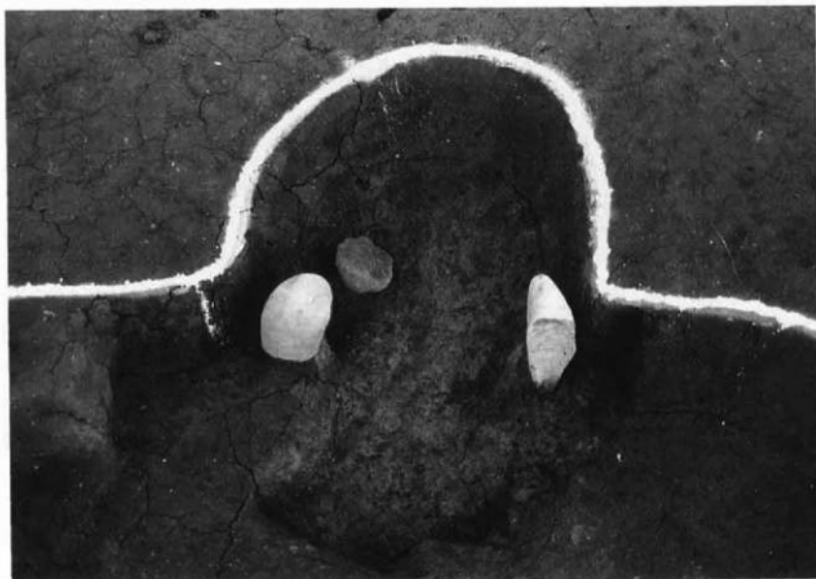
H-15号住居跡全景（南から）



H-16号住居跡全景（南から）



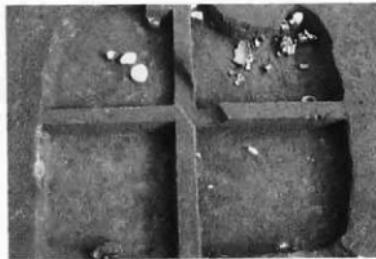
H-17号住居跡全景（北から）



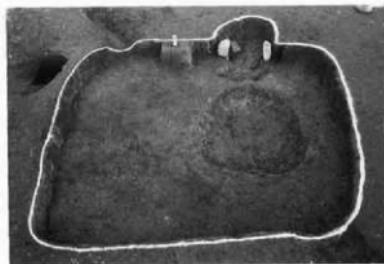
H-18号住居跡全景（西から）



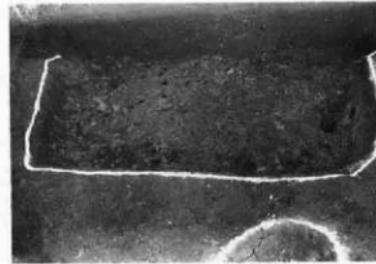
H-18号住居跡の遺物出土状況（西から）



H-18号住居跡遺物出土状況（西から）



H-18号住居跡全景（西から）



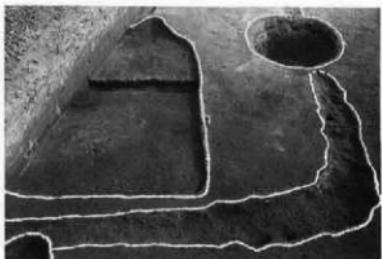
H-19号住居跡全景（西から）



H-23・45号住居跡全景（西から）



H-24号住居跡全景（北から）



H-25号住居跡全景とその周辺（西から）



H-25号住居跡全景（西から）



H-26号住居跡全景（西から）



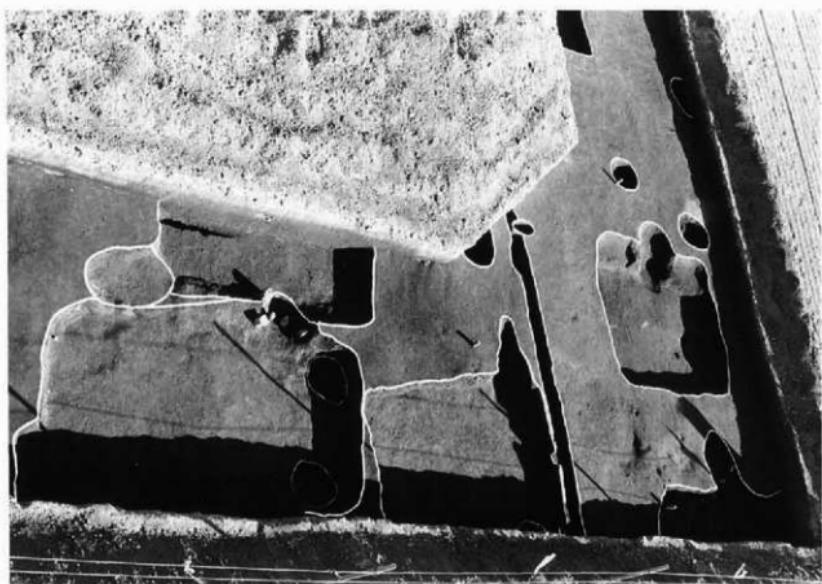
H-26号住居跡全景（西から）



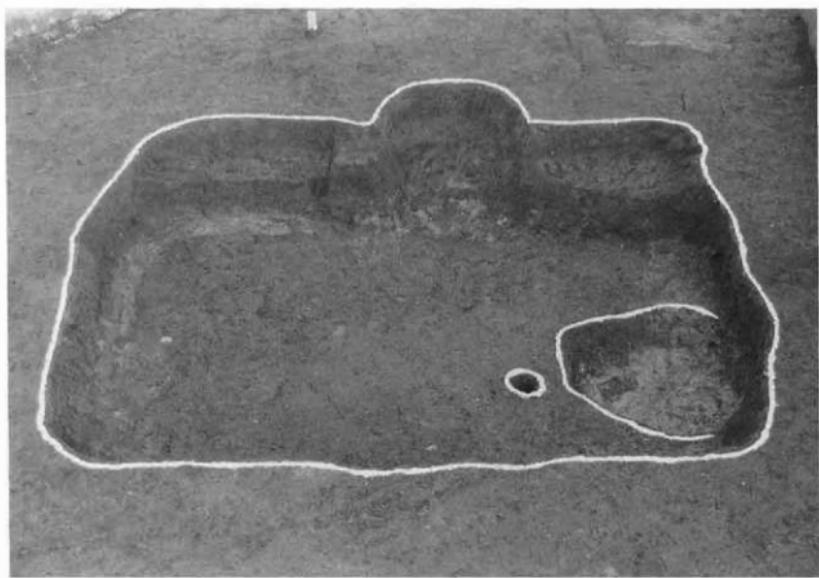
H-29号住居跡全景（西から）



H-29号住居跡全景（西から）



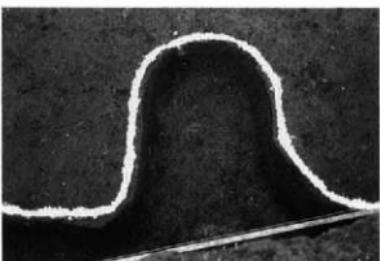
H-29号住居跡周辺（北西から）



H-27号住居跡全景（西から）



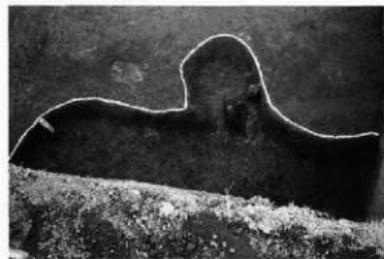
H-31号住居跡全景（西から）



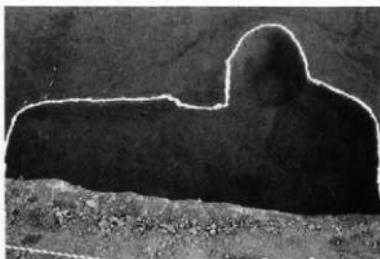
H-31号住居跡全景（西から）



H-28号住居跡全景（西から）



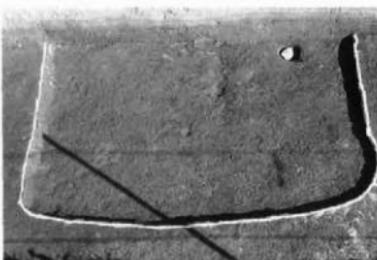
H-28号住居跡全景（西から）



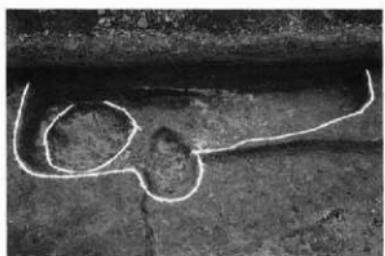
H-32号住居跡全景（西から）



H-33・34号住居跡の重複（西から）



H-34号住居跡全景（西から）



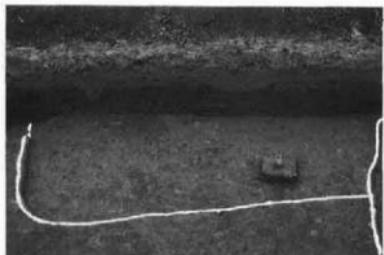
H-33号住居跡全景（東から）



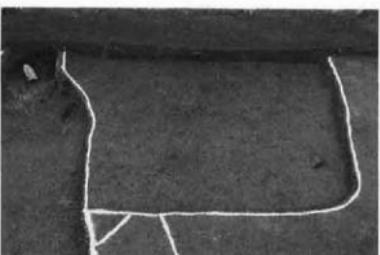
H-33号住居跡全景（西から）



H-35号住居跡全景（西から）



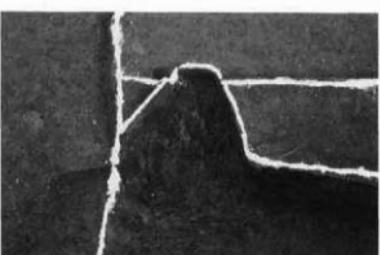
H-36号住居跡全景（西から）



H-37・38・39号住居跡の重複（西から）



H-37号住居跡全景（西から）



H-37号住居跡全景（西から）



H-39号住居跡全景（西から）



H-39号住居跡全景（西から）



H-41号住居跡全景（西から）



H-40号住居跡全景（西から）



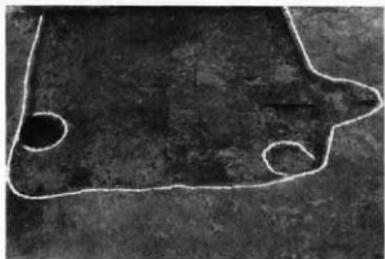
H-40号住居跡全景（西から）



H-42号住居跡全景（西から）



H-42号住居跡全景（西から）



H-43号住居跡全景（南から）



H-43号住居跡全景（西から）



H-47号住居跡南側遺物出土状況（南西から）



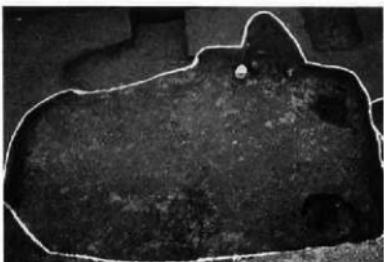
H-47号住居跡北側遺物出土状況（西から）



H-47号住居跡貯蔵穴遺物出土状況（北から）



H-47号住居跡の遺物出土状況（西から）



H-47号住居跡全景（西から）



W-1・2、I-1周辺（北から）



W-5号溝跡全景（東から）



W-7・10・17号溝跡全景（東から）



W-8号溝跡全景（南東から）



W-8号溝跡須恵器甕出土状況①（南東から）



W-8号溝跡須恵器甕出土状況②（南東から）



W-13・14号溝跡（南東から）



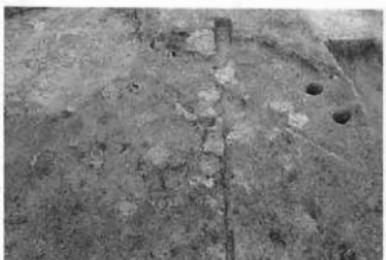
W-18号溝跡と溜井（南東から）



H-39号住居路周辺（北西から）



D-71号土坑全景（南から）



D-71号土坑（南から）



D-71号土坑（東から）



I-1号井戸跡全景（南から）



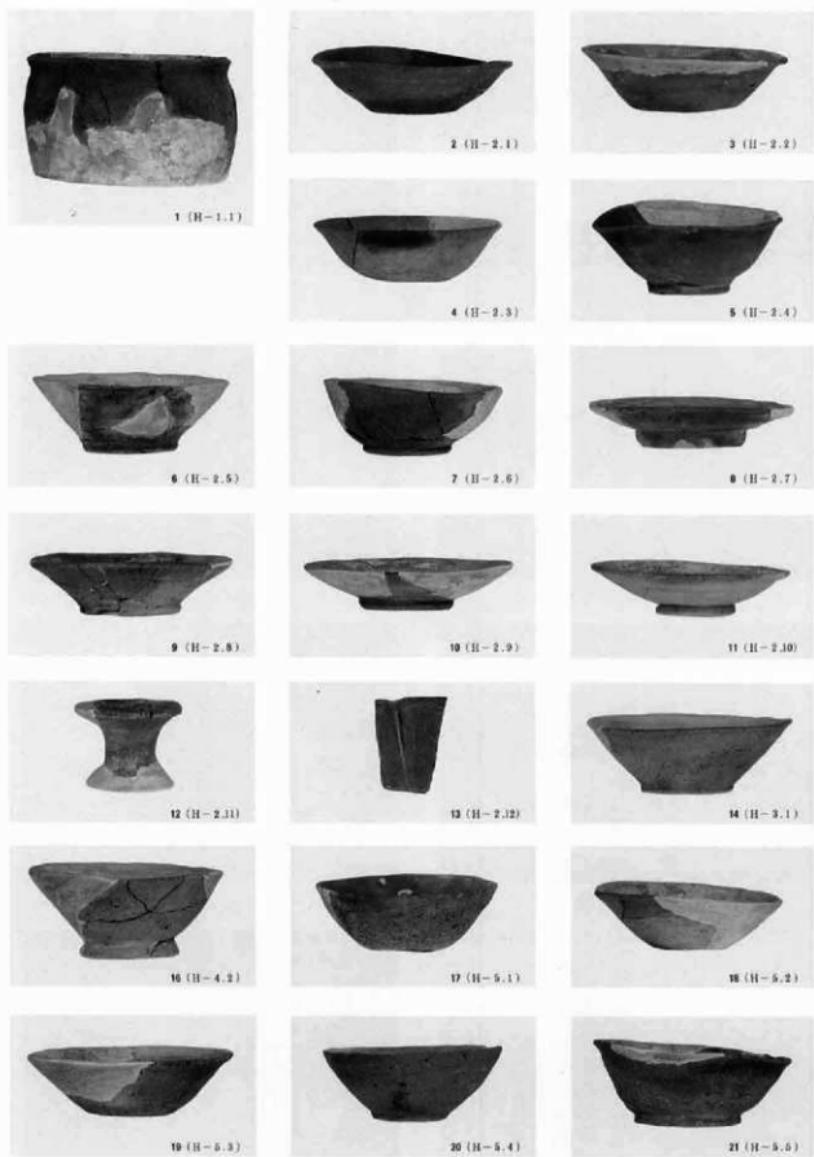
I-1号井戸跡の石組み（東から）



I-1号井戸跡石組みとセレクション（南から）



土器溜まり（南から）





22 (H - 5.6)



23 (H - 5.7)



24 (H - 5.8)



25 (H - 5.9)



27 (H - 5.11)



29 (H - 5.12)



26 (H - 5.13)



30 (H - 5.14)



31 (H - 5.15)



32 (H - 5.16)



37 (H - 5.1)



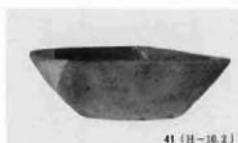
38 (H - 5.1)



39 (H - 9.1)



40 (H - 10.1)



41 (H - 10.2)



42 (H - 10.3)



43 (H - 10.4)



44 (H - 10.5)



45 (H - 10.6)



46 (H - 10.7)



48 (H - 10.9)





78 (H-18.5)



81 (H-18.8)



82 (H-18.9)



84 (H-18.11)



85 (H-22.2)



83 (H-18.10)



90 (H-22.1)



119 (H-34.2)



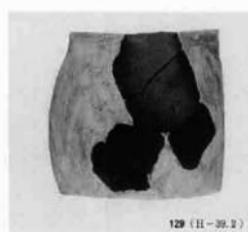
124 (H-36.1)



126 (H-37.1)



128 (H-39.1)



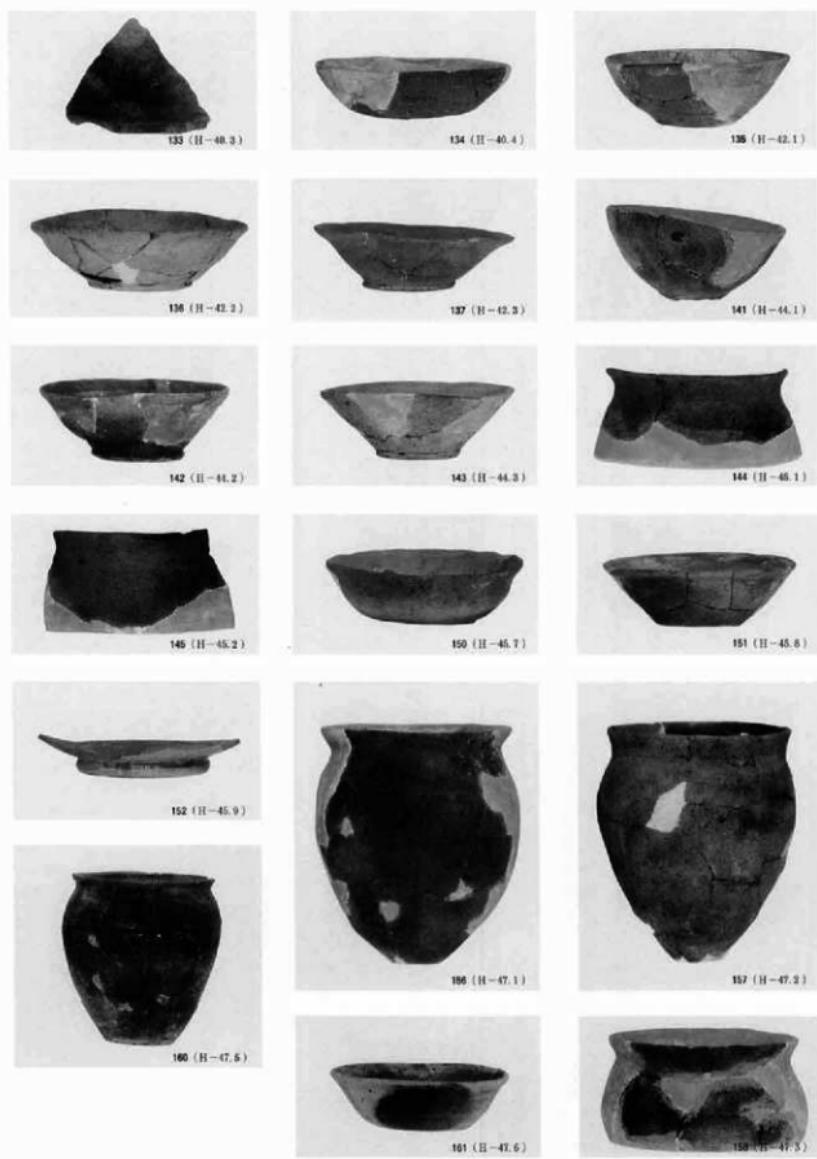
129 (H-39.2)



131 (H-40.1)



132 (H-40.2)

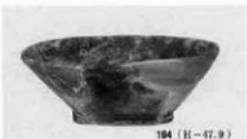




162 (H—47.7)



163 (H—47.8)



164 (H—47.9)



165 (H—47.10)



166 (H—47.11)



167 (H—47.12)



168 (H—47.13)



169 (H—47.14)



170 (H—47.15)



171 (H—47.16)



172 (H—47.17)



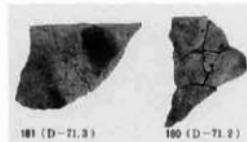
173 (H—47.18)



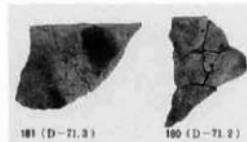
174 (W—8.3)



175 (D—3.1)



176 (D—71.3)



177 (D—71.9)



186 (X-1.1)



187 (X-1.2)



188 (X-1.3)



191 (X-1.6)



189 (X-1.4)



190 (X-1.5)



185 (X38Y36)



195 (X11Y33)



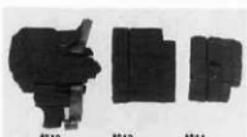
196 (X30Y41)



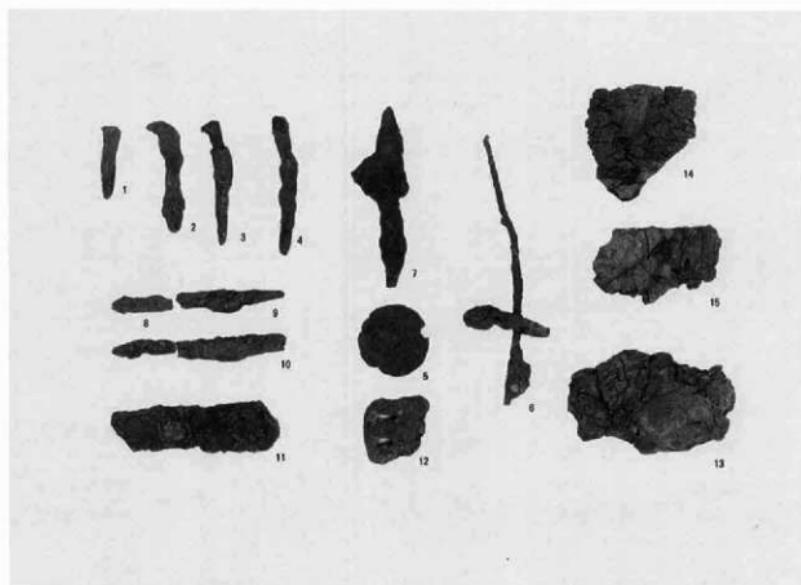
198 (X14Y33)



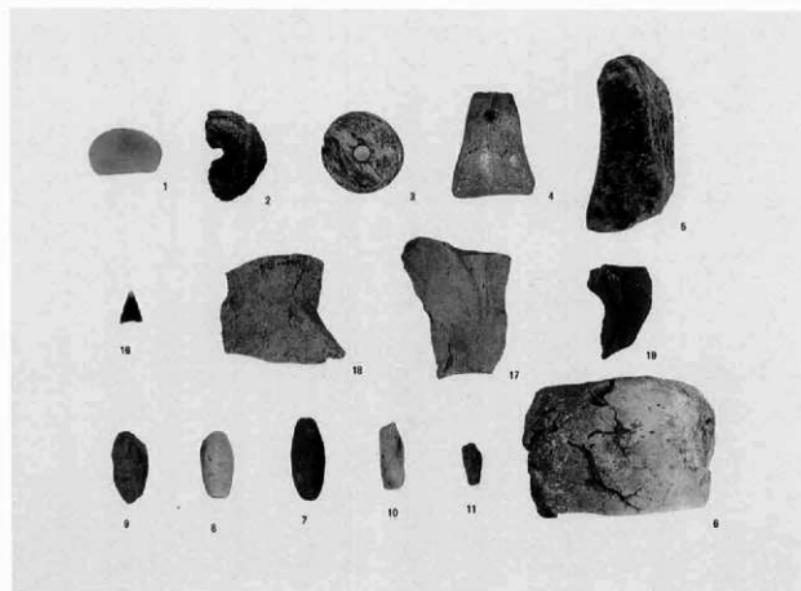
199 (X30Y46)



{1-1}



鐵 器



石製品・木製品・特殊遺物

抄 錄

フリガナ	マエダゴイセキ
書名	前田V遺跡
副書名	東善住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木一敏・山口宗男・吉沢貴
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
所在地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	西暦2000年3月24日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
マエダゴイセキ 前田V遺跡	マエシナカウマチ 前橋市中内町	10201	11G41	36° 20' 16"	139° 07' 56"	1999.1.04 ~ 1999.12.16	1,428m ²	東善住宅団地 拡張造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			備考
前田V遺跡	集落跡	平安時代	住居址47軒	溝址36条 土坑73基他	土師器	須恵器	灰釉 陶器他	なし

前田V遺跡

2000年3月15日 印刷

2000年3月24日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目10-2

印刷 松本印刷工業株式会社

前橋市紅葉町1-12-3